人は、凡俗の人と一緒に居ることが出來ない。到底それには堪へ切らないで、遂に俗惡なる社會から、獨り離れて行く傾向がある。或は田園の中に行つて、百姓の間に伍すると云ふことがある。或は又山の中とか、林の中と云ふ樣な、閑靜の處に隱れる。さうして、非常に天地自然の寂寥たる所を愛する傾向が多いのである。それで友人が少ない。時によつては全く友人がない。どうも是れが天才肌の人には、通有性と言つて宜からうと思はれる。顯著なる例を出すといふと、佛陀が然うである。佛陀はもと迦比羅衞國の太子であつたけれども、どうも宮殿の內に居つて快樂に耽けると云ふことは、到底出來ない。さう云ふことは、厭らしくつて堪まらぬからして、二十九歲の時に、宮殿を出てしまつて、乞食僧になつて、六年の苦行をした。それも、山の中に這入つて、離群索居の狀態に於て、成遂げたのである。佛陀などは、餘程寂寥性を顯著に現はした人である。彼の伽耶に於て悟を開いた後も、矢張り世俗の中に還らないで、精舍などに住まつて、超世脫俗の趣味を愛したのである。それから老子なども、矢張り然うである。老子は晩年西、關を過ぎて『其の

終る所を知らず』と云ふやうに、獨り何處かに隱れてしまつた。やはり、世俗の煩はしきを避けて、飄然として世外に身を投じたのである。基督の如きも、或時は沙漠に四十日間もさまようて居つたことがある。さうして其沙漠は、惡魔が棲まつて居ると言傳へられた處である。さういふ處に獨り這入つて行つたと云ふのは、矢張り寂寥性の然らしめた所と思はれる。それのみならず、その基督は、三十歲以前のことは甚だ不明で、暗雲に閉されて居る。それも寂寥性の然らしめた所であらうかと、察せられるのである。又伊太利の詩人ペトラルカ(一三〇四年—一三七四年)の如きは、失戀の結果、アビニヨン附近のゾルギユと云ふ谷に、數年間隱遁して居つたことがある。それから彼のアルフエリー(一七四九年—一八〇三年)も、矢張り晩年過勞の結果、病身となり、憂鬱なる心的狀態に陷り、社會から獨り離れて隱遁して了つたのである。それからトルストイの如きも、ヤスヤナポリヤナに引込んで、さうして農夫の生活をして居た。その農夫の生活をするなんと云ふことが、なかなか意味があるのである。自然其物にヒタ〳〵と接近する機會となるのであつ

て、天才者の修養の爲めには、餘程効果あるものである。陶淵明が、五斗米の爲めに腰を折らずして、田園生活を喜んで『歸去來賦』を作つたなどと云ふのも、矢張り此部類に屬するのであらう。ラフカデオ、ハルン(小泉八雲)の如きは、大天才と云ふ程ではないけれども、矢張り多少天才肌の人であつた。是れが矢張り、晩年離群索居を好んだものである。とう〳〵仕舞には、全く獨りぼつちの樣になつてしまつて、人と物言ふのも厭がる樣な風であつた。大學の講義に來ても、仕舞は、何處か庭でも歩いて居つて、さうして鐘が鳴ると、初めて教場に這入ると云ふやうな風にして、教員控室などに這入らぬと云ふ程に、人を避けたものである。ショーペンハウエルなども、餘り人と交際をしない方であつた。さうして運動するのも、一人で運動するが、一番宜いといふことを言つて居る。人と一緒に運動するのは、どうも意志を左右されていかぬからして、一人が一番宜いといふ樣に、やはり寂寥性を大變喜んだものである。それから、彼のイブセンなども奇妙な人で、人と交際などを餘りしない方であつて、餘程孤獨性を喜んだ所が見える。さういふことが

一體天才肌の人に多いのである。或はまた、結婚をしないで、終身獨身で居る者が隨分ある。是れは矢張り、寂寥性が然らしめたのである。どうも結婚をして一家を成すと云ふやうなことは、うるさくつて堪まらない。マア妻子眷族のあるのが厭なのである。そこからして、獨身生活を喜ぶと云ふやうなことになる。佛陀などは、妻子があつたけれども、其れを捨てゝ獨身生活をした。基督などは、固より全く、獨身の人であつた。哲學者などには、隨分獨身の人が多いのである。例へば、デカルトであるとか、マルブランシであるとか、スピノーザであるとか、ライブニッツであるとか、ジョールダノ、ブルノーであるとか、ホッブスであるとか、それから、ヒュームであるとか、又はカント、ショーペンハウエル、スペンサーであるとか、さういふ樣な人は、皆獨身者である。併ながら獨身者がいつでも、天才者であると云ふ譯ではない。けれども天才者は、往々獨身者である。固より結婚した者の中に、天才者がないと云ふことではない。結婚しても、矢張り天才者は天才者であるけれども、併し、天才者は元來寂寥性を愛する所から、離群索居を好むのみな

らず、獨身生活を押通すと云ふやうなことが、隨分多いといふことを注意せんければならぬ。

三　虚弱性

天才者には、それは隨分體格强健の人もあらうけれども、併し虚弱性の人が、なか〳〵多いやうである。昔から才子多病などといふことを云ふが、實にそれは能く當つて居るので、天才者の中には、多病な者が隨分多い。何か病氣があるか、又は不具であるなんといふことがある。彼の生理學者のデュボアレーモンと云ふ人は、なか〳〵一種の才氣を具有して居つた人であるが、あれなどは跛であつた。ラフカデオ、ハルンは、どつちか一方の眼が硝子であつたさうである。見た所、餘程變だと思つて居つたが、後で聞けば、硝子であつたさうである。さうして、片方の眼は見えるけれども、それは僅に見えるのである。見える所が、僅に殘つて居つた位である。書物を讀むのでも、殆ど眼の所へくつゝけて讀むといふやうな風であつた。それで想像が非常に

過大になつたのである。眼では正確に物を見ることが、出來ないものだから、あとは想像で補ふ。そこで想像が非常に勝つて、物を寫し出すのに、其通りに寫すと云ふより、想像化して寫し出したものだから、何となく面白味が多くなつて來たのである。それから、彼の伊太利の詩人レオパルデー(一七九八年—一八三七年)の如き、過勞の結果、健康を損じ非常に厭世悲觀に陷つた形跡が見える。世に彼れは偃僂であつたやうに言傳へて居るが、さうであつたかも分らぬ。又彼の英國の詩人アレキサンデル、ポープは、餘程妙な形をして居つたさうである。彼れの綽名をインテロゲーションポイント(疑問點)と云うた。丁度？の樣な形をして居つたと云ふことである。歷史家のトライチュケは、聾人であつたが、塙保己一は七歳の時から盲人であつた。徂徠の門人の高野蘭亭は、詩人として有名であつたが、彼れは十七歳の時から盲目であつた。又歷史家のローマイエルは、生れた時から兩腕がない。それで書物を讀むには口で開け、扣鈕をはめるに、足の指を以てするのである。さうして又、天才者の中には本當の病氣になつた人が隨分ある。例へば、王陽明などは肺病

であつた。伊太利の詩人タッソー(一五四四年—一五九五年)は、曾てエルコーレ、ファッチーといふ人から、杖で撲られた爲めに頭を痛めて、とう〳〵精神病になつた。さうして、なか〳〵感情的であつて、永久に健康を失つたのである。それからニーッチエは、是れも精神病に罹つた。タッソーやニーッチエは、餘程ひどいのであるが、其處まで行かぬでも、隨分、オーギュスト、コントの樣に折々狂亂に陷つた人もある。それからパスカールは固よりのこと、是れも病的である。詩人のルークレチウスだの、クーパーだの、バイロンだの、皆時々狂癲の症狀を現はしたのである。それから哲學者のルーソーだの、生理學者のハレルだの、科學者のニユートンだの、文章家のスキフトだの、音樂家のドニッエッテーだの、其外ベーテル大王だの、ムハムメッドだの、イグナーッロイオラだの、皆狂癲を免れなかつたのである。それからソクラテスが、鬼神の命令によつて行動を決定するなども、奇といへば餘程奇である。さういふやうに實際精神上の病氣に罹つた人が隨分ある。ロムブロゾーに依るといふと、天才者はいろ〳〵な缺點があると云ふので、其缺點を列擧して居る。

第一に脊が低いと云つて居る。マアそれは一般ではないけれども、脊の低い天才者も隨分あるであらう。第二に不具者だと云つて居る。その不具者と云ふのは、いろ〳〵身體に缺點のある者である。第三に色が蒼白いと云つて居る。成程色の蒼い樣な、血色の惡い樣な者が隨分多い。それから第四に痩弱といふやうなことも云つて居る、どうもゲエテなどは痩弱でなかつた樣であるから、ロムブロゾーのも、さう正確には受取れぬ。中には肥滿した者がある。例へば佛蘭西のルナン抔は、なか〳〵肥滿であつた。が、ショーペンハウエルは、天才者は腹がへこんで居ると云つて居る。彼れ自身の腹がへこんで居つたものと見える。第五は吃。吃は隨分ある。韓非子が吃であつたし、また、三宅博士などは吃であるけれども、訥辯の雄辯と人が言ふやうに、一種の天才と言へば天才と言へるやうな所がある。第六に左利き。第七に子無しとある。第八に漫遊といふことを云つて居る。漫遊が好なのである。それは餘程ある。天才者といふものは、飽きッぽいので、同じ處に長く居ることが出來ない。だから、一箇所から他の處に移り變はつて行く。さうして漫遊

して、いろいろな境遇を經て行くことを喜ぶと云ふやうな所がある。賴山陽などはさういふ性質があつたし、又ラフカデオ、ハルンなども、隨分居處を變へた。ワンデルズーハト(Wandersucht)と獨逸語で云ふが、それは隨分天才者にはあるものである。第九には創作の力があると數へて居る。けれども、このロムブロゾーの列擧して居る所は、天才者に廣く共通してゐない所もあるからして、用心して取らんければならぬと思ふ。併し、虛弱性といふことは、餘程天才者に廣く當嵌まるやうに思はれる。

四　早熟性

第四には早熟性。是れは、いつでも然うであるとは言はれぬけれども、隨分多い。パスカールの早熟であつたことは、大變名高いのである。或病氣があつて――多分肺病であつたらう。さうして、三十二歳の時に精神に急に激變を來したのである。それから、レオバルデーなども早熟であつた。彼れは十六歳にして既に完全なる拉甸希臘の知識があつたと云ふことである。殊に

希臘は獨學である。つまり、神童とも云ふべき者が大變多い。神童の中には、後になつてから、さつぱり詰らなくなる者がある。けれども、天才者の中に矢張りもと神童であつた者が隨分ある。其詰らなくなつた方が、餘程初と後に正反對になるからして、人の注意を惹くのである。けれども、初神童であつたのが、後に天才者になるのは、是れは當然のやうに期待されるものだからして、それで、初の神童であつたことは、忘れてしまふ樣な傾向があるけれども、不世出の天才者は、往々やはり、初から衆に異なつた所が隨分多いものである。天才者は、早熟である爲めでもあらうか、早逝が隨分多い。バスカールだの、レオバルデーだのは、何れも四十歳で死んで居る。タッソーは五十二歳、アルフヒエリーは五十四歳、それからキエルケゴールドは四十三歳、陸象山は五十四歳、王陽明は五十七歳、賴山陽は五十三歳、是等は皆早逝である。バイロンは三十七歳、キーツは二十六歳、セレーは三十一歳、ケルネルは二十三歳、シルレルは四十七歳、是等も皆早逝である。天才者には早逝が隨分多いと云ふことを注意すべきである。

五　異常性

異常性と云ふのは、卽ち常識を外づれたやうな行動が多いのである。つまり、軌道を外づれ、埒外に出るやうなことがある。さうして、概して生活が不規則である。さういふことは、詩人、小說家、畫工、音樂師などといふ者に、隨分多い。彼の李白の行動に徵しても分る。また詩人のエドガー、ポーと云ふ人も、なか〳〵普通人と異なつた行動があつた。バイロンなんといふ人も、餘程違つた所があつた。例へば、希臘が滅びんとするのを自分自ら行つて救はうなんといふことは、餘程妙である。また、いろ〳〵輜重を持つて行つて、希臘を助けて、其爲めに熱狂して、遂に病氣に罹つて死んだ抔と云ふことは、餘程普通人と變はつた性行である。又彼の詩人のアンデルセンなんといふ人が、男子にして女子の如き感じを持つて居つたと云ふのも、餘程變なことである。

六　神秘性

不思議なことを喜ぶ。ミステリーなんと云ふ樣なことが面白い。さうして、自然天才者の思想、行動等に神秘的の痕跡が現はれて來る。さういふ神秘的の所が、あるものだからして、藝術などに現はして來ると、矢張り神秘的の痕跡が出て、其處に大變深い所が見える。で、尋常一樣のことでは詰らぬ。それでは平凡となるのであるが、なか〳〵深遠なる神秘的のものを有つて居るが爲めに、藝術となつて現はれて來るものには、自ら其深遠なる痕跡を留めてある次第である。

以上列擧した六種の通有性は、最も廣く天才に共通して居るものと考へられる。であるが、茲に更に論じて置かんければならぬことは、天才と能才の區別である。天才はジニアス、能才はタレントである。タレントを、近頃は顚才だとか、秀才だとか云ふ樣なことにも、譯する人があるが、孰れも滿足ではない。なんだか、秀才だとか顚才だとか云ふと如何にも子供らしく聞こ

えるからして、　マアそれよりは、能才と云ふことで、區別をして置かう。能才は今の樣な通有性はないのであつて、さうして天才と匹敵するほど、高い所まで行くのである。藝術でもなか〳〵立派に出來る。出來るが、どうも天才とは區別がある。天才の方は其天才者の性格が、藝術の中に現はれて來るのである。製作品と天才者の性格とが、別々にならない。どうしても、天才者の性格は、製作品の上に現はれて來る。そこが特色である。それで、餘程奇妙な特色が、製作品の上に在り〳〵と見えると云ふのが、天才者のやりかたである。それは、ひとりでに然うなつて來る。能才の方は、製作品と能才者の性格といふものが、別々である。能才者は立派であらうが、又詰らないものであらうが、それには係らない。詰らないものでも、製作品は非常に立派である。と云ふのは、性格と製作品とが別々である。是れは手腕の技倆によつて、製作したものである。それで又、なか〳〵好い處まで行ける。行けるけれども、天才者に一歩及ばぬ所が最後に起つて來る。と云ふものは、天才者の性格と云ふは、其大なるものに至つては、餘程傑出したものがある。

其傑出したる性格といふものが、能才者には缺乏して居る。尤も天才にも大天才あり、小天才ありであるからして、いつでも天才は、其大天才に限つた譯ではない。小天才に至つては、ナニ大したものではない。器が小さいだけ、見るべきものも少ないのである。併し今暫く小天才を除いて、大天才を以て大能才に較べて見るといふと、大天才の方が、一歩上である。ゲエテとシルレルと較べると、ゲエテの方が、どうしても天才でシルレルは、能才となる。又ラフハエルとミケールアンゼロとを對照すると、ミケールアンゼロは天才で、ラフハエルは能才となる。又杜甫と李白とを對照すると、李白は天才であつて、杜甫は能才となる。斯ういふ樣な區別が自から出來て來る。但それは大天才と大能才とを較べたのである。天才の小なるものは、病的のものが多くして、癖が大變著しくして、性格としても厭らしい樣な所がある。けれども、天才者である以上は、非常に偏つたことではあるが、妙なものが出來て來る。つまり尋常一樣でない製作品が、出來て來る。それが、大天才になるといふと、餘程傑出したる特色ある製作品が、出來て來るものだからして、萬衆の

目を驚かすと云ふやうなことになつて來る。それからして孔子の如き人は天才者であるか、天才者でないかといふと、是れも天才者であると思ふ。啻に天才者と云ふのみでない、實に大天才であると思ふ。併し病的の小天才の如きものではない。孔子もなか〳〵感情的で、餘程極端に馳せようとする傾向はあつたけれども、自分で能く調和を持ち、平衡を期して行つたから、毫も一方に偏した所はない。それで、天才者の通有性も、備はつて居らぬやうであるけれども、併し非常な偉大なる所が無論あつて、天才以上の大天才と云はなければならぬ。

聖人と豪傑

一　世界的聖人と世界的豪傑

聖人と豪傑とを對照して、其異同を研究すると云ふ事は、隨分趣味のあることである。啻に趣味のあるのみならず、修養上から見ても、決して裨益の少くない事である。此事に就いて、少し考へた事があるから、其要點を擧げて論じて見よう。

先づ聖人と云ふものは、吾々が曾て『聖人論』に於て論じたやうに、人類の歴史に於て、最も傑出したる崇高なる、人格を指して云ふのであつて、今日の所では、超絶的聖人と見るべきは、佛陀と耶蘇であつて、是に對して世間的聖人と見るべきは、孔子とソクラテスである。それで茲には、主に世界の四聖を聖人の適例として論ずるつもりである。それから豪傑と云ふものは、是れ亦古今の歴史に少なくないのである。其の最も偉大なる者を擧ぐれば、吾國に於いては、豐太閤であつて、亞細亞大陸に於いてはチンギスカンであ

らう。西洋に於ては、古代ではアレキサンデル大王を以て最も偉大となし、近世に於ては、ナポレオン一世に過ぎたるものはないのである。それであるから此の四人の豪傑を適例として、聖人と對照して論じて見ようと思ふのである。今豪傑と言つたのは、英雄と云ふのと同じ事で、別に此間に區別を立てずに論ずるのである。

尤も今擧げた四人の豪傑は、何れも戰勝者である。然し、豪傑は必ずしも戰勝者と限つた譯ではない。限つた譯ではないが、暫らく此四人の豪傑に就いて論ずる事にしよう。

聖人と豪傑とを對照して見ると云ふと、其間に共通點もあり、又差異點もある。そこで、兩者を擧げて觀察して見る事が必要である。

二　兩者共通點の一、人格本位

先づ一つの顯著なる共通點を擧ぐれば、どちらも人格本位である、其人格本位と云ふのは、其の一生涯に成遂げた事が、總て人格其のものより來るの

であつて、人格を中心として考へて見なければ、解せられぬのである。さうして、其の人格本位であると云ふ所からして、其の偉大なる所が見えて來るのである。畫工、建築家其他手藝に長けて居る人が、色々な名作をやるが、さう云ふ人でも、やはり大天才となれば、人格が主となるけれども、さうばかりではない事がある。其の人格は、一向何等の顯著なる特色もなくして、さうして其の製作品は、非常に立派なものであると云ふやうな事がある。其の製作品と人格とは、殆ど密著の關係がないやうになつて居る場合がある。さう云ふ場合と、此の聖人や豪傑の場合は餘程違ふ。聖人豪傑の成した事は、悉く人格の結果として出來て居るのである。つまり、其處に共通點があると思はれる。やはり聖人も豪傑も、一種の大天才である。勿論、境遇も餘程關係する。境遇が大いに其の人格の顯現を、促すやうな事もあるけれども、併し、幾ら境遇はあつても、それに應じて顯現して來る偉大な素質がなくてはならぬのである。それで、聖人も豪傑も、非常に卓絶したる大天才と見て差支へなからうと思ふ。けれども聖人の方は、其の人格が唯だ偉大と云ふばか

りでなくして、非常に高尚な所がある。豪傑の方は、偉大は偉大であるけれども、高尚と云ふ事が缺乏して居るのである。其處に聖人と豪傑の人格の區別されて來る所が、確かにあるのである。

三　兩者共通點の二、意思力

それから其の次に、聖人も豪傑も、何れも此の意思力が強い。非常に強大な意思力を有して居るものと見なければならぬ。其の偉大なる事業を成遂げて行く事は、なみ〳〵の意思力では迚も出來ないのである。さうして豪傑と言つても、彼の豐太閤、チンギスカン、アレキサンデル大王、ナポレオン一世、是等の人は何れも戰勝者である。百戰を經來つて、赫々の功を奏した英雄である。斯う云ふ戰勝者は、やはり非常の勇氣を以て、敵に打勝つて來たのであるから、其意思力の尋常ならざる所を察すべきである。所が、聖人もやはり、戰鬪を爲す者と見て宜らうと思ふ。但し、聖人は善を代表として、邪を討ち惡を懲らすのである。敵は卽ち邪惡である。其の邪惡に向つて宣戰

を布告して出て來る。斯う云ふ態度が見えるのである。尤も孔子のやうな聖人は、決して劇しくはない。けれども、人道と云ふものを標榜して、それに基いて一世を救濟しようとして、力のあらん限りを盡した處は、確かに邪惡を根柢より除ふと云ふ、戰鬪的態度であると見て差支へない。それから佛陀の如きも同樣である。伽耶に於て一度覺りを開いた以上は、一切の衆生を濟度しようとして、四十五年間說法して廻つたのである。中々長い間の戰鬪である。さうして、孔子も佛陀も眞先きに私慾に打勝つて居る。世俗の打勝つ事の出來ない私慾を征服し來つたのである。其處らは、餘程戰鬪的態度である。實に社會の邪惡を敵として活動を始めて來るのであるから、やはり極めて平和的である中に、戰鬪的態度が充分仄見えて居ると言つて差支へない。ソクラテスに於ては、孔子のやうな工合に、邪惡に向つて戰つたやうにはないけれども、ソクラテスに於ては、智と德とが同じものであるから、虛僞に向つて戰つた所が見える。社會に虛僞が多いからして、其虛僞を粉碎して智を明らかにしようとかゝつたのは、やはり、ソクラテスの戰鬪である。最も

烈しき戰鬪は、耶蘇に於て之を見る。耶蘇はユダヤの頑迷なる權勢に向つて、顯著なる戰鬪的態度をとつて起つて來た。是等の聖人の戰鬪は、精神的戰鬪である、さうして敵とする所は、邪惡である、豪傑の敵とする所は、必ずしも邪惡と云ふ譯ではない。種々なる境遇の關係からして、敵味方と分れて來るのであつて、必ずしも邪を討ち懲らすと云ふ事に極つて居るのではない。其處は聖人と豪傑と、餘程違ふ所である。ブース大將が始めた彼の救世軍と云ふものは、戰鬪的態度が明かに現はれて居るが、敵は邪惡であるので、やはり是は精神的戰鬪である。さう云ふ精神的戰鬪をやつて、非常に偉大なる結果を生じた人が、卽ち聖人である。

四　兩者の類似點、事業の影響

それから又次には斯う云ふ類似點がある。聖人も豪傑も、偉大なる結果を生じたと云ふ事は同じである。聖人の敎へは或は、德敎となり、或は哲學となり、或は宗敎となつて、永く後世の人に感化を及ぼして行くやうな非常な

結果がある。其影響は卽ち千年二千年經つても衰へない。或は數千萬年にも及ぶかも分らぬのである。豪傑の影響も亦偉大である。中々豐太閤チンギスカンなどの影響も非常なものであるが、西洋に就いて言へば、アレキサンデル大王、ナポレオン一世の影響も亦非常なものである。豐太閤は、當に朝鮮及び支那に、非常な恐怖心を起さしたと云ふ事が、あるばかりでない。卽ち日本の國威を、海外に輝やかしたと云ふばかりでなく、日本に在つては、永く後世人の膽力を强うすると云ふやうな、非常に愉快な側がある。其他直接現れてないでも、社會に存續して居る影響は、是も亦餘程ある事と思ふ。チンギスカンの事蹟は、精細に分らぬけれども、併し是も非常なものであらう。廣く戰鬪をしたものであるから、中々關係する所は、多方面に涉つて居る。マア支那に於ては、元朝を開いたと云ふ事だけ考へても、其の影響する所の偉大なる事、少しも疑を容れる餘地がない。アレキサンデル大王の遠征の結果は、東西洋の文明を接觸せしめたと云ふ事だけ、考へても非常な事である。況や間接の影響は種々あらう。ナポレオンの戰爭の結果、歐洲各國の刷新と

なり、非常な刺激を與へたのである。それであるから、聖人も豪傑も、其の影響の偉大なる側から云ふと、餘ほど似た所がある。併ながら、其の影響の種類が違ふ、聖人の影響は、精神的であつて、後世の人類を感化し、薫陶して行くのである。永く後世人に其の精神上據る所を知らしめた。即ち、如何なる道に依つて身を立つべきか、と云ふ教訓を與へて居るのである。豪傑はさう云ふ事はない。社會に殘した影響は、それは偉大であるに相違ないけれども、精神上の教訓の如きものは、殘つて居らぬ。尤も特種の感化はある。即ち事蹟に依つて示す教訓、さう云ふ教訓はない事はない。例へば、勇氣、決心、及其の膽力、其の機先を制して進む態度、さう云ふ全體の事蹟の上に現れたる事は、それは後世人に必要なる性質である。さう云ふ教訓はあるけれども、ちやんと、聖人の傳へたやうな教訓と云ふものはないのである。それに、豪傑は又教訓にならない事蹟が澤山あるのである、さう云ふ所が、又聖人と豪傑との區別される點である。

五　兩者の差異點の一、主義

それから、次に聖人と豪傑との差異點として、尙ほ一二點を擧げて論ずる事にしよう。聖人の事業と云ふものは、雷に精神的と云ふのみでなく、其事業には、一貫したるものがある、暫らく之をリーゾンと言つて置かうっ必ず何等かリーゾンがあつて、複雜なる行動を一貫して居る。孔子の如きは、自ら明かに一貫と云ふ事を言つて居る。吾が道一以て之を貫くと斯う言つて居る。孔子の事蹟は實に複雜であるけれども、一貫の道がある、即ち仁と云ふものを實行しようとしたのである。是は思ふ通りに實行が出來なかつたけれども、併し、志は其處にあるので、天下を周遊して、是が實行を努めたのであるが、何分適當な地位を得なかつたので、其の志を果さずして退いた。そこで、之を後世に傳へようとして、六經を著はした次第である。釋迦の事蹟にも、一生を貫いて居るものがある。出家をしてから成道するまでは、道を求めたのである。併ながら、道を求めると云ふ事は、六年間を一貫して居る。

それから伽耶に於て成道した以上は、其後死ぬるまで即ち四十五年の間説法したのである。而して、印度の中央をあつちこつち周遊して、説法したのであるが、其間に一貫したる教へがあるのであつて、決して亂脈でないのである。即ち愛の實行である。又ソクラテスは、虚偽を打破つて眞理を明かにするの精神である。どうも聖人の行動には、如何に複雜であつても、それを一貫したる所のものが必ずあるのである。それを廣い意味でリーゾンと言つて置かう。兎に角道理に適つた徹底せる主義があるのである。所が、豪傑の行動に一はどうもそれがない。豐太閤の事蹟を考へて見ると、之をナポレオンに比べれば、比較的統一がある。其の事は、後に豐太閤とナポレオンと云ふ題を以て論ずるであらう。が。豐太閤は草履取から段々成上がつて百戰を經て、遂に位、人臣の榮を極はむも所に至つたのであつて、比較的統一があると言つて差支へない。けれども、何にも其處にリーゾンがある譯でない。唯ださうなつたと云ふだけで、自分が斯うしようと云うて、初めから一貫したる主義を以て、起つて來た譯でも何

でもない。唯だ僥倖にもさう云ふ工合に、運命が廻轉して來たと云ふだけの事である。チンギスカンのやつた事に、決してリーゾンがあるとは見えない。西に戰ひ東に爭ひ、あつちこつちに戰鬪をしたのであるけれども、何にも一貫したるリーゾンと云ふものは見えない。何を元來目的として戰鬪をしたのだか、どうも、其主義方針と云ふものは、明かであつたのではなからうと思はれる。又アレキサンデル大王の遠征と云ふものは、實に壯んなものである。ペルシヤを討亡ぼし印度に攻入るなどと云ふのは、中々戰勝者としては、功名赫々であるけれども、アレキサンデルにも、どうもちやんとした一定の目的があつたとは思はれぬ。初めから印度に攻入ると云ふやうな事が、あつたのでなからうと思はれる。段々ペルシヤなどに攻入つて、次第に印度に攻入るやうな事になつて來たのであつて、どうも其の行動に於て、一貫したるリーゾンなぞを發見する事が出來ない。それからナポレオンに至つては、尙更其の行動の不統一が顯著である。一且成功すれば、帝王になると云ふ事があるかと思ふと、又エルバ島に行くやうに餘儀なくされる。エルバ島から逃げ

て又偉大の權勢を得るけれども、又ウォータールーにて敗北してセントヘレナ島に流されるやうな、隨分其の事蹟に甚しい變化が見える。さうして獨逸を蹂躙し、オースタリヤと戰ひ、露國に攻入ると云ふのは、決して一貫したるリーゾンがあつてするのではない。是と云ふ初めから、ちやんと其の道理に適つた計畫をして掛つたのでなくして、色々に時局が變更して來るに隨つて、其處に適應するやうに、態度を極めて來ると云ふやうな有樣であつて、事蹟の上に現れたる不統一は餘程顯著である。其處が聖人と豪傑と非常に違ふ所であると思ふ。

六　兩者差異點の二、德義

それから其次に注意すべき事は、聖人は意思力は強大であるけれども是は善をなし惡を退ける側に於て、強大であるのであつて、其強大なる點が違ふ。豪傑もそれは強大であるが、豪傑にはさう云ふ精神的方面の崇高なる目的が、缺けて居る。それであるからして、豪傑は餘ほど人情に背いた事をやつて居

る。中々慘酷な事もある。豐太閤などは、朝廷に對して忠義の念が厚かつたし、又直接自分の仕へて居る信長などに對しても、餘ほど忠誠であつたやうに思はれるし、又友達に對しても、友情の厚かつた事もある。それで比較的良い方に思はれるけれども、それでも餘ほど、人情に背いたこともして居る。況や朝鮮征伐をやると云ふ事は、愉快は愉快であるけれども、幾千幾百の人命を失ふなどと云ふ事を、何とも思はぬと云ふやうな所がある。それに明の使者が來た時に、封冊の中に汝を日本國王に封せんとあつたからして、直ちに之を引破つて投棄てゝ、明の使者を殺さうとした事は、實に愉快であるけれども、それからして、直ちに又大兵を朝鮮に出すなんと云ふやうな事は、餘り輕卒な遣り方である。勿論、それも行掛り上、止むを得ぬやうな場合であると云へば、それもさうであるけれども、亦怒りに乘じて、雜作もなく戰爭を始めると云ふやうな嫌もある。そこらが、亂世の英雄であつて、決して聖人と同一視すべきでない。又チンギスカンの事は能く分らないけれども、是れも、あゝ云ふ戰爭をやつたのであるからして、人命などは何とも思はぬ

と云ふやうな、餘ほど野蠻的の事が多かつたに相違ない。アレキサンデル大王なども、非常な戰勝者であるけれども、實に人情に背いた甚しい事がある。例へば、自分の命を救つた恩人であるクライストなる者を酷酊した時であつたけれども、一旦の怒りに乘じて切殺したと云ふ事もある。又自分の先生として、アレキサンデル自身も崇めて居るアリストテレスの弟子でもあり、又アリストテレスの甥でもあつた、カリステネースと云ふ人を、些細な事の爲に死せしめたと云ふやうな事もあつて、中々人情に背いた事もあつた。

或は人を殺す事草の如く、何とも思はぬやうな慘酷な事が澤山ある。それから、又ナポレオンは妻として居つたジョセフィンを、子がないからと言つて離緣したと云ふ事は、悲慘は悲慘であるけれども、それ位の事は何でもない。その事は勿論人情に背いては居るけれども、ナポレオンにあつては、瑣々たる事である。中々それはどうも利己的であつて、さうしてその炎々燃ゆるが如き名譽心のために、無數の人命を犧牲にして、毫も意に介せずと云ふやうな所がある。そこらは決して聖人にはない事である。聖人はもう一人の命と

雖も、犧牲にする事はしない。不仁不義と云ふ側に於ては、一點たりとも敢てせぬと云ふ考へである。そこか聖人の聖人たる所で、人の一命を犧牲にせぬばかりでない、少しの不仁不義をも決して敢てするの念なしと云ふのが、聖人である。甚だしきに至つては、耶蘇の樣に敵をも愛せよと云ふ所まで至る。其の仁愛の廣大無邊なる點に於ては、聖人は多く一致して居るのである。固より、多少の區別はあるけれども、大體廣大無邊の仁愛の念を以て居るのが、聖人である。尤も、アレキサンデルでも、ナポレオンでも、中々良い側もあるので、決してそれを抹殺してはならぬ。例へば、アレキサンデル大王は第一戰爭上手で、ダライオスと戰つた時は、中軍に直ちに進擊して向ふと云ふやうな事で、中軍を擊破してしまつて、全軍を敗北せしむると云ふ技倆に至つては、中々非凡である。要するに戰術に長けて居る。それのみならず、唯だアレキサンドリヤのやうな町を、建てたと云ふばかりでなく、幾らも外に町を建てたが、又通商を便にし、工業を開き、色々有益な事業を興したのである。だから隨分アレキサンデルの良い側もある。ナポレオンもアレキサ

ンデルと同じく、戰術が上手で、非常に敏捷な所がある。眞に疾風の如き所がある。そこで敵兵がまだ準備を成遂げざるに當つて忽ちに攻めて來る。疾雷耳を掩ふに及ばずと云ふやうに、敏捷なる行動を取つて、攻めて來るものだから、敵兵が屢々敗北すると云ふやうな事で、それで度々勝利を得て居る。其處らは、ナポレオンの戰術に長けて居つた所である。後世の軍人の大いに學ぶべき所はあるに相違ない。さうして、ナポレオンは佛蘭西民法を制定したと云ふやうな事がある。さう云ふやうに、隨分有益な事もして居るけれども、抑豪傑の事業と云ふものは、中々道德などと云ふことは構はぬ、無數の人命を犧牲に供して、何とも思はぬと云ふやうな有樣であるから、勿論平常の道德の如きものを、眼中に措いて居る筈がない。其處が豪傑で、豪傑は缺點が非常にある。其殘酷無慘な事、さう云ふ事が一方にある、それが卽ち豪傑で、聖人と違ふ所である。聖人は決してむごい事をしない。何にか過があれば、直ぐに改めると云ふのが聖人である。

七　兩者差異點の三、精神的志望と物質的慾望

それから尙ほ一つ次に注意すべき事は、豪傑は地上に於ける慾望を遂げて居る。此點に於ては、アレキサンデルもナポレオンも同じである。チンギスカンは能く分らぬけれども、是れもさうであらう。卽ち豪傑は榮耀榮華を極めて居る。どんな寶でも得て居る。掠奪したのもある。あらゆる人生の慾望を滿たすと云ふ樣な事をやつて居る。彼等は大望心を滿たして居る。彼等は燃ゆるが如き大望心を抱いて、起つて來るのであるが、必ずしも最後まで之を滿たして居るとは限らぬ。併ながら、兎に角、一且は滿たして居る、豐太閤などは、最後に至つて益々奢つて來た所を見ると、有ゆる人生の榮華を極め、快樂を盡して居るので、餘程聖人と違ふ所が見える。聖人は決して奢らない。又奢るやうなものは、聖人でない。アレキサンデルは早死をして居る。三十二歲で亡くなつて居る。けれども、彼は其大望心を滿たして居る。滿たし得らるゝだけ滿たして居る。ナポレオンもさうである。ナポレオンも最後

にはセントヘレナ島に流されて、失意の境遇に陷つたけれども、併ながら佛蘭西の帝王になつた時は、實に人生の大望心を滿たし得られるだけ滿たして居るのである、どんな事でも出來たのである。だからして或時はインポッシブル(不可能)と云ふ事は、愚人の辭書に於て外ないと云ふ事を言つた事がある、そこらは餘ほど大望心を滿した時の事であらう。不可能と云ふ事は、勿論ある。月の世界に行くと云ふ事は不可能であつて、ナポレオンだつて出來る事でない。又海の水を呑み盡すと云ふ事は不可能である。如何にナポレオンでも、之を呑み盡すと云ふ事は、出來る事ではない。不可能と云ふ事は愚人の辭書ばかりにある譯でない。又境遇は自ら作ると云ふ事を言つた事もある。是も亦或程度までは、境遇を作る事は出來るけれども、彼がセントヘレナ島に流された時には、境遇が彼を困らせた。其島流しの境遇を一變する事が出來なかつたからして、それで分る事である。そこらは、餘程愚癡な所である。虛榮心が絶頂まで達して居るから、遂ひ其精神が暗んでさう云ふ道理に合はぬ事も言つた事があるが、兎に角、豪傑は道理に合はぬでもそれに拘らず、

私慾を滿たして居る。彼等の成遂げた震天動地の大事業も、單に彼等の私慾を滿さんが爲になしたのである。さうして、彼等は私慾を滿たしたのである。所が、聖人は其處は餘程違ふ。聖人は私慾を滿たすやうな事はやつて居らぬ。又やる事が目的でない。丸で違ふ。聖人は餘程此の世人の快樂と思ふやうなものを犧牲にしてしまつて、さうして、社會の救濟に掛つて居る。又孔子やソクラテスの如き人も、決して奢らない人であつて、誠に謙遜の態度を維持した人々である。奢るやうな事は目的でない。孔子の如きは不義にして富みと云ふのでないけれども、義に適はぬ以上は、どんな富でも何とも思はぬと云ふやうな非常に強い所がある。渴しても盜泉の水を飲ますと云ふのは、孔子の考へである。どんなに、瘦衰へようが、死なうが、不義は決してせぬと云ふ樣な、非常に堅い所がある。義に依つて立つに當つては、一命を捨てるも何とも思はぬと云ふやうな強い所がある、其處は、聖人の聖人たる所である。だからして、孔子のやうな人は、非常な損をして居る、世間の人は榮燿

榮華を極むるやうな場合でも、孔子はさう云ふ事はやらない。何處までも、道義の實行と云ふ事を努めて居る。さうして孔子は其目的を達して居らぬ。孔子の目的は私慾を滿すにある譯ではないからして、さう云ふ事は努めて居ら如。唯だ目的とする所は、仁にあるので、それを社會に實行しようとした。卽ち適當な地位を得て、仁政を施して當時の人民を救濟しようとしたのである。けれども、遂にそれは出來なかつたのである。卽ち志を遂げずして、魯の國に歸つて仕方がないから、道を後世に傳へようとしたのである。だからして孔子は志を達して居らぬ。其處が、孔子の同情を引く點である。道德の實行は、元來自己の私慾を犧牲にして掛るのであるから、それがもう既に同情を引く所であるが、それのみならず、一生の行動が失意に終つて居る。失敗となつて居る。元來良い目的を以て、有ん限りの活動を爲して、遂に目的を達しなかつた、實に氣の毒な境遇である。此の氣の毒な所と其の人格の崇高なる所と對照して考へると、孔子の後世の同情を引くのは、其の損失の程度多大なる所に、却つて存して居ると見なければならぬ。又ソクラテスの如

きは、最も不幸なる狀態に安んじて居つたと云ふばかりでなく、是は又アテンの市民の爲に、遂に寃罪を被つて牢獄に打込まれ、遂に毒を飲んで悲慘なる最期を遂げて居る。あれほどの立派な人格で、あれ程の高尙なる志を有つて居つた人を、あんな無慘な目に逢はしたと云ふのが、又非常に同情を引いて居る。左樣に不幸なる缺陷を償はうとして、同情が其處に歸して來ると云ふのは、是は自然の結果である。又佛陀に至つては、餘はど顯著なる犧牲の痕蹟が見える。何故なれば、佛陀は元來カピラヴストの太子である。ちやんと其處に居りさへすれば、遂に國王となれるのであるのに、其地位を棄てゝ乞食僧になつたと云ふだけでも、既に世の中の同情を引く所がある。さうして乞食僧になつたのも、世間の榮華を捨てゝ永久の道を別に求めたのである。其の志は極めて高尙である。此のコントラストが人の同情を引くのである。それが六年間苦行をしたのであつて、決して佛陀は、地上の榮華を求めるやうな事はなくして、もう四十五年の間、乞食僧の姿をして、廣大無邊の敎理を說法して、一切衆生を濟度しようと努力した。其事蹟を考へて見ると云ふ

と、長く後世の同情を引くやうな、實に歴史あつて以來、稀なる悲劇が演せられて居る。彼程の身分でありながら、乞食僧になつて、樹下石上如何なるものをも厭はぬと云ふやうな、其最後までの犧牲的の精神、それは實に偉大なものであつた。彼が當然有して居るものを抛ちて自ら缺陷を作つた所を、後世の同情が補なはうとするのである。彼が非常な損失をしたのが、却つて後世の福利となつて居る。勿論、其損失は佛陀の目から見れば損失でないけれども、世間の目から見れば、非常な損失である。其損失なかつせば、佛敎の後世に影響する事は、到底出來なかつたのである。耶蘇も勿論、一切地上の榮華なんと云ふものを希望した譯でなくて、さう云ふものは悉く捨てしまつて、さうして貧弱の味方となつて、活動して出て來たのである。中々崇高なる敎へを廣げて來たのである。それに其の人が不幸にして、僅か三十餘歳の身を以て磔殺せられた。ユダヤ城外のゴルゴタに於て無慘なる刑罰に處せられた。其崇高なる人格と、其無慘なる刑罰と非常な懸隔がある。卽ちインジヤステースが、尤も顯著に其處に現はれて居る。何等の罪もないと云ふば

かりでなくして、救濟の念を以て人を敎へたのに、却つて嚴刑に處せられたと云ふやうな、非常に同情を引くやうな悲慘なる事蹟が、却つて耶蘇敎の興つて來る所以であるのである。要するに、聖人は何れも志を成遂げて居らぬ。其志を成遂げて居らぬ所に、却つて後世の人が之を成遂げやうとして興つて來る原因がある。若し聖人が悉く其志を成遂げて居つたならば、却つて後世に影響する所は、少かつたに相違ない。もうそれで濟んで仕舞つて居る。それで何ものも繼續的に興つて來る必要がない、と云ふやうな事であつたのであらうが、聖人は何れも其志を成遂げて居らぬ。そこで、道義は、決して單獨に終るものではない。同時代に並立たぬでも、後から聖人の遺業を紹いで興つて來ると云ふやうな、感化力が後世に傳つて行く。それで百年千年數千年を經て、益々後繼者が世に起つて來るのである。儒敎、佛敎、耶蘇敎などの起つて來たのも、其爲めである。豪傑側からは何ものも起つて居らぬ。豪傑は唯だ物質界に權力を發展して來ただけであつて、精神的のものがない。全くないと云ふのは、ひどすぎるか、分らぬけれども非常に乏しい、或場合

には全くないと云ふても宜い。

八　修養上模範として兩者の得失

そこで聖人と豪傑の間には、共通點も幾らかない事はないけれ共、亦非常に違つた所がある。一體、聖人の敎へは何れも仁愛の敎へであるからして、仁愛の敎へを學ぶの結果は、自ら弱くなると云ふ虞れがある。尤も是は聖人が弱かつたのではない。聖人は中々皆な精神的に強い。精神の一方から言へば英雄である。卽ち精神界の大元帥である。けれども、普通にはアレキサンデル、ナポレオン等と混同されぬやうに、英雄と稱せずして、聖人と稱して居るのである。聖人自身は非常な勇氣があつたにしても、其敎へは仁愛にあるからして、後から之を學ぶ人は、自ら弱くなると云ふ傾がある。卽ち勇氣膽力と云ふものは、末派の輩にあつては、次第に缺乏して來ると云ふ傾向を免れない。そこで、其の點は、豪傑から學んで來る事を要すると思ふ。卽ち豐太閤や、チンギスカンや、アレキサンデルや、ナポレオンのやうな、震天

動地の大事業を成遂げた古今東西の英雄豪傑を學んで、偉大なる勇氣を養成し、膽力を鍛練する事が必要である。それに此の社會の生存競爭が、益々劇しくなつて來るからして、社會の大舞臺に出て活躍する爲には、萬難を排して事業を成遂げるやうな、大膽なる氣象を養成する必要がある。それで、英雄豪傑の事蹟に依つてさう云ふ氣象を養成するやうに努める事は、非常な大事な事である。けれども、英雄豪傑は甚しい缺點があるからして、若し其の長所を學ばずして、其缺點を學んだならば、非常な愚な事になるのである。長所にしても、唯だ其の勇氣膽力と云ふやうな側だけを學んで、リーゾンがなくなつたならば、非常な失敗を來たすのであるからして、やはり精神修養としては、何處までも古今東西の聖人に學ぶ所がなくてはならぬのである。

夫れ學は志を立つるより先なるはなし。志の立たざるは、猶ほ其根を種えずして徒に培擁灌漑を事とするがごとし。勞苦して成るなし。世の因循苟且し、俗に隨ひ、非に習うて卒に汚下に歸する者は、凡そ志の立たざるを以てなり。

王陽明

亂世最後の英雄豐太閤

一　織田信長

賴山陽の詩に、「亂窮まつて草莽英雄起り志大にして夷蠻肝膽寒し」と云ふことがある。實に其通りで、亂世にはよく英雄が起つて來るものである。足利氏の末には世が亂れて幾多の群雄が續々出現した。その當時は誠に戰鬪攻伐寧日なしと云ふ有樣であつたのだ。

此時代の最後に出現した英雄は織田信長と豐臣秀吉とである。當時は足利氏の權勢が尾大不掉となつて世は麻の如く亂れ、所謂自由競爭の時代となり、天下の英雄は各力にて相爭ひ、自ら競うて天下の政權を握らうとしたのだ。然かもその力他に秀でたものは他を壓倒して天下の權を掌握することが出來た。信長と秀吉とは此時代の最後に傑出した英雄で、遂に群雄を制御して天下に號令するやうになつたのだ。

信長は非凡な英雄である。信長の他の英雄と異なる特色は朝廷に對して忠

義なことで、足利氏や、其他の英雄には忠義の念が少かつた。信長の忠義心の深厚な事は實に信長の長處である。實に衆望を繫ぐことの出來た點である。然し信長は斯かる美點を有せるに拘はらず、人情を脱れた事を屢々行る。部下のものには酷薄なことや、常識を脱したやうなことを行る。埒外に出で亂暴な事を爲る。部下に土地を與へて置いて亦之を取り上げる。信長は一方には偉い點があるが、又一方には人情に背いた行爲を爲る。信長の明智光秀に弑されたのは此缺點が禍をなしたのだ。

二　日本英雄の典型

秀吉は信長と同じく忠義心が頗る深厚である。忠義心は臣民として最も必要な美德であつて、天下の權勢を握り、衆望を保持するには特に必要である。秀吉は深大な忠義心を有し、然かも思慮細密で、信長のやうな亂暴な非常識なことを行らない。勿論秀吉にも缺點があつた。如何なる英雄にも缺點がある。然し秀吉は信長と違つて一層智慮に富んでゐるのみならず、あの群雄割

據の亂世に處して種々な境遇を切り拔けて天下の權勢を握るに至るまでの手際は實に巧妙を極めてゐる。

秀吉は誠に天下の人才である。そして又餘程愛國心が深かつた、無禮なる明の封冊を引き破つて、明の使者を叱り付けた處などは、足利義滿などとは正反對である。秀吉には絶大な膽力あり愛國心あり、その雄々しき態度は、純乎たる日本英雄の典型である。その壯快なる事業は千載の下能く懦夫をして立たしむるに足るのである。天下萬世の人に限りなき壯快の感を與ふるのである。

三　驕慢の結果

秀吉の次ぎには家康が起つて、三百年の太平の時期を造つた。德川氏の時代は文恬武熙の治世である。亂世の最後に起つた秀吉は、群雄を征服して天下を統一したが、家康は秀吉に次いで天下の政權を握り、以て太平の基を開いたのだ。

秀吉は群雄中最も卓出した英傑である。あの時代の如何なる英雄も、秀吉の右に出づるものはない。英雄には皆萬人に勝ぐれた美點が多いのであるが又その缺點も少なくないのだ。然かも凡人の缺點は往々人の眼に付かないが英雄の缺點は著しく人の眼に映ずるものだ。さらは秀吉の缺點は何かと云ふと、驕奢を極めた事である。

秀吉は微賤の家より身を起して、遂に位人臣の榮を極むるに至つたのだ。遂に海内の英雄を驅つて朝鮮征伐を行つた。朝鮮征伐の動機は不明であるが、兎に角日本全國を平定して了つたから、その上朝鮮を取り、明にまでも攻め入らんとの壯圖を胸に畫いたのだ。當時は海内の英雄は皆髀肉の嘆に堪へぬ時であつたから、朝鮮や明を攻め尙ほ天竺までも切り取り勝手次第と云ふやうな、壯快云はん方なき有樣であつた。

やがて媾和條約を締結すること丶なり、一旦兵を朝鮮から引き上げた後、明の使者があの無禮至極な封冊を齎らしたので、秀吉は大に激怒し再び兵を朝鮮に出した。これ遠謀深慮を缺いた輕舉暴動であつて、畢竟秀吉が驕慢の

結果である。

四　政治的才幹欠乏

秀吉の外征は、初めは頗る壯快であつて、大和男子の眞面目を海外に發揮したのだが、然し再度急激に出兵したのは、如何にも兵を弄そんだ傾向がある。然かもその後幾許もなく秀吉は歿して朝鮮征伐は不結果に終り成功せずに終つて了つた。

秀吉には、假令朝鮮を征服しても堅固に之を占有して日本の領土となし、確實に維持する政策がなかつたのだ。秀吉には朝鮮を統治してゆく技倆が缺けてゐた。統治の才が乏しかつたのだ。

秀吉は戰つて勝つの技倆に於ては、殆んど天下に比倫なしであつたが、平和的に國家を統治してゆく才幹が不充分であつた。秀吉の朝鮮征伐は極めて痛快な壯擧であつたが、遂に蹉跌して了つた。秀吉には政治的才幹が乏しかつたので、假令長生しても朝鮮や明國を我が領土として保持することなどは

到底不可能であつたに相違ない。

秀吉は亂世の英雄である。攻城野戰の武將である。群雄中天の與へた最後の非凡なる大人物である。亂世の英雄としては殆んど古今獨歩である。

五　秀吉と家康

政治的知識の缺乏は實に秀吉の缺點である。秀吉は色々政治上の事抔は人から聞いて知つて居つたのであらうがその素養は極めて不足である。亂世には武に關する知識が特に必要であるが天下が太平に赴けば、又文に關する知識が特に必要となる。現代のやうな進んだ政治法律の知識は得られないにしても、その當時は其當時得らるゝ丈の政治法律の知識が必要だ。

亂世が終りを告げて、世が太平になると文の方面の知識が最も必要になる。武の方面の知識だけでは天下を完全に統治することが出來ない。秀吉は武に關する知識は秀でゝゐたが、此の文に關する知識の乏しかつたのは誠に遺憾ことである。

家康は天下を治めるには文の知識の特に必要なことを深く感じ、人民を能く統御せんがために藤原惺窩を引見し又林羅山を召しかゝへ、その外天海僧正などにも諮詢し、大に力を文事に盡した。德川時代に文敎の發展をなし、儒敎の勃興したのは、家康の文を重んずる經綸に基づくのだ。家康が文の必要なることを觀破し、惺窩や羅山を招いて天下の統治に努力したから、あのやうな治平三百年の基を開いたのである。然し家康は文のみを重んじて武を輕じた譯ではない。右文左武と云つて文武の兩道を修むることに努めたのだ。

家康は文を重んじて文に關する知識に秀でてゐたが、又武に關する知識に富み、戰爭も頗る上手であつた。道がの秀吉すら家康と戰つてへこまされたことがあつたのである。

秀吉は戰に於ては絕倫の才幹を有してゐたが、統治の技倆が缺けてゐた。然るに家康は統治の技倆が秀で、文事に勝ぐれて居たので、秀吉の後を襲うて三百年の治平を造つたのだ。此點から見ると家康は智慮の綿密な點に於ては却て秀吉に優つて居る。秀吉は武に關する無双の技倆を有し、餘りに武に

偏して文を輕んじたために、長くその功業を完うせずして三代で倒れたが、家康は文を尊び、尙ほ武をも奬勵したので、その遺業は長く後世に傳はり、偉大な成功を贏ち得たのである。

秀吉の朝鮮征伐は文に關する技倆が缺けてゐた爲めに失敗した。その將士の馬蹄は鷄林八道を蹂躙したが、毫もその効果が擧らないのだ。假令全然朝鮮を征服しても長く之を維持することが出來なかつたであらう。今日は朝鮮の合併も完成したが、今後は文が最も必要である。合併前は武の必要があつたがこれからは、文が必要である。朝鮮人を同化するには武の外廣く政治の技倆を要する。秀吉の武の力で朝鮮に勝つても文の力が乏しいので不結果に終つたのであるからして、今日特に此點に猛省する處がなくてはならぬ。

右上は豐太閤にして、左下はナポレオンなり

豐太閤とナポレオン

一　史傳の長所

近頃大分史傳が流行して、豐太閤、西郷南洲、ナポレオンなんといふ樣な英雄豪傑に關する出版物が、尠くないやうに見受けて居る。隨つて、自然主義の小說なんといふものは、甚しく聲價を墜したと謂ふことである。自然主義の小說の中には、實にひどいのがある。さう云ふ小說より史傳の流行する方が、却つて青年の爲に好結果を生ずるであらうと考へられる。史傳の長所は、其事實に在るのである。併しながら、單に事實といふばかりでなくして、豐太閤や西郷南洲や、ナポレオンといふ樣な人の人物性行を喜ぶといふ其氣風は、餘程膽力を養成し勇氣を鼓舞するに、都合の好いことであると考へられる。何分中江藤樹とか、二宮尊德のやうな人を、模範とするばかりでは、少し物足りない感じがするものである。德性を涵養すると謂ふ側には、さう云ふ先哲の性行を學ぶといふことが、固より適切であるけれども。併ながら、

亦英雄豪傑の事蹟は、一層壯快の念を生ずるものである。殊に震天動地の大事業は、後世の青年をして非常な壯快の念を生せしむるものであつて、さう云ふ方面の精神的發展もなくてはならぬのである。就きましては、豐太閤とナポレオンに就いて、少く吾々の感ずる所を述べて見ようと思ふ。

二　豐太閤

豐太閤の出られた頃は、足利氏の末であつて、足利氏の權勢が、迚も日本全國を統治するなんと云ふことの出來ない樣になつた時である。朝廷の權勢は、將軍家に移つて居つたのであるからして、足利氏が海内を統治せぬければならぬのであるけれども、どうも、其れが旨く遣れないからして、そこで、其地方々々に於て、英雄崛起して割據の狀態を成して居た。其頃は、各地方の英雄豪傑が、眞に自由競爭を爲したのである。思ひ〳〵に自分の勢力を擴張し、隣國を併呑して、次第々々に野心を充たさうとして、出來得るだけのことをしたものである。そこで、上杉謙信、武田信玄なんといふ人も、互に

權勢を爭つたものであつて、何れも當時の英傑である。さう云ふ時に當つて群雄の間だに、一層秀でて來たのは織田信長である。信長はなか〳〵尋常ならざる人材であつた。單に戰鬪といふ側から言つたならば、上杉謙信、武田信玄などと伯仲の間に在つたのであらう。けれども、信長に於いては、一つ他の群雄の及ばぬ所があつたのである。それは、忠義の念厚くして、朝廷を尊ぶこと尋常でない。そこで、武田信玄や、上杉謙信の及ばない勢力を得て來たのである。併し、何分織田信長は人情に外れた樣なことをやる人であつて、或は自分の部下の者に、領地を與へて置いて復た取上げるなんと云ふことがあつて、人心を收攬する上に於て、いろ〳〵缺點があつたものである。マアさう云ふ所からして、遂に明智光秀に殺されると云ふことにもなつたのである。あれは、明智光秀の頭を皷に代へて打つたと謂ふやうなことが、恨みを買ふ直接の原因になつたのであらうが、併し、其ればかりではない。さう云ふ、土地を與へて置いて再び取上げるなんと云ふことを敢てして、憚らぬ所があつた、明智光秀の如きも、自分の領地を取られさうになつて來たも

のだから、ツイあゝいふ叛逆を企てたので、其爲に信長は、事業を成し遂げることと能はずして斃れて了つた。

豐太閤は信長の部下に居つたのであるが、信長が斃れて以後は、信長の事業を自ら繼續する地位に立つて、とう〳〵信長以上の事を遣り出して來た。

どうも豐太閤の方が一層戰鬪も上手であり、又思慮の一層緻密な所もあつた。草履取から段々成上がつて來たと云ふ所を考へると、實に幾多の危險なる境遇を經來つて、別段是れといふ學校の敎育などは、素より受けないのであるけれども、併し其經驗によつて、自ら磨き上げた知識といふものは、尋常でなかつたのである。さうして終に日本全國を武力に依つて平定する所まで到つたので、實に亂世最後の英雄である。賴山陽が、亂窮まつて草莽英雄起り、志大にして夷蠻肝膽寒しと云うて居るが、實に其通りである。群雄相爭うて居る自由競爭の其中から、最後に打ち勝つて出て來たのは、豐太閤であるからして、豐太閤の如何に卓越して居つたかと云ふことは其れで分る。而して其處に止まらずして、已に海內を平定したる後に於て、英雄髀肉の嘆に堪

へざる場合であるからして、其等を驅りて朝鮮に遣り朝鮮征伐を始めた。さうして最後には明の兵と鋒先を交へると云ふやうなことになつて、實に朝鮮は言ふ迄もなく、明國に迄も國威を輝かしたと謂ふやうな、なか〳〵壯快なる事がある。

豐太閤は、其程の人であるけれども、亦實に亂世の英雄であつて、なか〳〵缺點がある。缺點の大なるものが段々仕舞には現はれて來た。それは物質的にも精神的にもあつたので、卽ちいろ〳〵な建築や、何かさう云ふ側に於て驕奢を極めて來たと謂ふ事と、又心も驕つて來た。もう太閤となつて此上無い地位を占めたものだからして、其結果、遂に心も亦驕つて來た。尤も明の使者が來て封冊を上つた時に、其封冊を擲付けて大に明の使者を叱責して將に殺さんとしたなんと云ふことは、なか〳〵日本男兒の眞面目を發揮して、壯快此上無しであるが、併しまた餘程驕つた所も見える。なせならば、直に復た兵を起して再び朝鮮征伐を始めたなんといふことは、餘程兵を弄ぶやうな所がある。自分の思ふことならば、何でも出來ると云ふやうな風に、輕々

しく兵を起すやうな所のあるのは、全く驕から來たのである。隨つて再び兵を出したけれども、其結果があまり好くない。さういふやうに驕が段々ひどくなつて來たと云ふことは豊太閤の弱點である。さう云ふ弱點は晩年になつて益々ひどくなつて來た。

それからして又豊太閤は永久の計畫が出來てない。ちやんと永く自分の効果を完うすると云ふ樣な側の智謀が不足して居る。一體はなか〳〵思慮緻密の人であるけれども、さう云ふ場合に於ては、まだどうも十分でない。智謀が不足して居る。智謀の缺乏が確に見える。それは二樣に觀て見ると能く分る。第一豊太閤は、海内に於て太閤と謂ふやうな此上ない權勢の地位に立つたからには、其系統を安全に維持するといふ樣な工夫もなくてはならぬけれども、それは出來て居らぬ。三代にして忽ち滅びて了つた。秦始皇と同じ樣に三代にして滅びて了つた。何分豊太閤は法律政治の側の知識が餘程不足して居つた樣に思はれる。やはり何處迄も亂世の英雄で、百戰を經來つて、敵を攻め落すといふことに於ては中々熟練した所があるけれども、平和的に人

民を能く治め、法律に依つて永く自分の事業の結果を保障するといふ樣な所が足らぬ。さう云ふ所に至ると云ふと、德川家康の方がズッと偉い。德川家康は唯戰鬪だけではいかぬと云ふので、矢張り文の側に注意をした。人民を能く治めて行くには、平和的の手段がなければならぬと云ふ考があつて、夙くからして文の側に注意をしたのである。家康が三百年十五代の此太平の世を開いた原因は、矢張り其處に在る。家康は戰鬪もなか〳〵上手であつたけれども、其側では迚も秀吉ほどのことはやつて居らぬ。併ながら太平の基礎を開く技倆に至つては、迥に豊太閤に優つて居つたと謂はなければならぬ。

また豊太閤は朝鮮征伐をやつたけれども、朝鮮征伐の結果を永く全うする樣な手段を執つて居らぬ。例へば朝鮮を征伐した爲に、之を永く日本の屬國として貢を献ずる樣に、いろ〳〵な手段を執らぬければならぬけれども、さう云ふことはやつて居らぬ。それで朝鮮征伐をやつたことは實に壯快であるけれども、唯其れだけで、後に十分其効果を收めることが出來て居らぬ。明治になつては統監府などを置いて朝鮮を支配し、遂に日本に併合して了つた

と云ふ樣なことをやつて居る。其程のことは當時に在ては實行し難いにしても、何等か手段方法を講ぜぬければならぬのであるけれども、さう云ふことはやつて居らぬ。そこらは矢張り亂世の英雄であつて、どうも豐太閤の弱點と見るより外ない。

併ながら如何に豐太閤に弱點があつても、豐太閤に學ぶべき所は、又別に大にある。彼が日本の歷史あつて以來壯快なる大和男兒の眞面目を發揮した所に在る。海內を平定したのみならず、更に海外に大兵を送つて朝鮮を蹂躙したのみならず、明國と兵を交へ天竺まで切取り勝手次第なんと云ふ樣なことを言ひ出したのであつて、實に壯快此上無しである。さう云ふ偉大なる豪氣膽力が實に後世人の豐太閤に學ぶべき所である。豐太閤といへば必ず壯快の念禁ずること能はずと謂ふ程に大膽不敵な所がある。明の亡びる時には、日本に援兵を請うたといふことであるが、さう云ふことのあつたのは、この豐太閤の朝鮮征伐の爲に、明國も日本の武勇を感嘆して居つたからであるに相違ない。

斯かる英雄には學ぶべき方面と學ぶべからざる方面がある。長所があると同時に短所がある。それで若しも青年が英雄の短所を學んだならば、實に是程愚なることはない。英雄に學ぶべき所は其長所である。それで其長所短所を區別して、其長所のある所を能く理解して、さうして之を學ぶといふことを心懸けぬければならぬのである。

三　豐太閤と西鄕南洲

豐太閤と西鄕南洲と較べるといふと、此二人の間には、幾らか類似の點もある。西鄕南洲も實に薩南健兒の代表者で、其巨魁である。實に壯快なる所がある。之も亦豐太閤と同じ樣に、大和男兒の眞面目を發揮したので、永く後世に影響を及ぼす所がある。それからして、もう一つ、豐太閤と西鄕との間に、共通點のあるのは、孰れも朝鮮征伐の企圖があつたと云ふことである。唯西鄕は朝鮮征伐の目的を達して居らぬ。豐太閤の方は、其目的を達したといふ違ひがある。そこで西鄕の方は英雄としての發展は少し墮胎的に終つた

所がある。豐太閤の朝鮮征伐も、豐太閤自身に朝鮮に進擊して行くことが出來たならば、一層偉大となつたであらうと察せられる。ナポレオンの行動と、大變に似たことになつて來たかも知れぬけれども、豐太閤は自身では海外に出懸なかつたのである。けれども、それでも大兵を海外に出したのは、豐太閤の命令に依るからして、それは西郷の比ではない。それと豐太閤は忠義の念厚くして、なか〳〵皇室を尊ぶこと、尋常でなかつたのである。それで朝鮮征伐も、別段朝廷の意志と相戻るやうなことでもなかつたのである。何等朝敵の汚名を被るやうなことなくして、思ふ通りの大事業を決行したと謂ふ所がある。西郷の側は、どうも其所が甚だ不首尾であつた。何分廟議と一致しない行動を取つた爲に、賊名を被つた。それは後には寛恕せられたのであるけれども、併ながら、兎に角、朝廷の意志と齟齬した態度を取つた、といふ不幸なる境遇に陷つたのである。さう云ふ所が、豐太閤と違ふ。さうして、時勢が時勢であつたからして、西郷の方が豐太閤よりは學問の素養もあり。陽明學に依つて、心膽を練つたところも見えるのであつて、さう云ふ點に於

ては、幾等か豐太閤より優る所があつたものと見なければならぬ。

要するに西郷もなか〳〵日本の歴史を飾る一大豪傑であつて、其心膽の偉大なる點に於ては、後世人をして永く欣慕せしむるに足る所がある。さうして、西郷は縱令朝廷の意志と齟齬した行動を執つたけれども、西郷自身の人格に於ては、諒とすべき所が大にあつたのである。西郷其人の心情を疑ふことは出來ぬ。西郷といふのは、邪惡の人ではなくして、壯快なる薩南の偉男兒であつたと云ふことは、萬衆の能く認めて居る所であつて、其處は西郷が後世人に欣慕せらるゝ理由のある所であると考へられる。それに西郷が十年の戰爭に實彈の演習をさした所が見える。激烈なる戰鬪に依つて我國の兵士が本當に命懸けの演習をしたのである。それが矢張り、明治二十七八年の日清戰役に効果を生じて居る。熊本籠城をした人などが、其時に大に我が軍に在つて活動して居る。さうして又日露戰役にも、やはり西郷と鬪つて大に實彈の演習を經來つた者が戰功を奏して居ると云ふ樣なことがある。そこらを考へて見ると、西郷の間接の影響といふものは、決して尠少でなかつたと見

ぬければならぬ。

四　豐太閤とナポレオン

ナポレオンは、矢張り亂世の英雄である。稍々豐太閤と似た所がある。コルシカ島より起つて遂に佛蘭西の帝王となり、さうして歐羅巴大陸を蹂躙したなんと云ふ所は、實に壯快なる事蹟である。其亂世の末に出て來て非常な戰功を收めた所は、餘程豐太閤に似て居る。けれども豐太閤より一層其影響は廣大である。何分場處が場處であつた爲に、文明國の大部分を蹂躙して非常な影響を後世に及ぼした所を考へると、ナポレオンの方が、豐太閤より一層目覺ましく見える。ナポレオンは、數學だの歴史を學んだ人であつて、決して學識のなかつたと云ふ樣な人ではない。豐太閤のやうな無學な人とは大分違ふのである。

けれども、ナポレオンは亦非常な弱點がある。ナポレオンは名譽心に驅られて、而も非常な名譽心に驅られて、さうして國境外に大兵を率ゐて出て、

或は墺太利を討ち、或は普魯士に侵入し、或は露國に迄も攻入つたなんと、云ふやうなことがあつて、いろ〳〵戰鬪を經來つたのであるが、それは皆實に其尋常ならざる燃え立つ樣な名譽心に驅られてやつたのである。虛榮心である。虛榮心が其主なる動機である。さうして、又其行動が非常に敏捷であつたと云ふことが、彼の赫々の功を奏した一大原因である。尤も一體に戰に長じて居つたのであるが、なか〳〵行動が敏捷であつた。疾雷耳を掩ふに及ばずと謂ふやうに、敏捷に大兵を率ゐて進擊する爲に、敵兵は未だ用意の出來ない內に不意に襲はれるものだからして、大敗を取るやうなことが屢々あつたけれども、ナポレオンといふ人は、さういふ名譽心に驅られてやつた樣な人であるから、亦敗れる時は實に甚しく敗れて居る。敗北となると實に悲慘なる敗北をやつて居る。莫斯科に攻入つた時などは非常な大兵であつた。四十五萬の兵を率ゐて莫斯科まで行つた所が、露國の兵は莫斯科の市街を燒拂つて遠く退いて了つた。そこで莫斯科に一箇月も滯在したけれども、兵糧は缺乏するし、宿營すべき家屋は燒けて居るし、其內に非常な寒氣に襲はれたもの

だからして迚も其處に永く滯在することは出來ずして退却したのであるが、退却の時は兵數僅に十萬であつた。實に非常な損害を受けたのである。それからスモレンスクに達した時には僅に四萬、キルナに達した時には僅に一萬五千。其時の敗北といふものは亦非常な敗北であつた。彼れは勝利を得る時は實に赫々の功を奏するが、敗北となれば亦其れと同じ樣に、非常な悲慘なる敗北をする。此等は豐太閤には餘り無いことである。豐太閤も敗北をしたこともある。家康と戰つて敗北をしたなんと云ふことがあるけれども、併ながらナポレオンの兵が大敗北をした樣なゑらいことはなかつた。

ナポレオンは、榮枯盛衰が實に甚しいのである。さうして最後には、ウオータールーで大敗北を取つて、遂にセントヘレナ島に流されて了つた。そこらの榮枯盛衰の甚しい所は、豐太閤に見るべからざる點である。ナポレオンは、コルシカ島より起て遂に帝王になり、又更に歐羅巴大陸を蹂躙して赫々たる戰功を收めた英雄であるが、敗北をしたとなれば亦甚しき敗北を爲し、さうして最後には島流しになつて、とう〳〵セントヘレナ島で癌に罹りて死

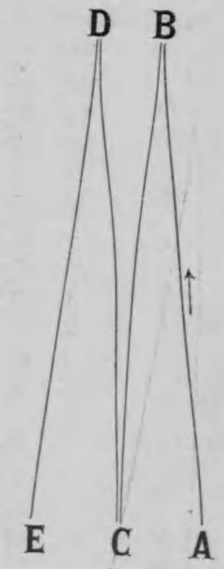
んで了つた、といふ樣な所は豐太閤と大變違ふ。豐太閤は草履取から成上がつたけれども、次第々々に進んで遂に位人臣の榮を極めて、さうして沒くなつたのである。決してナポレオンのやうに衰れな最後を遂げた譯ではない。唯寒微より昇り昇つて、昇られる所まで昇つて、さうして沒くなつたといふ譯であるけれども、ナポレオンはそれとは違ふ。ナポレオンは生れは豐太閤のやうに寒微と云ふ程ではないけれども、兎に角コルシカ島より起つて昇れる所まで昇つて、とう〳〵帝王となつたから豐太閤より一層高く昇つたのであるが落ちるとなるとまたズッとどん底迄落ちて行つたと云ふ樣な、實に一浮一沈の狀態が、非常に甚しいのである。そこに謂はれがあると思ふ。試みに豐太閤の事蹟を圖解すると斯うなる。

第一圖

第一圖のやうに豐太閤はAからB迄昇り詰めて沒くなつたので、Cの處に

落ちて居らぬ。それからナポレオンの事蹟は斯うなる。

第二圖



第二圖のやうにナポレオンは初めAからB迄昇りてCの處迄落ちた。エルバ島に往つた時がそれである。其後CからD迄昇りて又Eの處に落ちて了つた。變化はナポレオンの方が多い。

豐太閤とナポレオンと較べると、大變に似た樣な所もあるけれども、亦大變に違ふ所がある。豐太閤のやつた事は、それは初からチャンと斯う云ふ事をやるといふ目的はなかつたに相違ない。唯草履取から頻りに遣り上げて行つたところが、百戰を經て、とう〳〵旨い具合に運命が開けて來て、遂に位人臣の榮を極むる所まで至つた。が大變に忠義の念が厚かつた。それから又

朝鮮征伐をやつて、其結果は、餘り好くなかつた樣であるけれども、間接の効果は確に有つた。其上に豐太閤のやつた事は、其の仕樣は十分でなかつたけれども、日本民族の目的には、適つて居つたのである。豐太閤は其朝鮮征伐をやつた跡を能く堅固に纏めなかつた、といふことはあるけれども、明治になつてからは、とう〳〵それを遣り遂げたのである。日韓併合なんと謂ふことを遣り遂げた。日韓併合を遣り遂げたのは、豐太閤の目的に適つて居る譯である。豐太閤が前に志したことであつて、未だ成し遂げてゐなかつたことを、とう〳〵明治になつて遣り遂げたのであるからして、明治以後の日本民族の目的と豐太閤の目的とは決して齟齬して居らぬ。能く一致して居る譯である。

所が、ナポレオンはどうかと云ふと、ナポレオンの遣つた事は、決して今日の佛蘭西人の目的に適つて居らぬ。今日の佛蘭西人の目的とはマルで正反對のことを遣つて居る。ナポレオンは帝王になりて帝國を建てた。けれども近世の佛國民は、十八世紀の自由思想の影響を受けて、共和政體にしようと

云ふ考があつたのであつて、屢次其目的を達しようとしたのである。それで今日は、其理想を實現して共和政體となつて居る。ナポレオンは共和政體を建てゝ居らぬ。帝國を建てたのである。どうもナポレオンのやつた事と、今日の佛國民の實現して居る所のものとは、決して一致して居らぬ。さうして又今日の佛國の爲にもなつて居らぬ。ナポレオンが普魯士に侵入して、普魯士を蹂躙した結果普魯士の怨を受けて、とう〳〵千八百七十年及び七十一年には普魯士の兵が佛蘭西に攻入つて巴里を圍み、巴里の一部分には侵入して來た位である。斯樣に佛國が城下の盟を爲したのみならず、アルザス・ロトリンゲンの二州を獨逸に讓與し、五十億フランの償金を支拂つたなんといふことは、皆ナポレオンが普魯士の怨を買つて居つた結果斯う云ふことになつたのである。それでナポレオンの事業は今日の佛國の爲になつて居らぬ。それからナポレオンの行動には統一がない。唯其野心の驅る所となつて行動したのである。燃ゆるが如き名譽心、其れが彼を驅つて彼の如き大騷動を惹起さしめたのであつて、どうも統一がない。豐太閤の行動にも必しも初からズッと統

一があつたとは謂へぬけれども、併しナポレオンの其れに比ぶれば慥に豐太閤の方が統一がある。足利の末は非常な時勢で騷亂が打續いたから、此騷亂を豐太閤の手を藉りてすつかり鎭定して了つた。さうして豐太閤は深く帝室を尊び、帝室の尊嚴を恢復し、さうして德川三百年の文敎に移る準備をした。また豐太閤なかつせば家康も起ることが出來ない。家康は如何に偉い人であつても豐太閤がかの麻の如く亂れて居つた海內を平定したからこの三百年の太平の基礎を築くことが出來たのであつて、豐太閤のやつた事には自ら統一があるやうである。自覺して遣つたのでないとしても比較的に統一がある。ナポレオンの遣つた事には統一がない。さつぱり統一がない。唯彼れ一人の名譽心の然らしめた結果であつて亂脈である。

ナポレオンは善い事もそれは遣つて居る。佛蘭西の法典を制定したなんといふことは善い事である。それから又彼の騷亂の結果は歐羅巴の刷新となつて、餘程レフレシュして活潑に爲した所がある。迚も眠つて居るやうなことは出來ぬ。一體歐羅巴の眠りを覺ました樣な偉い刺戟はあるけれども、それは

偶然に起つたことであつて固より目的としたことでも何でもない。ナポレオンの目的として所は、唯自分一個の名譽心を滿たさうとする所に在つて、さうして大陸各處を荒して廻つただけのことである。統一も何もある譯ではない。一貫せるリーゾン抔は固より有らう筈がない。マア佛蘭西國境外の諸國から見れば唯大きな强盜の樣なものである。到底制すべからざる强盜である。普通の强盜ならば制することも出來るけれども、何十萬といふ大兵を率ゐて出て來る所の、到底制することの出來ない强盜と比べるより外はない。さうして又彼は餘程人情に背いた所がある。ジョセフィンが子がないと云ふ所からして、彼を離緣して、さうしてマリー、ルイゼといふのを娶つた。さう云ふ樣な實に悲慘なる事を敢てして憚らぬ。けれども其れ位の事は命世の英雄に取りては何でもない。兵卒の生命なんといふものは何とも思はぬ。何千何萬の人命を犧牲にして毫も意に介せずと云ふ樣なことがある。それは英雄豪傑には有り勝のことであるが、ナポレオンは隨分それは甚しい方であつた。

さう云ふ次第であるから、ナポレオンといふ人は、豐太閤に較べるとその

活動の舞臺は一層廣かつたけれども、其全體を達觀して見るといふと豐太閤の方が遙に優つて居る。豐太閤の事業に比較的統一があるのみならず、其目的とした所が今日の日本民族の目的と齟齬して居らぬ。さうして豐太閤の影響は善い方に向いて居る。ナポレオンの佛蘭西に於ける關係はそれと大變に違ふ。佛國民の今日の理想と、ナポレオンの目的と一致して居らぬ。唯ナポレオンといふ人は非常な英雄であるからには、餘程後世人の心膽を愉快にする樣な所がある。そこは取り所である。

五　聖人と英雄

聖人と英雄の違ひは、英雄はどうも非常な缺點がある。英雄は人情に背き人命を犧牲にしても敢て意とせずといふ樣な、なか〳〵ひどい側がある。さう云ふことがあるからして、聖人と區別せぬければならぬのである。聖人の事蹟は如何に複雜であつても、必ず一貫して居る。リーゾンがある。さうして聖人は仁愛と謂ふ念が、大變に勝つて居るからして、人一人でも之を犧牲

露光量違いの為重複撮影

にするなんといふやうな考は毛頭無い。そこは非常に違ふ所である。併ながら聖人の教は兎角仁愛の一方に偏するからして、武力勇氣なんと謂ふことは亦英雄豪傑に學ばぬければならぬのである。眞に仁愛を實行しようと云ふにはなか〳〵武力勇氣を要するのである。聖人と英雄、此兩者の長所を併せて出て來るやうに努力すれば獨り聖人のみでなく、亦英雄の大に後世人の修養に裨益する所があると謂ふことは疑ない。

露光量違いの為重複撮影

にするなんといふやうな考は毛頭無い。そこは非常に違ふ所である。併ながら聖人の教は兎角仁愛の一方に偏するからして、武力勇氣なんと謂ふことは亦英雄豪傑に學ばぬければならぬのである。眞に仁愛を實行しようと云ふにはなか〳〵武力勇氣を要するのである。聖人と英雄、此兩者の長所を併せて出て來るやうに努力すれば獨り聖人のみでなく、亦英雄の大に後世人の修養に裨益する所があると謂ふことは疑ない。

是れ宮本武藏の兩刀を執りて將に敵を擊たんとする姿勢にして、其眼光炯々たる、決して尋常の相貌にあらず。イリノイス大學總長セームス博士嘗て論じて曰く、日本は東西兩洋の粹を兼備せる眞の宮本武藏なりと。此肖像を觀て我日本の文明に想到する所なくんばあらず。原圖は田中修二氏の所藏に係る。

宮本武藏と武士道

一　武藏塚の墓參

私は一昨年(大正二年)の夏、熊本に用があつて行つたことがある。所が、熊本には豫て宮本武藏の墓があると云ふことを聞いて居つたので、今回は其の墓に參拜しようと云ふ希望を懷いて居つた。それで、熊本に行つて、彼所の濟々黌の校長井芹と云ふ人に其の話をした所が、自分が案内しようと云ふことであつた。それから、井芹校長に案内して貰ひ、一日宮本武藏の墓に參つた。あそこでは、武藏塚と云うて居る。元來私が宮本武藏の墓に參らうかと云ふやうな考へを起したのは、それには、少し譯があるのである。

それは私は何も擊劍家でもなんでもない。然し、宮本武藏の書いた書物を讀んだ所が、それが大變面白い、それから、武藏の畫なども見たことがあるが、大變面白い、大に禪味を帶びて居る畫である。私が東京で見たのは、枯木寒鴉の畫である。誠に枯淡な畫である。餘程力が籠つて居る、無限のエネ

ルギーを籠めた畫である。枝の先に鴉がたつた一匹止まつた畫であるが、其れが餘程面白い、深く其の畫に感服して居つた。斯う云ふことによつて考へて見ると、どうも武藏は單に劍道一方の人ではない、なか〳〵相當に悟りのあつた人に相違ないと思ふのである。實は十年ばかり前に熊本に行つたことがあつたけれども、其の時には武藏塚に參らなかつたのである。然るに、此度は是非武藏塚に參りたいと云ふ考で、とう〳〵武藏塚に參つた。其の武藏塚のあるのは熊本から二里ばかり隔つた所で、小さな森――森と云ふ程ではないけれども、少し樹木の生えた所に、武藏塚があるのである。さうして、極めて單純な墓である。唯「新免武藏之墓」とある。新免と云ふのは、武藏の本當の苗字で、宮本と云ふのは、宮本村に居つたので、さう云ふ姓を名乘つて居た丈であつて、本當は新免である。墓には「新免武藏之墓」とあるだけで、他には何もない、極めて單純である。宮本武藏は、それで澤山である、別に飾りも何も入らない流義である。下手な飾りをつけるのは、武藏の志でない。さうして墓の周りには、樹木が少しある丈けである。私が行つた時には、道が

つけてあつたけれども、前には道がなかつた。迂回して行かぬければならなかつたので、大變道が惡かつたさうであるが、近年宮本武藏の遺跡顯彰會と云ふものが出來て、斯う云ふ道を拵へたと云ふことを聞いて居る。熊本市からして此の武藏塚に行く道は、餘程甚い道である、甚いと云ふのは、私は人力車で行つたのであるが、其の道の塵が甚くて、丸で灰のやうである。大道は丸で灰を撒いたやうになつて居る。それが風に煽られてやつて來る。なかなか堪つたものでない。是は阿蘇山から吹き出だしたもので、其の灰が、道に一ぱい溜つて居る。それが、少し風が吹くと、吹き上げられるのであつて、全く灰の中を通つて行かなければならぬのである。餘程困る。それが、天氣の惡い時には、甚いさうであつて、溝泥のやうになつて、丸で溝泥を渡つて行くと云ふことになるさうである。天氣が好ければ灰が飛んで來る。誠に困つた。校長が、先に車に乘つて行く、其の洋服が眞白になつて居る。私のも眞白であるけれども、自分は後ろは見えない。井芹校長の背中だけが、見えて居るのである、其れが眞白になつて居る。さう云ふ所であつたけれども、

武藏の墓に參つただけの効があつたと云ふ感じがした。

さうして、熊本市に宿を取つて居つたが、それは研屋支店であつたが、井芹校長が武藏の書いた畫を二幅持つて來て、掛けて呉れられた。其れが何うも大變佳い畫で、何時迄見ても飽かないのであつた。其繪を、嘗て岡倉覺三氏が熊本に行つた時に見て、甚く感服した。是は何所へ持ち出しても、決して他の名畫に劣るやうなことはない、實に立派な名畫であると云ふことを、岡倉氏が申されたさうである。岡倉氏の如き日本畫の鑑定に長じて居る人が其のやうに褒めた畫であるから、それは略々察せられることであらうと思ふ。私共のやうな素人の眼で見ても、誠に立派な珍しい畫であると思ふ。武藏の畫と云ふものは、色彩も何もない、全く墨畫である。淡白なものであるが、然し其の禪味を帶びた枯淡の中に、餘程力があり、精神が籠つて居る。何とも言へない趣味を持つて居る。要するに多大の禪味を帶びて居るのである。

二　武藏の思想系統

宮本武藏の墓に參る考へを起したと云ふのは、唯武藏の本を讀んだと云ふばかりでなく、其他にも理由がある。それは此の日本の武士道と云ふことを段々研究して居つた所が――山鹿素行のことは餘程前から研究して居つたが、此の山鹿素行の系統に矢張り宮本武藏の關係がある。武藏は山鹿素行の弟子ではないけれども、山鹿素行と相弟子になる。山鹿素行の就て居つた人は、兵學者の尾幡勘兵衞と云ふ人と、北條安房守氏長と云ふ人である。此の北條氏長の弟子には、色々の人があるけれども、主なる人は宮本武藏山鹿素行の二人である、山鹿素行、宮本武藏は相互に知りて居つたかどうか分らぬけれども、相弟子と云ふ關係がある、山鹿素行の系統を段々研究して行くと、さう云ふ關係のあることが分つて來るのである。そこで、宮本武藏の書物を讀んで見たのであるが、なか〳〵面白い、宮本武藏は劍道の達人であるけれども、唯劍道の達人と云ふばりでないやうに思ふ。

一體北條氏長と云ふ人は兵學者であつて、兵學の側ではなか〳〵其の當時有名なものであつた。北條氏長の師匠尾幡勘兵衞と云ふ人は、一番先に幕府

に抱へられた。徳川家康に千五百石で抱へられた。北條氏長は其の後三代將軍に召抱へられて仕へて居つた。是れは二千石で、尾幡勘兵衛より上である が、何れにしても同じ系統の兵學者であつて、非常に其の羽振りがよかつたのである。甲州流の兵學者が德川幕府に抱へられたと云ふ廉を以て、甲州流の兵學と云ふものは、餘程勢力を得た。他の兵學の流義は迚も甲州流には及ばぬやうになつた。其れは丁度惺窩、羅山――惺窩と云ふ人は引見されただけであつたが、羅山が家康に召抱へられて、幕府に羽振りのよい儒者となつた爲めに、朱子學が德川時代を通じて勢力を得たと云ふやうに、尾幡勘兵衛並に北條氏長が幕府に抱へられた爲めに、甲州流の兵學と云ふものが勢力を得た。甲州流の兵學者でないものは、兵學者として用ひられることが難しい。それで大抵甲州流の兵學者と言つたものである。少々違つてもさう云ふやうに言つたものである。

そこで、宮本武藏は兵學を北條氏長に學んだけれども、劍道の側では北條氏長は宮本武藏に及ばなかつた。兵學は北條氏長が上である。兵學で言へば

宮本武藏は北條氏長の弟子である。劍道の側から言へば、北條氏長は宮本武藏の弟子である。北條氏長と宮本武藏とは互ひに弟子たり師匠たりと云ふべきである。けれどもマア兵學の方から言へば、無論山鹿素行と、宮本武藏とは相弟子と云ふことになるのである。

三　宮本武藏の著書

宮本武藏の書物は永く寫本で傳つて居つて、一寸見ることが出來なかつたのであるが、今は大抵皆版になつて居る。宮本武藏の書物として有名なものは、二天記と五輪書で、二天記と云ふのは、私は餘程前から名は聞いて居つたけれども、讀むことが出來なかつたが、今は版になつて居る。肥後文獻叢書の中に這入つて居る。讀んで見た所が面白い。是は武藏自身が書いた。自分のやつたことを書いたもので、何う云ふ仕合をやつたと云ふことが、精しく書いてあるのであるから、武藏の自傳見たやうなものである。武藏の事蹟を調べるには、二天記を參考しなければならぬ。もう一つ、武藏の書いたも

ので傳つて居るのは、五輪書。五輪書と云ふのは、是はアノ池邊義象君の書て居られる「宮本武藏」と云ふ書物の終にくつ付けてある。五輪書といふ書物は、何う云ふことを書いたものであるかと言ふと、是は二天記の内容とは、餘程違つて居る。是は劍道の極意を書いたものである。さうして五輪書と云ふのは、地水火風空の五卷に分けてある。卽ち地の卷、水の卷、火の卷、風の卷、空の卷と云ふ風に五卷に分けてある。是は劍道の書である。劍道の極意と云ふ所になると、總ての極意と一致して來る。餘程妙なものである。是は山鹿素行の武士道の精神と一致するし、又、禪學の極意とも、一致して來るやうな所がある。この五輪書は、餘程面白い書物である。難しいのである。一寸讀んでは、なか〳〵分り難い書物である。一つは、其頃の言葉が一寸分り難いのと、それから劍道の術語が多く使つてある。或は武藏一流の術語かも分らぬ。それが、なか〳〵分り難いけれども、其の分る所は餘程面白い。よく讀めば分らぬこともないのである。

是は今の學術書のやうに、チャンと組織立てゝ、さうして、根本主義から

割出して來るやうな具合に書いてないからして、其の要點を擧げると云ふことは難しいのであるが、其の中で注意すべきことは、主に三つの點であると思ふ。幾つもあるけれども注意すべき所は三つの點である。是は武藏が重要な點としたやうに思ふ。第一は先をかけるといふことである。あ先んずれば人を制する、何でも先をかけなければならぬ。先んじなければいかぬ、何處迄も先んじて行つて、さうして、人をして其の後につかしむると云ふやうな考であつて、卽ちこれが一つの勝利を得る方法である。先をかけなければならぬと云ふことは、アチラコチラに說いてある。是が一つの要點。それからもう一つはねつくと云ふことであつて、此れは假名で書いてある所が多いのである。一寸分らぬ。それは何であるかと云うと、安んずると云ふやうな意味である。居付と云ふ字が書いてあるので分る。詰り安んずると云ふやうなことはいけない、何處迄も何處迄も進むこと。是が第二の點である。何處迄も何處迄も進む進取的の態度でなければならぬ。居付くと云ふことは敗北の初めである、死の初めである。さう云ふなか〳〵旨いことが書いてある。是は

旨く説けないから、唯要點だけを擧げる。それからもう一つは、斯う云ふ點であらうと思ふ。武藏の觀察では、三拍子揃はなければ可かぬ。三拍子と云ふのは心身太刀で、此の三つが揃はなければならぬ。敵を討つ時には、心で討つと云ふ考へがなければならぬ。討ち勝つと云ふことを、十分に思つて居なければならない。併し心だけではいけない、身體でも討つと云ふ態度がなければならぬ。それから太刀、此三拍子が皆一致して來なければならぬ。卽ち自己の全體を以て敵に當らぬければならぬと云ふことである。心を其の中に入れたのは、大變面白い。心と身體と太刀と一致して來ぬければ、結果は十分でないと云ふ考へである。成程心と云ふものを其處へ加へて來たのは、大事な點である。其の實驗の結果餘程得た所がある。此の三つが、五輪書の中に現れて居る重要な點と思ふ。而して、此の五輪書に現れて居る趣意は、今の分析的科學ではなか〳〵說けないやうな所を說いて居る。例へば、進んで止まざれば勝つと云ふことが、其の精神的の考へである。何處迄も進取的の態度でなければならぬと云ふ所は、動いて止ざる方面である。分析的科學

で敎へられない方面の悟りを得て居る。其處が、大變に大事な所であつて、武藏の書き現したものの中に現れて居る此の神髓、骨子の所は、誠に悟の極致であつて、分析して云うて明にさるゝと云ふやうなものでない。其所が、東洋の一種の學問であると思ふのである。そこが、五輪書のやうな書物を讀んで面白く感ずる所である。五輪書の中でも火の卷と云ふのが最もいゝ。其の他にもよい所は勿論ある。

それから、未だ他に此の五輪書の大要を書いたものがある。それは、三十五條の箇條書になつて居る。是は其の要點を書いたのであるから、武藏の趣意を了解するに於ては、大變便利である。未だ此の他に兵道鑑と云ふものがある。是は未だ讀んだことはないけれども、大體、五輪書と、趣意に於ては、變らないと云ふことである。大同小異のものであらうと思ふ。

四　武藏の生立

此の宮本武藏と云ふ人は、六十餘度仕合をやつて居る。さうして、何時も

勝つたのである。負たことのない人である。最後のは、佐々木巖流とやつた巖流島の仕合で、あれが、最後の仕合であつた。さうして、アレから後は、決してやらぬ。アレから後は、多少の變遷があつたけれども、最後に細川家に仕へ、さうして、熊本で歿した。其の墓も、其所にあるのである。

武藏の生れたのは作州で、さうして親は、矢張り有名な武藝の達人であつた。劍道がなか〳〵達者であつたのである。親は十手使ひであつたと云ふことである。親が十手使ひであつたから、武藏も矢張十手を使つたのである。けれども、其の十手から思ひついて、十手の代りに兩刀を使ふことを、自分で工夫したのである。兩刀を使へば、一本は敵の太刀の向つて來るのを、防ぎ止めると同時に他の一本で敵を擊つことが出來る、と云ふ所を見て、兩刀を使へば一本より優つた結果が、現れると云ふ考へを起して、それで、兩刀を使ふやうになつたのである。そこで、二刀流と云ふのが、武藏によつて初まつた。何うしても、其の兩刀でやれば、一刀で向つて來たものを支へる、のみならず、更に敵に向つて打ち込むことが出來ると云ふことを、よく見てさう

して仕合をやつた。それで必ず敵を打ち亡して居る。武藏の仕合は、何時も眞劍であつて、必ず敵の眉間を打ち割つて殺して仕舞ふ。どうも仕樣がない。さうして大抵は木劍を以てやる。巖流と仕合をやつたのも、木劍である。そして、其の木劍は自分が拵へるのであつて、なか〳〵細工が能く出來る。一體武藏と云ふ人は、餘程器用であつて、さう云ふ木劍と云ふやうなものを、拵へるばかりでなく、又他に柄等を拵へたと云ふことである。さう云ふ技巧もあつた人である。又鞍抔も始終自分で拵へて居つた。巖流と仕合をする朝などは、木刀を自分で拵へた。又前の晩は、仕合をすると云ふことで、悠くり寢て置いて、宿屋の亭主に起されて起き上つた。そこで、舟の櫓を削つて、自分で木刀を拵へて、さうして巖流と仕合をやつた。斯う云ふ風に、細工をやる人である。巖流との仕合は、非常に危い仕合であつたらしい。是が最後の仕合で、其れから後は、何う云ふものか仕合をやらぬ。或は申し込み手がなかつたのか、アレつきりで仕舞つた。所が、巖流との仕合は際どい所迄行つた。武藏のして居る鉢卷が切れた。頭は切れ無かつたが、其の位ゐまで行

つたので、もう少しで危いと云ふ所であつた。

五　武藏の性行と逸話

武藏は餘程妙な人であつて、普通の人とは變つた點がある。第一武藏は獨身である。決して娶らぬ、獨身で通した。獨身者には兎角偉い人が多い、武藏は其の一人である。獨身で居ると云ふと、何も他に住宅を持つとか、何とか云ふ考がないのである、況して妾を圍ふとか、何とか云ふ考はないのである。だから、精神を一點に集中する事が出來る。それで、武藏は劍道一方に集中して居つたやうである。武藏が獨身で通したと云ふ所には、餘程武藏の偉いことも、其處に關係して居ると見なければならぬ。他の種々の方面に氣力を使ふやうなことをしない。一方にズット氣力を集中して來たやうな傾向があつた。確に偉い。妻君もあれば妾もあるやうでは、自然力が拔ける。況んや妾が何人もあつたら、何うしても弱くなる。武藏には妾もない。武藏の事蹟は餘程面白い。一々御話は出來ぬが、前に述べたアノ二天記には餘程

妙なことが書いてある。そして、私は武藏の肖像を見た所が、それは餘程異樣の相貌である。決して尋常一樣の人間の相貌ぢやない。さうして恐しい目玉である。今度私が熊本から歸る時に、井芹さんから畫像を貰つた。それには、熊本の劍道の達人である、武藏流の有名な人が、讃をして居る。それを貰つて來て、此頃書齋に掛けて未だ其の儘にして居るが、是は寫しである。元の確な肖像も曾て觀たことがある。なか〳〵異樣の相貌である。丸で人間とは思へぬやうな恰好である。武藏は三十歳時分迄は髮を延して居つた。其の髮が帶の所迄もあつた。長い髮である。後ちに年を取つてからは、首迄位ゐに髮を切りて延して居つた。近頃は畫書きなんかゝ、何う云ふ考か、髮を延して居る。さう云ふ風に非常に長い髮の毛であつたが、何う云ふ譯で、延して居つたのか、分らぬ。それは、何にも言つてゐないけれども、何か理由があつたに相違ない。

それから武藏は湯に這入らない。而も一生涯湯に這入らない。是も妙である。それは何う云ふ譯か分らぬけれども、私の察する所では、武藏の湯に這

入らないのは、用心の爲めであらうと思ふ。湯に這入つて居る時は裸だから、ヒョッとやられると非常に危い。如何に武藏と雖も不意にヒョッとやられては堪らぬ。暗殺されぬとは限らぬ。何分にも六十餘度も仕合して居るので、隨分敵を拵へて居る。湯に這入らぬのは、用心の爲めであらう。よく湯に這入つて居つて襲はれた人がある。武藏は決して油斷をしない人であるから、それで、湯に這入らなかつたのであらう。其の代りには身體を拭いたことがある。夏などは矢張り。手拭で拭いたと云ふことである。冷水摩擦であつたのかも分らぬ。それから、又色々妙なことがある。武藏の着物は長く、足の甲まで來て居つた。繻子の着物である、さうして裏は赤い。赤い裏をつけて居る。餘程妙なことである。女ならば赤い裏がついて居つても、當然のことであるが、劍道の達人が裏の赤い着物を着て居つたと云ふことは、餘程妙なことである。何う云ふものか着物の裏が赤い。餘程變つた人間である。武藏には色々さう云ふ普通の人と變つた點がある。

それからして熊本に細川家に事へて居つた時に隨分逸話があるが。或る時

大勢集つて武藏の評判をして居つた所が一人が如何に武藏と雖も暗闇を通る所をヒョッと後からやつたならば、やり遂せるだらうと言ひ出した。又他の一人はそれでも難しい、武藏はなか〳〵用心深いから迚も出來ないだらうと云ふ。如何に武藏でも不意にヒョッとやつたらやれさうなものである。それはやれないだらう。いややれる。貴樣やれるか。ウヽやれる、やつて見よう。これは面白いことになつて來た。やつて見ろ。やつて見る。其のやつて見ると云つたのは、料理人であつたが、到頭其の者が闇討を請合つた。此奴はなか〳〵強い奴であつた。それで武藏が或る晩通る所を後ろからヤッと聲をかけて打ち込んだ。さうした所が、武藏は餘り急にやつて來たので何する暇もないので刀のこじりにて胸板を突いた。胸を突かれてハッたと倒れて仕舞つた。武藏は起しもせずに、刀をぬぎ、倒れた所を尙ほも二三度むね打に腕を打つて、知らぬ顏をして行つて仕舞つた。さうした所が、大變後が大騷になつた。何うも突かれた奴は癒らぬ。到頭癒らぬで他の所に行つて仕舞つた。酷い目に遭つた。色々の方法でやつて見たけれどもなか〳〵行かない、武藏

には少しの油斷もなかつたのである。

六　武藏の技藝と禪學

それから、武藏の畫と云ふものは非常に禪味を帶びて居るので面白いのである。そればかりでなく、彫刻は實物は見たことはないが、寫眞に取つたのを見ると、それは不動の木彫りの彫刻であつたが、實に勢力のある珍らしい不動である。武藏には彫刻あり、繪畫あり、それからして色々の細工物、鞍だとか、柄だとか、木劍だとか、さう云ふものがある。其の他に武藏のなかなか長じて居つたのは、書である、『寒流月を帶びて澄んで鏡の如し』是句には餘程禪味があるやうである。よく之を書いたのである。畫が出來、書が出來、彫刻が出來、其他細工が出來る。斯う云ふ風に色々の技藝が出來た。なか〳〵偉い。さう云ふ側では、なか〳〵至妙な所迄行つた。武藏の繪畫と云ふものは、餘程立派なものである。直の高いものである。餘程珍しい。それは武藏は餘程禪味を帶びて居る所があるからである。何所で禪などをやつたかと云

ふことを私は知らなかつたが、今度略々それを探り當たやうな感じがする。武藏は熊本に行つてから參禪した。泰勝寺と云ふ寺は、細川家の寺であるが、此の寺は臨濟宗の寺である。此の寺の和尚と云ふのは、餘程優れた人であつて、春山和尚と云ふのである。之れに參禪して段々禪の方の趣味を得たのである。それからして、此の繪畫とか、書とか、色々のものが、餘程禪味を帶びて來たやうである。熊本に行つてから、さう云ふことを聞いた。如何にもさうであるかと思ふ。武藏は其の前には、各地方を遊歷して名僧に參禪したなんと云ふことはない。熊本に行つてから、大に此の側に於て進んだやうに思はれる。總て書畫等は熊本に行つて、春山和尚に參禪してから、ズツと發展したと云ふやうな、形跡が見えて居る。さう云ふ所は、今度彼方に行つて如何にもさうであるかと云ふ感じが致したのである。武藏と云ふ人は、色々の方面から見て面白いと思ふ。其他武藏の事蹟に就いては、何うか諸君自身の御研究を煩はしたいのである。

七　武藏の二刀流

大體武藏に就いては、それ位にして於いて、茲に一つ付け加へて御話したいことがある。武藏の長處は劍道の側では兩刀を使ふので、兩刀使ひは武藏に初つた。荒木又右衞門なんと云ふ人は、武藏の弟子である、さう云ふ人が出て居る。それから熊本にては、武藏流の劍道を傳へて居る人が。別にあるけれども、他の方に荒木又右衞門と云ふやうな人が傳へて居る。兎角二刀を使つたと云ふことは、武藏の長處である。如何に佐々木巖流が劍道に長けて居つても、一刀で來たので、武藏はその打ち込んで來たのを、受けて、片一方で巖流の眉間を打ち割つたのである。其の仕合の時武藏は一時間ばかり約束より遲れて行つた。巖流は先に行つて居つた。武藏が行つた所が、何故に約束に遲れたかと、苛立ち乍ら刀の鞘を海の中に抛り込んで、大刀を引拔いて進んで來たものであるから、武藏が其の時、巖流負けたと云つた、何故負けたと云ふと、勝つものならば、鞘を海に棄てると云ふことはない。それが

負けた證據だと言つた。巖流は尙も苛立ちて腦天を目掛けて打ち込んだ。打ち込んで來たのを片一方の木刀で受けて、他の方で彼れが腦天を打ち割つた。打ち割られて倒れたが、油斷がならぬから、武藏は用心をして側に近寄つた。巖流は足を切らうとして足を拂つた。けれども、足を切ることが出來なかつた。僅に着物の裾が切れた。木刀で武藏が打つたものだから巖流は血を吐いて死んで仕舞つた。非常に危險な仕合であつた。何う云ふものか、アレなり仕合といふものは武藏はやらなかつた、申し込み手もなかつたのであらうけれども、アレが最後の仕合であつた。さう云ふ風に兩刀を使つたなんと云ふことは、武藏の長所であると言へる。

八　武士道と武藝及び兵學

所が、武士道の側では——武士道と武藝とを混同してはならぬ。世の中には混同して居るものがある。兵學と武士道と武藝と云ふものは、互に關係はあるけれども、混同してはならぬ。武士道は武士の守るべき道德である。例

令劍道の達人であつても、武士道を知らぬものがある。兵學は知つて居つても、武士道は知らぬものがある。兵學にも劍道にも柔術にも、武士道と云ふものは必要である。今は柔術を多くは柔道と言つて居るが、柔道をやるとか云ふことは言へない、柔道は本當は柔術をやるべき人の守るべき道德なのである。故に柔術と柔道は自から區別しなければならぬ。是は嘉納君と直接問答しなければならぬから預りとして、兵學と武藝とそれから武士道と云ふものは、相互に關係があるけれども、區別しなければならぬ、で、此の宮本武藏の長じて居つた所は、劍道であるけれども、併しながら劍道からして悟を開いて、武士道と云ふものと一致する所がある。其處に面白味がある。色々書いたものを調べて見ると、武士道の側では、此の頃からして二つの德目を重んずるやうになつた。是は山鹿素行から初つたものである。尤も宮本武藏にも其の劍道の極意が、武士道と云ふものと一致すると云ふやうなことはあつた。然し武士道の敎へとしては、それは迚も山鹿素行には及ばない。山鹿素行より初まつた武士道の敎には、二つの德目がある。他にも色々說いて居

るけれども、仁義と云ふ二つの德目が、此の武士道の最も尊ぶものである。卽ち二元德と云ふもので、平常は仁、眞逆の時には義、此の二つの德を武士道の道德として居る。人によつては色々これを敷衍して居るけれども、根本的の道德は平常は仁である。そして眞逆のときは義である。卽ち敵が出て來て前路を遮る。さうして太平の世を亂す。さう云ふものが起つた時に、これを除くのは義である。さうして再び太平の世になすと云ふ目的を達する。一時前路を遮つて來るものを除く。さう云ふ時に、武力を現すのである。義と云ふものの爲めに、武力の必要が起るのである。そこで、此のことが精神的にずつと進んで來て居る。此の二つの德が山鹿素行からして、德川氏の末に至る迄の、武士道の神髓骨子である。だからして、宮本武藏が兩刀を使つた如く、武士道の敎にも兩道と云ふものがある。二元なのである。一つでは足りない。二つのものを尊んで居るのは、武藏の兩刀と似て居る。今日の西洋の考へにも矢張りある。希臘時代にも元德（Kardinaltugenden）と云ふものを立てた。プラトーンだのストア學派は、皆四つの元德と云ふものを立てゝ居

る。希臘の四元德は、これは第一は識見、第二は勇氣、第三は正義、第四は克己、此の四つの道德を四元德と云ふ。けれども、これは中世になつては、信愛望、卽ち第一が信仰、第二が愛情、第三が希望、是れが三元德である。けれども、近世に至つては、自から復二元德に歸するかの如き感がある。倫理學者の說く所は、種々であるけれども、丁度此の仁義に似たやうなものが、大變に重きを爲して來て居る。哲學者の側では、これを說くものが隨分ある。例へば、獨逸の方では、ショーペンハウエルが正義博愛と云ふものを、二元德として說いて居る。此の正義と云ふものは卽ち義である。博愛は仁である。先づ大體仁義に當る。スペンサーの倫理學にも、矢張り仁義が說いてある。近頃は能く正義人道と云ふことを言ふが、仁義は卽ちこれに當る。正義は義、人道は人の道卽ち仁に當る。卽ち正義人道は此の二つの德目を新しく言ひ現しただけである。矢張り孟子も仁義と云ふことを說いて居る。日本ではこれを武士道の側で說いて居る。

近頃では正義人道を、世間ではよく新しいもののやうに、言ふけれども、

前からあつたのであつて、素行以來の武士道の德目の重要のものである。此の二つの德は、人生に於て最も大事なものである。宮本武藏が劍道の側で、二刀を使つたのと同じやうに、武士道の側では、德目も矢張り二刀の如く使つて居るのである、此の點は大變似て居る。仁一つでは足りない。仁だけでは弱い。何か一つ强いものがなければならぬ。又義ばかりでは、固くなつて融通が利かなくなる。二つのものが揃はなければならぬ。今日此の日本の立場は餘程武藏の劍道に似て居るやうな所がある。山鹿素行の武士道で說いた所も、餘程似た所がある。之を此の國家の上に、應用して試たならば、此の日本と云ふ國は何う云ふ地位を占めて居るかと云ふと、詰り、西洋文明と東洋文明との間に立つて居る有樣である。此の東洋の諸國に對しては、日本が先導者となつて居る。而して東洋の文明を、世界に紹介するやうな地位に立つて居る。が、又東洋の諸國には、西洋の文明を卒先して輸入するやうな地位にある。西洋の文明を最もよく了解して、さうして東洋の諸國にこれを注入するやうな態度を取つて居る。東洋の文明と西洋の文明とを、左右に有つ

て居るやうな有樣である。卽ち東洋の文明を右にし、西洋の文明を左にして居るのである。二つの異つた文明を巧に操縱して以て、日本國と云ふものを經營し、さうして斷えずそれを進めて行くやうにして居るのである。兩刀を使つて行くやうにやらぬければいかぬ。日本の地位としては、今日萬國の間に勝利を得やうと云ふには、兩刀を使ふやうな考で進んで行くことが必要である。東洋の學問丈けでは足らぬ。東洋の文明だけではいかぬ。西洋の文明を知らぬと云ふと、何うしても足りない。西洋の文明だけぢや、唯其の西洋の受け賣りをするだけで、何うもものにならぬ。東洋の文明は、吾々が古來から感化を受けて居つた方面であるからそれを知らなければならぬ。兩者を合せて、初めて日本が今後優秀なる地位を萬國の間に獲得することが出來ると思ふ。餘程武藏のやつたやうなことが必要になつて居る。兩刀を使へば、非常に勝利を得て都合がよい。一方だけでは足らぬのである。武藏が仕合をやる時分には、何ものも自分の眼中にない。自分の身もなければ敵もない。唯天地を打割ると云ふ考へばかりになると、斯う言うて居る。さう云ふやうに矢張東

西洋の文明を左右にして、さうして、何物も恐るゝことなく、萬國の間に勝利を得て發展せんければならぬ。今日日本は二十億以上の外債があるから、國が亡ぶると云ふやうな、情ない考を有つて居つてはならぬ。偉い强い自信を以て今後進んで行けば、確に勝利が得らるゝと思ふ。其の自信が必要である。自信を失へば、其の結果必然に力を失ふことになるので、此處が大變似て居ると思ふのである。

九　武藏の獨行道

此處に最後に一つ、宮本武藏の獨行道と云ふものがあるが、それを列擧して、此の篇を終ることにする。獨行道と言ふのは、自分獨りで行く道、何物にも賴らずに、自分が獨りで實行して行く道である、それは箇條書にして十九條に成つて居るが、なか〳〵武藏獨特の所があつて、面白い。それは斯うである。

第一、世々の道に背くことなし——古來からの人間の履んだ道に反くやうな

ことをしない。

第二、萬づ依怙の心なし――依怙贔負の心と云ふものはない。

第三、身に樂をたくまず――自分の身に樂をすると云ふやうなことを決してしない。

第四、一生の間欲心なし――何も慾心がない。武藏と云ふ人はさう云ふ有樣であつた、慾があると弱くなる。武士道の書物には何れも殆ど同じやうに慾があると弱くなると說いて居る。

第五、我が事に於て後悔せず――毫も自分のやつたことに就いては後悔なんといふことはしない。

第六、善惡に就き他を妬まず――善いことをしようが惡いことをしようが妬む心を生じない。獨行道である。世間のことに構はずして冷靜にやつて行く。丁度ストア學者のやうな態度がある。

第七、何の道にも別れを悲まず――何事に就いても悲しいと云ふことはない。

第八、自他共に怨み託つ心なし。

第九、戀慕の思ひなし――女を慕うと云ふ心はない。是はマア普通の人には難しい、武藏はさう云ふ情慾を殺して仕舞つて居つて、餘程堅固に練り上げた。彼れは自分の性格をなか〳〵よく練り上げて居つたのである。獨身で貫いたと云ふ所は戀慕の心なしの實を示して居る。是れは難しいことだらうと思ふ。

第十、物事にすき好みなし――是も難しいことである。けれども武藏が着物の裏を赤くして居つたのはすき好みでないか、敢て問はむ。併し死んで仕舞つたから問ひやうがない。けれどもすき好みがあつたやうに思はれる。

第十一、居宅に望みなし――何んな家でも構はぬ。餘程さう云ふ點は普通の人に比べて心配しなかつた方である。

第十二、身一つに美食を好まず――食物に好みはない。何でも食べる。

第十三、舊き道具を所持せず――古いものなどを蓄へて置くと云ふやうな考はない。

第十四、我が身に取り物を忌むことなし――斯う云ふことは必要である、諦

らめると云ふことは極て必要である。電話番號が四百四十四番だからと言つて何も忌むことはない。さう云ふやうな色々な延喜を言つたり、金神の祟りだとか方角が何だとか言つたり、近頃は姓名が何うだとかよく言ふやうであるが、さう云ふことは武藏は構はぬ、何も構はぬ。

第十五、兵具は格別、餘の道具嗜まず――兵具だけはマア持つて居つたけれども其の他のものは嗜まぬ。

第十六、道に當つて死を厭はず。是は何うも學問でも同じことである。命掛けでなくては何事も出來ない。命を賭して懸つて奮闘して初めて誠心が其所に現はれ、さうして、もう何んなことに當つても死を厭はない。

第十七、老後財寶所領に心なし――財寶とか所領とかさう云ふものは一向考へない。

第十八、神佛を尊み神佛を賴まず――武藏が或る時大勢の人と仕合をせんければならぬことがあつた。其の時に社の前で拜み初めた。が不圖思ひ出して神佛を尊み神佛に賴まず。決して賴んで行かぬ、神佛に賴めば弱い心が

起る。弱い心が起れば負る。是は間違ひであつたと心付いて、神佛には決して賴らない。賴る所は何處迄も自分の力である。卽ち自力でやると云ふ精神である。其處が誠に面白い處である。神佛は尊ぶが神佛の助をかりないで自分でやる。

第十九、心常に兵法の道を離れず――劍道兵學に心掛けて居るからには、さう云ふ風に兵法の道を離れてはならぬ。他の學者でも學問の道を離れてはならぬ。それ〳〵其の人の立場によつて道があるのである。其の道を平常心掛けて置かなければならぬ。地を換へて言へば同じことである。此の獨行道は武藏の個人主義を言ひ表はしたもので餘程研究の價値がある。其の他武藏のことに就いて面白いことがあるけれども、餘り長くなるから今回は是で止めて置く。

總て太刀にても手にても、ゐつくと云ふ事を嫌ふ。ゐつくは死ぬる手なり。ゐつかざるは生る手なり。

宮本武藏

明治天皇陛下

明治天皇陛下の御人格

一　世界に類例なき先帝陛下の偉大

茲には舊天長節に際し謹んで先帝陛下の御盛德を追慕し奉る爲に御話をするのでありますが先帝陛下の御盛德の偉大にして、且明治以後の日本に非常な影響のありたること、又この影響を後の人が益々有效ならしむるやうにしなければならぬと考へまするのでありますから、それ等の點に付て少しく感ずる所を御話して見ようと思ふのであります。

先づ第一に　明治天皇を歴史の上から考へて見まするといふと、斯ういふ感じが致しまする。明治天皇のやうな偉大な天皇はどうも内外に於て是まで殆ど類例が無かつたやうに感ずるのであります。日本に於ては固より、神武天皇のやうな日本國家を創設なされたやうな偉大な天皇も在らせられますし、又歴代の天皇の中にもなか〳〵偉大なる功績を遺されました天皇が少くないのであるが、併し　明治天皇の御事業の偉大なる點に至つては、殆ど前古を

超絶すと云つても決して不可なることはないであらうと考へられます。其關係の廣くして大なる點に至つては迚も昔の狹い範圍の關係とは同一の談でないやうに思はれます。又日本以外の諸國の帝王と對照して考へると、色々私も考へて見ましたが、どうも明治天皇の如き帝王は海外諸國に於ても殆ど類例を見出すことが困難であるやうに思はれる。西洋諸國でもなか〳〵偉大なる帝王が昔からあります。希臘、羅馬からして今日に至るまで各國の帝王中には非常な豪い人が出て居ります。けれども一層細かく對照して考へて見まするといふと、何うであらうか、明治天皇の如き帝王が曾て西洋諸國にもあつたであらうか。さういふ疑が起るのであります。マアどういふ帝王が昔から偉大の人として視られて居るかと云ひますると、アレキサンデル大王であるとか、ナポレオン第一世であるとか、獨逸のフレデリック大王であるとか、或は獨逸帝國の最初の帝王でありました彼ウヰルヘルム第一世であるとか、露西亞のペートル大帝であるとか、或は又帝王ではないけれども、米國合衆國の創立者である所のワヽシントンであるとか、斯ういふやうな人々がマア非

常な偉大なる人と視られて居ります。其外にもまだありますけれども、さういふ人が非常に偉大なる人であります。さうして偉大なる帝王は多くは大の字を附けて呼んで居ります。ジーザー、グレートといふ字を附けて、大王若くは大帝と稱して來て居ります。さういふ人は何れもえらい人に相違ないけれども、其えらい點が違ふやうであります。アレキサンデル大王のやうな人は、是は非常なえらい人で、マセドニアから起つてペルシアを征服し、終に大軍を率いて印度に攻入つて、印度の一部を征服したやうな人であります。大帝と呼ぶやうな偉大な帝王に相違ないけれども　明治天皇とは餘程性質が違ふ。迚も比較し得られぬやうな所があります。アレキサンデル大王は非常な英傑ではありますけれども、德といふ點に於て迚も　明治天皇とは比較にならぬ。德が迚も　明治天皇のやうな譯にいかぬ。德が缺乏して居る。唯非常な不世出の英傑といふことは偉大を極めて居るけれども、德の點に至つては非常に缺乏して居ります。色々な甚しい缺點を現して居るのみならず、自分の生命を曾て救ふてくれた人を些細なことの爲めに怒に乘じて殺して居る。さうい

ふやうな人で、人情に背いた殘酷なことを幾度もやつた人であります。一例を擧ればさういふことがある。それが一例に止まらぬ。種々なる人情に背いた殘酷なことをして居ります。人を殺すことを何とも思はぬといふやうな事がアレキサンデル大王のやうな人にはよくあるのであります。明治天皇に於てはさういふことは少しもないのであります。是は非常な相違であります。

又ナポレオン第一世の如きもアレキサンデル大王と稍々似たやうな性格の英雄であります。不世出の英傑といふ點に於てはナポレオンもアレキサンデル大王と異つた所はないのでありますが、矢張り是もなか〳〵人情に背いたやうなことが屢々あります。德といふ點に於ては迚も明治天皇と比較する譯にいかないのであります。其外の大王若くは大帝と稱せらるゝやうな人は何れもそれ〴〵えらいことがありますけれども、どうも明治天皇程の功業が備つて居らぬ。迚も明治天皇程の偉大なる事業がないと思ふ。尤もワシントンは帝王といふのとは少し違ひますから、是は姑く別としまして、シャーレマンはなか〳〵偉大なる事業があります。多くの大帝大王中に於て比

較的缺點が少く、又なか〳〵功績もあるのでありますけれども、是にしてもどうも明治天皇に較べますると、まだ德の遠く及ばぬ所が見えるのであります。明治天皇の御德の偉大は海内は言ふ迄もなく、廣く世界を蔽ふかの如き感があります。シャーレマンはなか〳〵さうは往きませぬ。それでシャーレマン大帝は後が續いて居りませぬ。あれ丈けのえらい帝王でありますけれども、後は永く繼承しないといふやうなこともあるのであります。

二　先帝陛下とウヰルヘルム第一世

西洋の帝王で明治天皇に餘程比較し得らるゝ方は獨逸のウヰルヘルム第一世であらうと私は思ふ。獨逸のウヰルヘルム第一世の頃丁度私は伯林に居りました。私はウヰルヘルム第一世の崩御の時も居りました。ウヰルヘルム第一世の靈柩をドームに安置しまして、市民に皆參拜させました。其時に私も矢張り參拜しました。それで色々其時の事を考へて見まするといふとウヰルヘルム第一世と明治天皇の間には比較すべき點が大分あるやうに思ふ。

其の比較すべき點は主に三つの點に歸著すると思ふのであります。第一の點はウキルヘルム第一世は餘程仁愛の心に富んで居る帝王であつたと私は思ふ。普通の帝王とは餘程違つて居りました。ウキルヘルム第一世の住つて居られた宮殿はウンテル・デン・リンデンの街にありまして、街並の宮殿でありました。さうして隣は宿屋であります。宿屋はウキルヘルム第一世の宮殿と大きさに於ては餘り變りはない。或は宿屋の方が少し大きくはなかつたかと思ふ位で宮殿と宿屋と隣り同士である。大した違ひはない。其宮殿に居られまして折折宮殿の窓から御顏を御出しになつて市民に挨拶を爲さるのを私は見て居りました。さうして御顏を御出しになるからして市民がよく宮殿の前に大勢集りました。其市民は雜駁なもので、勞働者も居れば學生も居れば商人も居るといふやうな具合で、雜駁な群衆が宮殿の前に集まる。もうウキルヘルム帝が御顏を御出しになるであらうといふやうな具合で待つて居ります。さうするとウキルヘルム帝はなか〳〵愛嬌のある方でありますから窓から御顏を御出しになつて挨拶をなさる。さうすると皆群衆は帽子を取つてホツハ〳〵と

いふ、卽ち萬歲を叫ぶ。折々さういふことがありまして大變市民と親しい。昔から漢の高祖のことを歷史に形容して寬仁大度と云つてありますが、實に寬仁大度の帝王であると思ひまして、漢の高祖を聯想したことが屢々あります。なか〳〵寬仁大度で仁愛の心に富んだ帝王でありましたからさういふ所を考へて見ますると明治天皇に比較し得らるゝやうに思ふのであります。明治天皇が實に寬仁大度の御方であつたことは諸君の御存じの通りであります。

それから第二には人材を能く任用なされた。ウキルヘルム帝はビスマルクモルトケを首として、當時の人材を能く任用して、それ〴〵其の能を盡さしめられたのであります。人は各々其の長所があるものであります。其の長所に從つて己が技能を發揮せしむるやうになされたのであります。ウキルヘルム帝が御自身で何事もなさるといふやうなことでなくしてそれ〴〵股肱の臣を能く任用して、さうして獨逸帝國の建設を全ふせられて、又獨逸の國運を一層興隆された次第であります。さういふ具合に人材を能く任用なされたといふやうな所が、明治天皇に亦比較し得らるゝ。明治天皇が矢張り餘程能く

人材を任用遊ばされたことは、明治の初年以來のことを考へれば分る。岩倉公、三條公を首めとし、西郷、木戸、大久保、それから後の伊藤公爵などといふやうな人々を能く任用遊ばされて、それ〴〵其の長所を發揮せしむるやうになされた。さういふ具合に、明治天皇が御自身で宰相のすべき事迄何も彼も總てなさるといふやうな事でなくして、能く人材を任用遊ばされて、股肱の臣として之を駕御統一爲された所がウキルヘルム帝と比較し得らるゝ所であると思ひます。獨逸の今の帝王のことを考へて見まするといふと、ウキルヘルム第一世と餘程違ひます。獨逸の今の帝王は自分で大抵なことはしやうとなさるゝやうな傾向があります。ウキルヘルム第一世とは餘程違ひます。ウキルヘルム第一世と　明治天皇の間にはさういふ比較し得べき點があるのであります。それから其次には事業の點からして餘程比較が出來ると思ひます。明治に於ては是はもう言ふまでもなく、王政維新に次いで西南戰爭があり、日清戰爭があり、北清事件があり、それからして日露戰爭といふ非常な大戰爭があつた。それを經過して來て居るのでありますが、獨逸に於てもウ

キルヘルム第一世の時には隨分大きな戰爭があつたのであります。最も大きな戰爭といふのは普佛戰爭。卽ち佛蘭西をして城下の誓ひを爲さしめ、五十億フランの償金を出ださしめ、エルザス、ロトリンゲンの二州を割かしめたといふやうな大きな戰爭があつた。此戰爭の結果、獨逸諸州が聯合して獨逸帝國を建設したのである。其初の帝王が則ちウキルヘルム第一世である。それはビスマルクの發議に依つてヴエルサイユの宮殿に於てプロシアの王ウキルヘルムを獨逸聯邦の帝王と爲したのである。斯かる大戰爭があつて、それからして聯邦となつた。之に先ちて獨逸は丁抹と戰つて之れに勝ち、又墺太利とも戰つて之に勝ちて居るやうなことで、屢々戰爭があつて、さうして獨逸の國運は隆々として興つて來て居ります。そこが日本の明治の時代と餘程比較し得らるゝ所であります。それで　明治天皇と一番よく比較し得らるゝのはウキルヘルム第一世であると思ふのであります。多くの西洋の大帝といふものはえらいことはえらいけれども、覇者が多いのであります。孟子に言はせると覇者の部類に屬するので、王者ではない。仁德足らずして

權謀術數等に依つて權勢を得、或は單に戰鬪攻伐に依つて權勢を得て大帝と爲つたといふやうな人が多いのでありまして、明治天皇とは餘程類を異にして居るのであります。唯ウキルヘルム第一世に至つてはどうも覇者といふことは少しむづかしい。矢張り王者の部類であらうと思ふのであります。さうしまするとウキルヘルム第一世が餘程　明治天皇と比較し得らるゝ點が多いのであります。其外にもまだ比較し得らるゝ點があるかも分りませぬが。此三つの點が一番顯著なる類似の點であると考へられます。

併ながらウキルヘルム帝にしてもまだなか〳〵　明治天皇には及ばぬ所があるであらうと思ふ。尠くも斯ういふ點を擧れば分ると思ひます。成程獨逸が佛蘭西と戰つたり、埃太利と戰つたりして、さうしてそれに打勝つたといふことはえらいことでありまするけれども、日本が支那に打勝ち、又露國に打勝つたのとは比較にならぬ。獨逸と佛蘭西と戰つたのはマア是は對對の戰ひであります。大した國力の違ひのない國と國とが戰つたのであります。佛蘭西が獨逸に勝つたからと云つて、さう大變怪むことはない。獨逸が佛蘭西

に勝つたからと云つてさう大變怪むことはない。勝つた方が強かつたからそれはえらいけれども、どつちが勝つてもえらい不思議はないのであります。でありまするが日本と支那といふのは元來非常に國の大きさから、人口の多少から、違ひが甚しいのです。非常な違ひです。支那は日本より十倍の大きさの國である。人口ははつきり分らぬけれども、兎に角日本より非常に多い。三億から五億と計算されて居る國民でありますから、どんなに少く見積りても三億位居るでありませう。それ丈けの違ひがあるのに日本が勝つたといふのは、獨逸が佛蘭西に勝つたより遙に驚くべきことであつて、是は奇蹟と云つても宜いやうな非常なことである。昔から斯かる例は大變少い、非常に少い。それが又後に至つて一層甚しい例を示した。日本が露國と戰つた。覇を歐洲に唱へて居る强國である露國と戰つて、さうして之に勝つた。露國は土地の廣さから言ひますると日本の六十倍ばかりある。人口は其割に多くはないけれども、それでも日本よりは遙に多い。兎に角是も日本よりはズット大きな國である。歐羅巴の强國の豫て恐れて居つた國である、それと戰つて勝

つたといふことは、獨逸が佛蘭西に勝つたといふのとは非常な違ひである。是は實に驚くべきことで、人類の歴史に於て長く奇蹟の如く感せらるゝ實例である。成程獨逸の佛蘭西に勝つたのはえらいことはえらいけれども、日本のやうな比較的に小さい國が遙に大きな支那だの露國と戰つて勝つたのとは迚も同日の談ではない。比較して見ますると事柄が大變に違つて居る。又獨逸が聯邦となつてより隆々として進んで來たといふことは、えらいことはえらいが、其進歩の程度に於てもまだ日本の方が遙にえらいと思ふ。德川時代のやうな封建制度の時代からして一足飛に明治の文明の時代に推進んで來ました。例へば髪の風から乘物から總て大變化です。頭は髷に結ふて大小を差して居つたやうな服裝から何から大變違つて、乘物も駕籠のやうなものをスツカリ止めて仕舞つて、悉く文明の利器を利用して明治の文運を開拓して來た。此の變化の迅速なること、迚も獨逸が聯邦になる前と聯邦となつた後の變化の比でない。變化の程度は日本の方が一層甚しい。ズツト甚しいと思ふ。一足飛に文明國になりました。獨逸もなか〳〵一方ならぬ變化はして居りま

す。それは非常な變化であるけれども、併し獨逸の變化は如何に迅速と雖も、前から在つたのが一層發展して來たのであるけれども、日本は前から在つたものゝ外に外來の文明を取つて、劇變を來して、さうして今日の如き文運を開拓して居る。西洋では數百年掛つたことを僅々四十五年の間に成し遂げて進んで來たといふ、此迅速なる變化に較ぶればまだ獨逸の變化は遲々たるやうに感ずるのである。さう云ふ點を考へて見ると云ふと、ウキルヘルム帝の事業は非常に偉大であるけれども、明治天皇の方が遙に偉大ではなからうか。それに明治天皇の御文德に至つては迚もウキルヘルム帝の及ぶ所でない。御文德のことは後で御話する積りでありますが、明治天皇の御文德といふものはなか〳〵優れて居らせられた。ウキルヘルム帝の御文德といふやうなことは一向に聞いたことはないのであります。ウキルヘルム帝は非常にえらい方で、最も明治天皇と比較し得らるゝやうな點が多いけれども、それでも明治天皇の方が矢張り一層偉大であらせられたやうに思はれる。

此の明治天皇の御盛德は今日私は充分御話することは出來ませぬが、併

しマア列擧して置く丈けのことは必要であらうと思ひます。

三　御仁愛の御德

明治天皇の御盛德として數ふべきことは、第一は非常に仁慈の心に富んで居らせられたといふことであります。非常に仁愛の心に深い御方であつた。是は固より歷代の天皇の中にさういふ方もありましたが、明治天皇は實に此複雜なる世の中に於て、海外諸國と色々な關係のある場合に於て、非常に廣大なる仁愛の御德を發揮遊ばされたのであります。宮中に於て近く御仕へ申して居る者に對して御仁慈の御心の非常に厚かつたといふことは豫て聞いて居りますが、さういふことは姑く措きまして、私の最も感じました事は彼の日露戰爭の際であります。日露戰爭の際に彼の旅順の未だ陷らざるに當つて勅語を賜つた。時の乃木大將に勅語を賜はりまして、彼の旅順口內の敵の非戰鬪員を救ひ出せといふ御命令であります。女であるとか、子供であるとか、さう云ふ非戰鬪員が旅順口內に居る。それを旅順の陷落せざる前に救ひ出せ

といふ御命令であります。其爲に山岡中佐は使者となつて敵の城塞に向つて進んで行かれたのであります。其時のことは詳しく山岡中佐から聽きましたが、是は非常に趣味ある事柄であると思ひます。此　明治天皇の　勅語の御趣意は敵の方に山岡中佐に依つて傳へられまして、ステッセルも非常に感動したといふことであります。明治天皇の其御德に對して深く感激したといふことであります。但し非戰鬪員を救ひ出すといふことは向ふではやらなかつたさうでありますけれども、併し　明治天皇の御趣意に對しては深く感激したといふことであります。それから旅順が愈々陷落しました時に又　明治天皇の　勅語がありました。是は敵の大將ステッセルを遇するに武士の禮を以てせよといふことであります。非常な寬大なる御心が茲に現はれて居ります。旅順の戰爭は實に悲慘なもので。あの爲めに日本の兵士の死んだ數は何萬を以て數ふるのであります。其の最も悲慘を極めた戰鬪であつたことは諸君も御存じでありますが、それに拘らず其敵の大將が愈々降參をした時に、之を遇するに非常な寬大なる御仁慈の御心を以てせられたといふことは、是はど

うも世界萬國をして驚歎せしめたであらうと私は思ふのであります。確に是は世界の人類の胸奥に深き印象を與へたに相違ないと思ふのであります。新約全書に敵をも愛せよといふことがありますが、敵をも愛するやうな國は基督教國には却て少いのである。然るに。此　明治天皇の　勅語の御趣意は眞に敵をも愛するといふことを實現遊ばされたのであつて、非常な寛大なる御心であると察せらるゝのであります。それで其頃であります。新聞にも出ました御製に世界の人類は皆同胞であるといふことをお歌ひ遊ばされたのであります。それは

四方の海みなはらからと思ふ世に
　　など荒浪の立ちさわぐらん

といふ御製であります。此世界人類を矢張同胞として深大なる御同情を御持ち遊ばされたといふことが此御製によつて分るやうな次第であります。非常な仁慈の御心に富んで在らせられた御方だといふことはそれ等の例を以て考へても能く分ることであります。

又　明治天皇は非常に質素の御方でありました。此質素で在らせられたといふことは今日では色々なことに依つて分つて居ります。平素の御居間の有樣なども驚く程御質素で在らせられたといふことを聞いて居りますが、私は自分で一つ感じたことがありますから、それを御話し申上げます。丁度私は明治天皇の御重患に在らせらるゝ間際でありましたが、廣島縣に講習會がありまして廣島市に行つて居りました。併し廣島市は私は其時始めて參りましたのであります。あすこの比治山の上に丁度日清戰爭の際に立てられました便殿を、そつくり其儘持つて來て立てゝありました。其の便殿を拜觀いたしますといふと三つの間から出來て居ります。眞中の部屋は四十疊敷かるといふことであります。室としては可なり大きいのでありますが、併ながら何にも飾りといふものはない。何んにも飾りはなくして周圍は何にも塗つてもありませぬ。板の儘の壁であります。さうして其板と板との間は青竹が打附けてあります。繼合せの所を隱す爲めに青竹が打附けてある。それが　明治天皇の便殿であります。日清戰爭の際は此便殿に御住ゐになつて居りました。

其兩翼の部屋は侍從などが居つたといふことであります。私等が參りました時はそつくり其日清戰爭の際の玉座を其處に保存してありますから、玉座を持つて來て、机の上に掛ける掛物から何からそつくり元の通りに致して飾つて見せましたが、誠に質素な便殿であります。迚も一天萬乘の天皇の便殿と考へることは出來ない程に意外に質素な御住ゐであります。タツタ一ト部屋で飾り氣も何にもない誠にマア單純な便殿であります。其處に日清戰爭の際は凱旋遊ばせらるゝまで永く居らせられたといふやうなことである。其の一事を以て考へても餘程質素な御方であつたといふことが分る。各國の帝王の平素の有樣を考へまするとなか〳〵非常な奢りを極めたことが隨分多いのであります。其の質素の反對の側に於て隨分甚しい事があるのでありますが、明治天皇に於かせられては國運隆々として興つて、盛大を極めて來つゝある に拘らず、平素の御住ゐの有樣といふものは誠に質素でありました。却て華族の大多數よりも質素であらせられたやうであります。それからまだ其側に於ては色々美譚が世に傳へられて居るやうでありますが、私が自身に感じた

こと丈けを申すのであります。

四　御精勵の御德

それから又非常な御精勵な御方であつた。勤勉なる御方であつた。是は斯ういふ點から考へても驚くべき程であります。明治の治世は丁度四十五年間でありますが、王政維新から御崩御の年の七月まで四十五年間、此間の日本の事業の煩雜であつたといふことは驚くべきことである。封建時代から一足飛に明治の如き文運を開拓するといふことは、是は非常な大事業であります。此事業に從事した人はなか〳〵多い。明治の功臣は悉く之に關係して居るのであります。三條公、岩倉公を首めとして其他の明治の功臣は悉く關係して居る。木戸、大久保、伊藤其他今日の元老に至るまで皆關係して居るけれども、外の者は誰でも絶えず關係して居るといふのではない。どういふ總理大臣でも何年か總理大臣をして居りますと、種々な關係の爲めにどうしても切つぱ詰つて其處に居られなくなる。進退維れ谷つて辭表を呈して野に

下る。さう云ふやうに大臣を罷めるので、内閣はガラッと變つて外の人が總理大臣と爲つて、今度又新に政治の方針を立てるといふやうなことが通例であります。それだからして總理大臣のやうな人が明治の初年以來今日までズット續いてやつて居るといふことはない。内閣は幾度も迭つて、さうして明治の功臣はどんな人でも時々閑散の身となつて外の事をやつて居る。全く閑散でなくても職に在る時とは大變違ふ。所が　明治天皇は打通しです。明治天皇は明治の初年からして崩御になるまでズット引續いて總て功臣を統御し、此の政治を統一し、日本の文運を開拓遊ばすといふことに於ては少しも間斷のあらう筈はない。獨り　明治天皇丈けが明治の初年からして崩御の年の七月までズット繼續して、御宸襟を惱ませらるるのみならず、有らむ限りの力を御盡し遊ばされたといふことは少しも疑ひない。どんな功臣があつても此點に於ては　明治天皇に匹敵すべくもあらず。明治天皇が中心と爲られて總てを統一遊ばされて、明治の文運といふものが開拓されました。非常な御精勵の御方に非ずんばむづかしいことであります。それに私等が深く感じま

した事は、明治四十五年の七月三十日に崩御遊ばされたのでありますが、其同じ月の十日には帝國大學へ行幸遊ばされて、例年の通り。我々も其時帝國大學に於てに拜謁仰付けられたやうな次第であります。さうして例年の通りに色々な天覽に供する爲に陳列した物を御覽遊ばされたのみならず、陛下は儼然として卒業の式場に御臨場遊ばされて、式も立派に例年の通りに終りました。同じ月と雖も僅に十日から三十日、卽ち二十日の間に斯かる大變化のあらうとは誰も豫想することは出來なかつた。天皇陛下がいつもの通りに帝國大學に御臨幸遊ばされた。其後二三日を經て又樞密院會議に御臨幸遊ばされたといふことであります。それから間もなく僅々數日を經て御重患に罹らせられたやうな次第でありまして、大學へ御臨幸の際には幾らか御不例の點があつたであらうと後から察せらるゝ位であります。非常な御精勵の方に非ずんば斯ういふことは迚も出來ないことであらうと思ひます。なか〳〵斯ういふ點に於ては平素能く勤めて居らせられたといふことが分る。

五　御綿密の御德

それからして其外に御盛德の一つとして擧げますることは綿密であらせられたと云ふ事である。非常な綿密な御方で在らせられたといふ事は、是は屢聞いても居りまするし。少しも疑ひのない點であります。例へば有司百官の姓名なども案外細かく御記憶遊ばされてあつたといふことであります。一天萬乘の君で在らせらるゝからには。主なる大臣とか何か丈け御記憶遊ばされて、あとは御構ひないかといふやうに思ふならば、大變な間違ひで、なかなか細かく普通のものよりは能く御存じであつたといふことであります。何事に付けても其通り非常に綿密の御方であらせられたと聞いて居ります。さういふ次第でありますから政治上の事にせよ何にせよ、先帝陛下に申上げまするやうなことはなか〳〵能く前以て研究して、少しも間違ひのない所を申上げないといふと非常に困るやうなことがあつたといふことであります。餘程の決心を以て確な所を申上げませぬといふと非常に恐縮いたすやうなこと

が出來て困つた場合もあるさうであります。それは全く明治天皇が非常に綿密で在らせられて、先き〳〵の利害得失等を能く御考へ遊ばされて、是は斯ういふことを實行してはいけないといふことを御考へ遊ばさるれば決して御許しがない、又それを强ひて實行しやうとすれば斯ういふことが起りはしないかといふやうなことを仰せらるゝので、非常に困るやうなことがあつたさうであります。一言もない急所を突かれて、申上げた者は流汗背を霑すといふやうなことが隨分あつたといふことを聞いて居ります。

六　御勇敢の御德

それから又非常に勇敢の御方であつたと私は思ふ。是はなか〳〵日清戰爭日露戰爭といふやうな、斯かる大戰爭を爲すに當つては、上に立たれる所の天皇陛下が勇敢で在らせられなければ迚も出來ませぬ。此の戰爭の詔勅などといふものが煥發せられますのは、なか〳〵天皇陛下の御決心が鞏固でなければ迚も出來ないことであります。所がどうしても清國と戰はなければ

ならぬ、露國と戰はなければならぬといふ時になりまするといふと　天皇陛下は斷然此の事を許可遊ばされる。平素のことはなか〳〵細かいことでも綿密に御覽遊ばされて、容易に御許可もないやうなことが隨分あつたといふことでありますが、又日清戰爭、日露戰爭のやうな重大事件、卽ち國運を賭して掛るやうな場合、又運が惡くなれば　天皇陛下の御身にまで掛るかと思ふやうな非常な重大事件を斷々乎として斷行あらせられて、開戰の　詔勅を煥發遊ばさるゝ、卽ち大山前に崩るるとも、狂瀾後ろに渦くとも、少しも動搖せらるゝことなく、一旦　詔勅を煥發遊ばさるれば必ず其の御趣意を貫徹遊ばされたのであります。實に鞏固なる態度を以て清國だの露國の如き斯かる勁敵に對せられたといふことは、是は非常な勇敢の御方でなければ出來ないことであると思ひます。

七　御趣味の豐富

さういふやうな御德を列擧しますると、まだ外にもあります。が私より一

層精しい御方もありませうから一々は申しませぬが。唯もう一つ申上げたい。是が私の少しく精しく御話したい點であります。それは趣味の點であります。明治天皇はなか〳〵趣味に富んで居らせられた御方であると思います。是は殊に申上げたいと思ふのは、戰功赫々たる帝王などは往々趣味の缺乏して居ることがあります。アレキサンデル大王が如何にえらいと云つても、趣味の點に於ては缺焉として居ります。ナポレオンと雖も趣味の點に於ては非常に缺乏して居ります。大抵の帝王はさういふ風であります。所が　明治天皇の御文德に至つては、實に古今稀なることであります。私が諸君に御話し致すに丁度都合の好いことは、曾て高崎男爵が私に會いたいといふ事でありました。尤も高崎男爵は私の家にも一二回見えたことがあります。明治四十四年の春であります。高崎男爵から、是から行きたいが差支ないかといふ電話が掛りました。それから私は丁度其時分家に差支がありましたから、こちらから上りますと答へました。一度も高崎男爵の所には上りませぬから、今度はこちらから參りますと云つて私が訪問いたしましたのが午前の十時頃であり

ました。十時頃から段々話が續きまして、午後一時か二時頃になりました。其話の多くは御文德に關することであります。色々珍しいことを其時高崎男爵から聽きました。それから又明治四十四年の十一月であります。大學の山の上の御殿に於て色々名敎に心を寄せて居る者が約二十人ばかり集會したことがあります。其時に又高崎男爵に電話を掛けまして、斯ういふ會を催ふしますが一德會長として御出でになつてはどうですかと申しました處がそれは面白い會だから是から參るといふことでありまして、間もなく其席に見えました。其會の時に又私が高崎男爵に何か御盛德に關することを御話なすつてはどうですかと申しました處が豫て用意をして居られたと見えて、立上つて約一時間ばかりの御話がありました。それが大部分矢張り御盛德に關すること、殊に御文德に關する珍らしい話でありました。それで一座の人をして大に感動せしめたのであります。此話の中に少しまだ私の耳に殘つて居ることを御話して置きたい。是は速記しなかつたのが殘念でございます。餘り良い話ですから高崎男爵に再び同じことを話して貰つて、速記して置かうといふ

考でありました所が、其中に男爵は病氣になられた。それからして一德會の爲めに地方に御出でになつて、とう〳〵重患に罹つて、明治四十五年の春高崎男爵は　明治天皇に先つて薨去されたといふやうな次第で、ちやんと之を速記することが出來なかつたのでありますけれども、高崎男爵から私が明に聽いたのでは　明治天皇の御歌の數が明治四十四年の一月までに九萬五百首に達して居る。新聞には折々六萬首などとありましたが、それは間違ひで、高崎男爵より詳しく知つて居る人は誰も居らない。それで高崎男爵が九萬五百首と云はれたのは間違ひはなからう。是は非常な數であります。それだと、もう少しで十萬になるではありませぬかと言つた所が、十萬になる、もう少しすれば十萬になるといはれた。そんなに澤山御作りになつた。約十萬に垂とする程の歌を作つた人は是まであつた驗しがない。それで色々古今集とか萬葉集とかいふあんなものは幾らもあるが、あんなものを皆集めても追つ附かない。なか〳〵大した御歌の數であります。それで其の御製が量に於て前人を超越して居る。專門の歌人と雖もそんなに作つた人はないといふことで

あります。所が唯量に於て多いばかりでなくして亦非常に立派な御作がどつさりある。此の御製を初めて世間に漏しましたのは日清戰爭後であります。高崎男爵が折々世に漏しまして、さうして其漏らしましたときの逸事があります。是も詳しく聽きましたが、今日は御話する遑がありませぬが、兎に角日清戰爭後から漏し初めまして、日露戰爭の際に御製が續々新聞に出ました。國民新聞を始め色々な新聞に出ました。是等の御製が實に全國の國民をして深く感動せしめたのであります。又三軍の志氣を皷舞したことも多大であつたといふことは軍人の側から聞いて居ります。非常に立派な御製があります。さうして此の日露戰爭の際から　明治天皇の御歌が一層進歩したといふ。斯ういふことを高崎男爵が言つて居られました。一段の進境を此際に認める。是には譯があるといふことを話して居られました。それは斯ういふことである。どうもそれまでは　天皇陛下が行幸を遊ばされるといふと、百姓家なぞの汚い所は皆掩ひ隱して、天皇の御目に留まらないやうにした。所が日露戰爭の際には　陛下が野外へ御出でになることが多くして、迚も一々汚い所を

掩ひ隱すことが出來ないやうになりました。そこで百姓家や何かのむさくろしい所が能くお目に留るやうなことになつた。それが却つて　天皇陛下が民間の事情を能く御察し遊ばされる機會となつて、それが御製の上に續々現はれて來た。それであるから泌み〳〵と下臣民が感動するやうな御製が此際から一段多くなつて來たのである。此事は高崎男爵が話して居られた。それで此の御製がどつさりありますといふことはなか〳〵意味のあることである。どうも　明治天皇のやうな御方の御側には——是は　明治天皇に限らず總ての天皇の御側には誰も容易に參ることは出來ませぬ。唯宮中の者若くは國務大臣、其他御側に參る者は限りがあるのでございます。下臣民は御側に往つて御言葉を拜聽することは迚も出來ない。平素どういふ御考であらせらるるか分らぬけれども、それがすつかり分るやうになつて來た。すつかりと言つても差支なからうと思ふ。此の御製がどつさり世の中に流布しまして何百首となつて居ります。尠くも三百首位は必ず世に擴がつて居るに違ひない。此の御製を讀みますると、御製の中に、明治天皇の御考があらゆる方面に關し

て現はれて居ります。教育のこともありますれば、修養のこともある。又武士道のこともあり、大和魂のこともあり、色々な御考が御製の中に現はれて居ります。其の御製を讀みますれば　明治天皇の御考が歴々と分る。手に取る如く分ります。それで　明治天皇の御側に往つて御考を承ることは無論出來ないが、出來ないにしても自らそれが出來て居る。此の三百首以上もありませうが、是等の御製を讀みますると能くそれが分る。さうして　明治天皇の御歌は虚構といふやうなことはなからうと思ふ。皆眞心を御歌ひ遊ばされたものである。明治天皇の御心に御感じ遊ばされたことを有の儘御歌に御作り遊ばされたのでありますから。御製を讀みますれば確に　明治天皇の御心がどういふ所にあつたかといふことが分る。それから御製の中に斯ういふのがあります。

眞心をこめたる歌の言の葉は
一たび聞けば忘れざりけり

といふ御製があります。卽ちそれは　明治天皇の御歌の如きものであります。

實に眞心が込めてあります。それでなか〳〵修養の助けになるものがあり、愛國心を皷舞するものがあり、色々あります。殆どあらゆる方面のことが御製の中に現はれて居る。

此點に於て昔からの大帝といふものは迚も　明治天皇に及ばない。如何にアレキサンデル大王が偉いと言つた所が、さういふ文學の側に於て缺焉として居る。ナポレオンは或は法典を編纂いたしたなどといふことはありますけれども、それは少し類が違つて居ります。法律のやうなものは往々大帝の編纂いたしたやうなものがあるけれども、歌といふやうな純文學の産物は殆ど見當らぬ。昔羅馬の帝王にマルクス、アウレリウス卽ちアントニーヌスといふ帝王があつたが、羅馬の帝王中最も良い帝王の一人であります。此人の著述が傳つて居ります。是は自己省察といふ著述であります。此の帝王はなか〳〵なか戰功があり、又其の治世に於ても事業が多いのであります。さうして仁君でありまして今のやうに著述もある。此人などが稍々、明治天皇に比較し得らるるけれども、事業の點に至りますと成程アントニーヌスも事業はあるこ

とはありますけれども、明治天皇とは比較にならぬ。明治天皇の事業は遙に遙に偉大である。其外のウキルヘルム第一世が、明治天皇と餘程比較し得らるゝのでありますけれども、此の文德といふ側に至つては迚も比較にならぬ。明治天皇の御製は唯花を詠じ、月を吟じたやうな歌ばかりではない、さういふ自然の景などを御歌にしたものもありますけれども、そればかりでない、總ての方面に亘つて居る。是は其中にどうかして宮内省より出版になるか知れませぬ。出版になることを我々は深く希望するのでございます。明治天皇の御歌集が世に出版されましたならば非常に國民を裨益することであらうと思つて居ります。

八　古今東西に卓絶し給ふ文武の御兩德

御承知の如く、明治天皇は大元帥で在らせられて、即ち此日本軍隊を統率遊ばさるゝ御方で、軍服を召されて居りまして、さうして勇敢な天皇で在らせられたが、さういふ御方で在らせられたに拘らず又御文德が備つて居る。

一體文武兩道を兼ね有するといふことは普通の者ではなか〳〵むづかしいことであります。大抵どちらかに偏するものであります。文に偏するか、武に偏するか、兎角偏し易いものである。論語にも「文質彬々として而して後君子なり」といふことがあります。此質といふのは武に當る。此文と質と二つのものを合せることが必要であるけれども、どうもうまくいかぬ。文に偏すれば弱くなる、武に偏すれば殺伐になつて沒趣味となるやうな傾向が多い。大多數がどちらかに偏して居るのであります。所が　明治天皇は兩者を能く併せて居らせらるゝ。御歌の側に於ては確に歌聖と申上げて差支ない。なか〳〵歷代の天皇の中に傑出せる御方である。御文德の極めて優れさせられた御方であるといふことは何人も是は異論のないことであります。さうして一方に於ては大元帥で在らせられて、非常な大戰爭をなされて、戰功赫々であらせらるゝといふやうなことがあります。文に武に兩方に偉大なる功績を御遺し遊されたといふことは、是が即ち　明治天皇の如何なる歷代の天皇に較べても遙に優れて在らせらるゝ點であると私は思ふのであります。さうして　明

治天皇の御考へは能く其の御製を拜見しまするとなか〳〵日本中心主義――主義と言ひましては語弊があるか分りませぬが、日本を中心と御覽遊ばされる御精神であります。それは、

かみつ代の御世のおきてをたがへじと
思ふぞおのが願ひなりける

又

いそのかみ古きためしを温ねつゝ
新らしき世の事もさだめむ
あし原の瑞穗の國の萬づ代も
みだれぬ道は神ぞ開きし

斯ういふやうな御製を拜讀いたしますると、どうしても日本の道を土臺として、是に依つて永久國運を開拓して往かなければならぬといふ、斯ういふ御精神が御製の中に歴々と現はれて居る。是等の御製は實に陛下の御眞心を御込め遊ばされたるものである。是等は　明治天皇の御遺訓として非常に尊い

ものであると考へられます。さうして大和心又は武士道を御詠じ遊ばされた御製が澤山あります。一々は擧げませぬ、が茲に斯う云ふのがある。

くろがねのまと射し人もあるものを
貫き通せ大和心を

是は丁度日露戰爭の際に世に發表になりましたから、何れ其頃の御作でありませう。

さういふやうなことでありまして、此の御製に依つて　明治天皇の御精神が果して那邊に在らせられたかといふことを能く想察することが出來るやうになつて居ります。其處等を能く考へて見ますといふと、今日の時弊に能く適中したこともあり、又今後日本國民の執るべき方針に非常な關係のある事もあると思ふのであります。唯今の世の中は兎角く歐米の風にかぶれ、心醉して往く風が多い。兎角祖國の精神を忘れて散漫に流れてさうして徒らに外國の風を唯眞似る。歐米の長所を容れるといふことは是れは大事であります から、容れなければならぬけれども、歐米の長所ばかりを容れるのでない。

歐米のことなら短所をも宜いことのやうに考へて容れる。どんなことでも容れて往く。日本の昔のことなら良いことも捨てる。惡いことを捨てるのは誰も異論はないけれども、昔のことなら良いことでも何でも皆捨てゝ仕舞ふ。歐米のことなら惡いことでも進歩であるとか何とか云つて、それを容れるといふやうな無方針、無定見に流れるやうな時勢になつて居るのであります。

其時に　明治天皇が斷々乎として日本國民の執るべき道を御製に依つて明かに御示し遊ばされたといふことは是は餘程今の青年が注意して考へなければならぬことであらうと思ふ。矢張り何處までも日本國民は此の民族の古來の精神を忘れないやうにして、寧ろ之を土臺として、さうして外來の文明を取つて發展して往かなければならぬ。其本來の日本民族の精神を失へば何も彼も分らぬやうになつて仕舞ふ。日本民族といふものはあれどもなきが如くになる。殊に日本國民としての威力といふものは失せて往くのであります。どうしても日本國民の發展の爲には營養分として日本民族の氣性、精神を研き上げて之を盛んにせぬければならぬ。其の爲めに歐米諸國の文明を取るの必

要があるのであります。歐米の文明を唯取るといふ丈けが目的ではない。取つて我を裨益するといふことが目的であるからには、日本民族の發展の爲めに害になることは斷然捨てゝ仕舞はなければならぬ。所が　明治の初年からして其風がある。殊に日露戰爭後からして、何でもかでも海外のものは取つて來る、さうして殊に不健全なるものを次第に輸入して來る傾向が色々見えて居ります。其一つの徵候としては遂に逆徒が現はれました。逆徒は所刑されたけれども、逆徒に近いやうな思想を有つて居る者はまだ幾らかあるのであります。さうして逆徒等の如き考へでなくても其外に不健全なる思想が隨分這入つて來て居ります。色々な名の下に這入つて來て居ります。さういふことは皆間違ひで本來の日本民族の立場を忘れて仕舞つたのである。で　明治天皇の御製は御遺訓として實に明な方針が示されてあります。それで殊に日本が發展しまして、大陸の一角を得て朝鮮半島といふものが日本に屬しました。さうして又關東州などといふ所が日本の權勢範圍に這入つて來ました。滿州も全體が權勢範圍の中に這入るやうな傾向がある。又臺灣の全部、樺太

の半分が日本に屬するといふやうな具合に、色々な方面に領土が擴がつて來ましたけれども、擴がるといふと統一が益必要であります。一體羅馬帝國の滅びた所以、希臘の滅びた所以を考へて見ますと、羅馬帝國の滅びた原因は色色ありますけれども、一つは次第に領土が大きくなつて、散漫になつて滅びたのである。希臘は不統一になつた。だからして日本も狹い範圍に限るときには統一がし易いが、段々擴がつて往つて、而も海を隔つて大陸の一部を得たり、樺太の半分を得たり、隨分支那の海岸に近い臺灣などを得て居る。此散漫なるものを統一しなければならぬから統一力といふものが以前よりも強くならなければならぬ。散漫であるといふと矢張り次第に國民の心が緩んで來る。殊に幾度も戰ひに勝つたので、勝利の結果段々心が緩み易い。戰ひには勝つたか跡がなか〳〵險呑です。それで戰ひは濟んだから當分武士道などは要らぬといふやうな考を起したり何かして心が緩む。それで明治天皇の御製に

千萬の民と心をあはせつゝ

國に力をつくせとぞ思ふ

といふのがある。どうしても今後日本の國運を發展させやうといふには統一といふことが必要である。日本では是まで統一の力で勝つて來ました。日本程能く國民の統一する所はない。日清戰爭の際でも日露戰爭の際でも擧國一致といふやうなことを人が言つたやうに、臣民が餘程能く統一する傾向がある。此の統一するのには譯がある。歷史的の理由があつて斯樣に統一するやうになつて居ります。此の統一力を失へば日本民族といふものは弱いものである。個人々々といふものは大して強いものでない。唯集つて一團となつて全力を外敵に向けて往くといふ所に日本國民の強い所があります。是に依つて清國に打勝ち、露國にも打勝つた。清國や露國はそれ程統一がない。殊に露國の統一のないことは戰爭中非常に不統一の狀況を現はしたので分る。ポーランド人、フインランド人、猶太人といふやうなものは露國の朝廷を呪ふ民で、露國の朝廷の利益とは相反して居る。ポーランド人などは戰爭中、內亂を起して露國に防害を爲したといふことは非常でありますっ。是は露國の爲

めには不幸でありますが日本の爲めには非常に都合が好かつたのでございます。若し露國が統一して日本に向つて來たならば日本は餘程困るけれども、彼等が不統一、亂脈であつたのは非常に日本に都合が好かつた。即ちボーランド人は幾らか日本に聲援を與へたやうなものであります。日本には內亂といふものは少しもない。平生は衆議院などに於ても色々なことをやかましく議論して居るが、卒ざ外敵が起つて來たとなると、滿場一致で幾等でも軍費を贊成して、戰はずんば內閣を攻擊するやうな形勢でありますから、上下一致して何とも言はぬ。唯戰ひさへすれば滿足するのだから、其處に非常な立派な殆ど理想的の一致が出來て、さうして外敵に當たる。それだからして上下心を一にすとか、億兆心を一にすとかいふことが大抵明治の詔勅に出て居ります。日本では億兆心を一にすといふことが大變大事である、今日生理學上からいふと我々の身體は四百兆の細胞から出來て居る。此の個々の細胞といふものは皆一個獨立の有機體である。それが集つて我々の身體を成して居る。さうしてそれが皆な機能を完ふして居る。或は腦に或は胃に或は心臟に

個々の細胞がそれ〴〵其の任務を全ふして我々の如き健全なる身體が出來て居る。獨逸の學者は我々の身體を細胞國と言つて居る。是は大變面白い言葉で、其細胞國といふ國が健全にならうといふのには此の細胞國を組織して居る所の細胞がそれ〴〵其の機能を完ふしなければならぬ。消化に從事して居るものは消化器に忠實に働かなければならぬ。呼吸に從事して居るものは呼吸器に於て其本職を完ふしなければならぬ。それ〴〵其の機關に於て忠實に働かなければならぬ。即ち億兆心を一にして初めて我々の身體が健全であることが出來る。國家は是に似て居ります。同胞六千萬の個人々々から成立して居る國が即ち日本である。此の個人々々がそれ〴〵自分の機能を完ふして、初めて日本國といふ國家が健全なることを得るのが、細胞の身體に於けると同じ關係で、少しも違ひは致しませぬ。それで細胞はそれ〴〵忠實に働いて居る。或部分の細胞が忠實でなくなりますと、病氣になる。即ち疔が出來たとか癰が出來たとか、いふやうな色々な局部の病氣が起つて來た時には、細胞が何かの原因の爲に不忠實になつた時であります。又癌などといふものは

全く別の組織が出來るのださうであります。健全なる細胞とは反對の働きを爲すのでありますから、段々それが擴かれば死んで仕舞ふ。といふやうなことであつて、社會の或一部に不健全なる思想を懷く者が出來たのは矢張りさういふ有毒な腫ものと同じである。例へば彼幸德一派の逆徒が何人か相互ひに聯絡を附けたのは丁度疔か何か出來たやうなものである。早くそんなものは切開して取つて仕舞はぬといふと、身體の健全性を損ふ。あゝいふ逆徒がずつと擴がつて來ると病毒が全身に擴がつたやうに非常に危くなる。さう云ふ毒で命を取られる者もあります。それだから彼れと此れとは餘程能く似て居ります。日本では此の六千萬の國民が共同一致して鞏固なる團體となつて往きさへすれば如何なる勍敵が起つても恐るゝに足らぬ。なせならば是に依て過去に於てはいつでも外敵に打勝ちて來て居ります。如何なる大敵が來ても國民が共同一致して全力を傾けて外敵に當たる。共同一致しますと六千萬の人々が相集つて大きな有機體を成す。是か全力を傾けて敵に向ふのであるからなか〳〵強い。それだから國史の成績に依りますると日本國民は一體

となつて活動さへすれば如何なる大敵が來ても決して恐るゝに足らぬ。必ず打勝つといふ希望がある。それでありますから上下心を一にし、又は億兆心を一にするといふことが明治の重なる詔勅には必ず現はれて居る次第であります。

九　御詔勅と我國體

此詔勅にしましても　明治天皇の詔勅のやうなものは他の國ではなかなか出來ないだらうと思ひます。是は歷史家とも話を致しましたが、なか〳〵他の國では出來ないやうであります。例へば軍人勅諭、敎育勅語、それからして戊申詔書のやうなあゝいふ詔勅であります。殊に敎育勅語に至つては實に西洋の希臘、羅馬以來の帝王中に比較すべきものが斷じてない。是は私は歷史家でないから歷史家にも相談しました。さういふものがないと思ふが、どうだらうといふと西洋の帝王ではあゝいふ敎育勅語のやうなものは出せない。出しましても迚も敎育勅語のやうな具合に威嚴がない。日本では元々君

臣上下の關係といふものが自然に出來て居る。天皇の系統も臣民系統も元と同じ民族で、血族の關係がある。日本民族は血族關係を有つて來て居る。君臣上下の關係は歴史以來儼然として成立つて居つて。歴史以前に遡つても何處までも續いて居る。神話の中にもあるやうなことで、自然的に出來た所の君臣上下の關係である。天皇の賜つた敎育勅語といふものはさう云ふ血族關係ある下臣民を敎化する所のものであります。他國の元首は其臣民との關係が餘程違ふのであるから迚も敎育勅語のやうなものを發する譯にいかない。さうして歴史が新しい。清朝は滅びました。今の支那は言ふに足らぬ。清朝でありましても三百年にならぬ、西洋諸國は皆新しい。獨逸などは聯邦になりましてから漸く三十年位のものである。英國は古いけれども千年に滿たない。露西亞でもさうである。千年以上の帝王の系統のある所といふのは歐羅巴には一ヶ所もない。帝王の系統が決して日本のやうに連續しては居らぬ。それで他の國々は皆新しい。歐羅巴諸國でも、亞細亞諸國でも皆新しいのであります。何處を見渡しましても國といふ國は皆新しい國で、さうして其新

しい國も近頃初めて起つて來たのがある。又以前盛であつたのがずつと衰へたのもある。和蘭とか西班牙とかいふ國は國運既に衰へて居る。獨逸のやうな國は三十年來一層勃興して來て居るといふやうな事が色々ある。又ポーランドだのトランスヴールだのといふ樣な國は滅びて居る。清朝も滅びて居る。近頃滅びた國は幾らもある。卽ち世の中を見渡すと、世界各國興亡盛衰定りなき有樣である。或は興り或は亡び、色々になつて往きつゝある。其中で建國以來基礎に於て少しも變ることなく萬世を貫いて來て居るといふ國は唯日本丈けである。實に此廣き世界に於て太古より今日に至るまで帝統を成して、さうして將來に向つて益々發展して往きつゝあるのは日本丈けである。日本の國體といふものは萬國にない。日本人の短所は澤山あります。西洋人に較べるといけない所が色々ある。其いけない所は矯めなければならぬ。大に矯めなければならぬけれども、又日本人には何物も優れたものはないといふ程に落膽すべきでないと思ふ。又日本に少しも善い物がなければ日本民族としては氣性が衰へて仕舞ふのであります。日本民族——我々は日本民族であると

いふ誇りの感じが起るのは、矢張り日本民族に何處が善い所があるからでなければならぬ。日本民族としての、氣性精神といふものは何處かに偉大を極めた所がなければ起らぬ。偉大を極めた所があればそれを自覺して、居らなければ其感じも本當に起らぬ。日本の最も偉い所は日本の國體である。日本は斯ういふ國柄である。斯ういふ萬國に類例のない、萬國に超絶したる所の國家である。斯る他に類例のない偉らい國家の一員であるといふことが日本民族としての自覺心を生ずる。我々は日本民族であるぞ、支那人ではない、斯ういふやうな感じを起して來るのは日本の支那よりも優れて居るからである。又國體といふ點に於ては歐米諸國よりは遙に優れて居る。此點に於て我々は日本國民であるといふ誇りがある。徒らに御國自慢をして誇ることは良くないけれども、亦確に萬國に優れた所があればそれを能く知つて、それ丈けの抱負はなくてはいかぬ。それが本當の國民の力です。對外の時の力。卽ち外國に對したときの力である。明治天皇は萬世一系の皇統の御方で在らせられた。此の天津日嗣の御方であるといふ御自覺が確に充分にあらせられたに相

違ない。明治天皇が對外の態度に於て非常に鞏固で在らせられたのも斯う云ふ御自覺に因由したことであらう。それから又御仁心の極めて深大であらせられたのも恐くば實に日本の萬世一系の皇統を御繼ぎ遊ばされた御方であるといふ御自覺に淵源して居るではなからうかと思ふのであります。

それで何處を見ましても朝廷の永く續くとか、或は國家の永く續くとかいふことは矢張りそれの始めを成す所の人格に餘程關係するのであります。例へば支那ならば私は歴代のことを調べましたが、今其のあらましを申しますと先づ古い時代に於きましては夏殷周三代と申しますが、夏の時代は十七世で四百有餘年續いて居る。是は夏の禹王が夏の四百有餘年の帝統を開いた。矢張り聖人と言はれたやうな人でありましたから、是丈けの帝統を開くことが出來た。殷の世は三十世で六百有餘年。是は聖人とも言はれる殷の湯王のやうな人が帝統を起したからである。周は三十一世八百七十年といふやうになか〳〵永く續いて居る。是は文王、武王といふ聖人と言はれるやうな人が始を成して居る。是に加ふるに周公旦といふ稀なる政治家が始を成して居る。

さういふ具合に建國の始を尋ねますといふと、帝統が永く續く續かぬが分るので、德のある人が帝統を開きますとなか〳〵永く續きます。漢の高祖なども一例である。漢の高祖は寛仁大度の人で德望があつたからして、此人の帝統はなか〳〵永く續いて居ります。秦の始皇帝は豪傑は豪傑でありましたけれども、德がさつぱりない。儒生を坑にしたり。經書を燒いたりして亂暴なことをやつた人だから、永久帝統を續ける積りでありましたけれども、三代しか續いて居らぬ。嚴密に言へば二世にして亡びたと云つて宜い。秦の始皇帝は始めの皇帝とあります通り、六國を亡ぼして新に帝統を成して永久に續けるといふ考でありました。一世二世より萬世に傳へるといふ考でありましたから、自分が始皇であつて其次が二世、其次が三世それから五世、六世それからずつと無窮に傳へやうといふ考であつたけれども。無窮所でない、僅か二世で亡びて仕舞つた。是は帝德の全く缺乏した人であつたからさういふ譯。日本の天皇のことは姑く別として、權勢の隆替を考へて見るに先づ注意すべきは蘇我氏の時代であります。

蘇我氏は非常にいけないことをしました爲に三代。入鹿まで入れて四代と云へる。三四代で亡びて仕舞つた。藤原氏の時代は永く續いて五百年以上になつて居りますが、是は鎌足が始を成した。鎌足といふ人は偉い人でありまして、此人が始を成したから其餘德が傳つて藤原氏の時代は五百年以上繼續して居る。其次は封建制度の時代でありますが、是も六七百年の系統を成して居ります。此の始を成した人は源頼朝である。頼朝は非常な偉傑である。頼朝は兄弟を苛めたやうな慘酷な所もありますけども、或方面には良い所があつた。殊に朝廷を尊崇する念が厚かつた。天皇を貴ぶ精神はなか〳〵至れり盡せりで、或時東大寺から頼朝の所に寄附金を募りに來ました時に、手紙に頼朝を稱して君としてあつた。所が頼朝が大に戒めて、君と言ふことは決して云つてならぬ、朝廷に對して相濟まぬぞと言つて大に叱責したといふことがある。此一事を以て見ても分りますやうに、頼朝はなか〳〵勤王の志が厚かつた。其外質素を貴び驕奢を戒め武士道を奬勵し、或る方面に於ては餘程德が具つて居つたやうな英傑であつた。それでありますから六七百年の封

建政治、即ち武家時代の系統を開きました。德川氏の亡びるまでの武家時代の系統は頼朝に始まる。頼朝が覇府を鎌倉に開いてより以來德川氏の亡びるまでは頼朝の結果であります。斯る偉傑に非ずんば六七百年の系統を開くことが出來ない。西洋各國でも其始をなした人は皆非常な偉人であります。例へば獨逸のウキルヘルム第一世が今の聯邦の始めの帝王である。是は明治天皇と比較する程美點の多い人であつた。又米國の合衆國はワシントンといふやうな偉人が開きました。ワシントンは衰世凱とは大分違ふやうである。又露國は固よりペートル大帝より以前に國をなしては居つたけれども、本當に勢力を成したのはペートル大帝からである。ペートル大帝は矢張り偉人であります。それから英國のウキリアム、ゼ、コンケロルも矢張り偉傑であつた。といふことは疑ひない。何處でもなか〳〵偉い人が出て帝王の系統を開き、新なる基礎を立てゝ居るやうな次第である。さういふやうな人でなければ系統が永く續かぬのである。

然るに幸にして日本は國を創めたのが神武天皇のやうな非常な偉大な帝王

でありまして、幾多の小變遷を經て來て居るが、明治の此王政維新といふものは實に非常な日本の大變革であります。建國以來の偉大なる變化であります。此の新日本の始を爲した後に新日本が生れ出でたのであります。此の新日本の始を爲した方は誰である。明治天皇である。明治天皇が此の新日本の始を爲されたといふことは、世界の歴史を達觀した上からして非常な意味がある。實に世界に稀なる、古今に稀なる賢君——斯かる盛德の具つた大帝が明治の新文明の卒先となられたといふことは、日本の將來の爲めに祝福せざるを得ない。日本の將來は實に希望に充ちたる有樣である。斯かる帝王が始を爲さるゝでなければなか〳〵氣遣かはしかつたのである。幸にして非常な稀なる殆ど比類のない、大帝が新日本の始をなされたのである。所が近來は段々、帝室を思ふ心が薄らぐではなからうか、殊に逆徒などの出たやうな次第でありますから、帝室を思ふやうな心が薄らぐではなからうか、危險なる思想が或一部には擴らうとしたのであるからして、どうであらうかといふやうな疑念が多少生じつゝあつた所に、天皇陛下の崩御となりました。所が實

に帝室を思ふ誠意誠心は湧くが如くに起つた。宮城外に於て祈りを捧げた者がどれ丈けあつたか存じませぬが、醫藥の効は迚も充分望まれぬからして、此上は祈りを神佛に捧げるより外仕方がない。祈りを神佛に捧げたならばどれ丈か望があるではなからうかといふので宮城外に於て泣いて天地の神佛に祈りを捧げた者が實に多かつたのであります。是は本當に帝室を思ふ眞心が斯かる際に油然として湧出でて來たので、今まで少しは不心得の者も出來やうとして居つたけれども、此爲に復悉く元の正しい日本の道に立戻つて、本當に忠誠の心を懷くやうになつて來たであらうと思ふ。それのみならず其後明治天皇の靈柩御發引と同時に乃木大將夫妻が自殺殉死をされたといふことが、又非常に世の中を感動せしめたのである。唯日本ばかりでなく、世界各國に影響を與へたことは非常であります。是より先段々忠誠の心が衰へるのではなからうかといふことは、日本ばかりでなく、外國に於ても疑ひを懷いて居つた。殊に明治天皇が崩御になりまして時勢が一變するからには、猶更將來は昔のやうに往くまい。何だか之を機會として變調が生じて來るでは

なからうかといふやうな少し危ぶんだやうな評論が海外の新聞に現はれた。其際に乃木大將が自殺殉死をされたといふことは、海外諸國に強大なる影響を與へたに違ひない。乃木大將は、帝室を思ふ心が非常に厚かつた爲めに一命を捧げて最後まで忠誠を貫き通したのである。さう云ふことを見る以上は、帝室を思ふ心が決して衰へたのでない。なか〳〵日本はまだ〳〵忠誠の心が衰へるどころではない。日本といふ國はなか〳〵與し難い國である。此國はなかなか侮るべからざる國である。命を捨てゝ掛るやうな忠誠の臣民が居つてはどうすることも出來ない。明治の四十五年間の文運といふものは。上に明治天皇の如き稀なる賢君が在らせられ、下には乃木大將の如き純忠の士があり、内には乃木大將夫人の如き貞烈の女子があつて、開拓されて來たのである。世間には無益の小說に耽つたり、社會主義にかぶれたり、無政府主義にかぶれたり、するやうな色々な者があつたけれども、明治年間の神髓骨子となつて居る所のものはなか〳〵質素で、鞏固で、且誠實でありました爲に、日本が斯樣に發展して來たのである。ブラ〳〵して小說や空想に耽つて居る

やうな者の爲めに發展したのでない。さういふものが隨分害をしたであらうけれども、多少の害があつたに拘らず、國運隆々として起つて來たといふのは、明治天皇を中心として日本の神髄骨子を爲して居るものが磐石の如き態度を取つて居つた爲めであります。

思想の系統上より見たる乃木大將

一　乃木大將との交際

乃木大將が夫人靜子と共に大正元年九月十三日を以て自殺殉死されたとは實に內外萬衆の耳目を驚かしたことであるので、大將の人格性行、それから自殺殉死の可否如何等について樣々な論議が紛々として起つて來たが、其等のことは姑く世の新聞雜誌等に讓つて、吾々は玆に特に思想の系統上より乃木大將のことを觀察して、其の精神的方面を明にしたいと思ふのである。併し其の事を論ずるに先つて、吾々が乃木大將と知合ひになつた來歷を初に述て置かう。

丁度明治三十四年の頃であつた。偶々敎育總監部より依賴を受けて、吾々が中央幼年學校に於て武士道に關する一場の講演をしたことがある。其の講演の速記は其後兵事雜誌社より『武士道』と題して發行されたので、定めて多少軍人社會に傳播されたことであらうと察するのである。所が、其後、間

乃木大將

もなく乃木大將が吉田庫三氏と伴れだつて、吾々の私宅へ訪問された。

豫て乃木大將のことは聞いては居つたけれども、未だ曾て知合ひにはなつて居らなかつたのであるが、突然訪問に見えたので、何事の爲であるかは知らぬが、兎に角珍客であるから喜んで迎へて、話を仕始めた所が、乃木大將が曰はれるに、今日は御禮に上がりましたと。さうして又此處に伴れて來たのは、吉田松陰の後繼者となつて居る所の、吉田庫三氏であると、曰うて紹介されたのである。吾々も驚いて、何の爲めの御禮であるか、一寸分り兼ねたのであるが、よく聞いて見ると、彼の兵事雜誌社より發行した『武士道』と題する小冊子を御覽になつて、其れが大將の考と能く合つた所でもあつたか、其爲めに御禮に見えたのである。所が、其の『武士道』と題する小冊子の內容の趣意は、固より武士道全體のことではあるけれども、併し、主として山鹿素行の武士道を力說して、且其の武士道の影響は、赤穗の義士に及び且遠く吉田松陰に傳はつたことが述べてある。丁度乃木大將の豫て尊信せられて居つた所の山鹿素行、吉田松陰といふ此の二人の思想に就いて述べたる講演で

あつたので、そこで能く此の事を述べて呉れたと云ふお積りであつたらうと思ふのである。そこで、實は乃木大將と知合ひになつたのは、矢張り山鹿素行、吉田松陰の思想の系統を紹介した爲めである。乃木大將は特に其の思想の系統に趣味を抱いて居られたのみならず、疾くに其の系統の人となつて居られたのであらう。吾々も曾て其の思想の系統を辿つて一方ならず、趣味を抱いて居つたからして、一場の講演をした譯であつて、茲に吾々と乃木大將と接近する原因があつたのである。其後三十七八年の日露戰役となつて、乃木大將は出征されたので、暫くお目に懸かるやうなことがなかつたのである。

二　乃木大將と素行會

日露戰爭後——明治三十九年のことであつたと思ふが、柳谷謙太郎といふ人から斯う云ふことを、吾々の處に申込まれた。今回の日露戰爭の場合に於ては、勳功ある者は、それ〴〵表彰されたのであるが、能く考へて見れば、古來の武士道が與つて力あつた樣に思はれる。所が、武士道の側から云ふと、

山鹿素行といふ人の感化が決して鮮くないのであらう。それに牛込榎町宗參寺にある素行の墓に參つて見るといふと、どうも、素行の子孫があつても一向祭りもしない樣であるから、此の際自分一個の力で、素行の法會を營みたいからして、贊成をして呉れと云ふことであつた。吾々も大に其の趣意を贊成して、且野村子爵並に乃木大將に此の趣を知らせて贊成を求めたら宜からうと言つた。そこで其の二人に知らせた所が、二人とも贊成の意を表せられて、とう〳〵素行の法會を營むこととなつた。

其歳の六月六日、宗參寺に於て、初めて素行の法會を營んだ時には、野村子爵稲垣萬次郎諸氏は見えたけれども、乃木大將は差支があつて見えなかつた樣に覺えて居るが、なんでも、其日早く獨り馬に乘つて、素行の墓に參拜されたといふことである。それからして、年々九月二十六日卽ち素行の命日には、宗參寺に於て法會を營むことになつて居るので、毎會二三十人の參拜者がある。多い時は四五十人、若くは其れ以上もある。さうして野村子爵、乃木大將は大抵出席された。所が、此の爲めに其後、素行會と云ふものが組

織された。素行會の會長は、松浦伯爵と云ふことになつて居る。これは山鹿素行の子の藤助といふ人が、松浦家に仕へた緣故のある爲めである。さうして、此素行會から段々素行の著書を發行して、世に素行の武士道の敎訓を傳播する計畫である。既に是れまで素行の『孫子諺義』だの、『修身受用抄』だのといふものを發行したが、尙續々其他の著書を發行しようといふ計畫があるのである。初柳谷謙太郎氏が素行の爲めに法會を營むと云ふ考を起したのは、吾々の著はした『日本古學派之哲學』中にある山鹿素行の事蹟學說等を讀んで、山鹿素行の感化の尋常ならざることを識認して、獨力法會を營むといふ考を起した次第である。兎に角、柳谷氏が法會を營み、次いで素行會が組織されて以來、其の爲めに吾々と乃木大將との關係が一層親密になつて來たのである。法會を營む際に、乃木大將と會見したこと屢々であり、又素行會の會合などの場合には、乃木大將は大抵出席されたから、單に會見したといふのみならず、山鹿素行の學問の爲めに、集會して共々に經營する所が、種種あつたのである。それのみならず、毎週一回必ず學習院に於て、乃木大將

と會見して色々話合つたのであるから、乃木大將の精神的方面の事は比較的よく分つて居るやうに考へるのである。

三　乃木大將の思想系統と素行及び松陰

一體長州出身の人の中には吉田松陰の感化を受けて居る者がなか〳〵多い。長州は昔から藩の學校もあつて、隨分學者も出ることは出て居るけれども、併し幕末に於て、吉田松陰が出て、大に精神敎育を施した結果として、有力なる人材が續々出て來たのである。松陰の松下邨塾に於て、敎育を施したのは、僅に二箇年半である。それも山鹿流の兵學を講ずるといふことで、許されたのである。元來松陰の家學は、山鹿素行の系統であるからである。それが、松下邨塾の精神敎育の眞髓骨子であつたと云ふことは、疑はれぬのである。其の精神敎育の結果、高杉東行、久坂玄瑞を初めとし、木戸孝允、宍戸璣、山田顯義、品川彌二郎、野村靖、それから伊藤公爵、山縣元帥等が出て來たのである。吉田松陰の先祖に、吉田友之允重矩と云ふ人があつたが、是

れが山鹿素行の實子の藤助に就いて、兵學を修めたのである。山鹿流の學問では、三重傳と云ふことがある。三重傳とは、兵學の秘訣を三人以上には傳へない。三人傳ふべき者がなければ、一人か二人に傳へる。三人までは傳へて宜しいと云ふ事になつて居る。素行の三重傳に與かつた一人としては、藤助がある。藤助の三重傳に與かつた一人は、卽ち吉田友之允である。其の友之允から數代を經て、吉田松陰となるのである。松陰はなか〳〵熱心なる素行崇拜の人であつた。松陰の書物に先師とあるのは、山鹿素行のことで、吾師とあるのは、佐久間象山のことである。それに松陰は、江戸に來ては、山鹿素水の塾に居られた。これは矢張り素行の子孫である。それから平戸に行つては、山鹿巖泉といふ人の塾に居られたこともある。是れも山鹿素行の子孫であるが、殊に藤助の子孫になるのである。さう云ふ具合に、松陰は東に行つては素水の塾に入り、巖泉の塾に入るといふ樣な具合に、西に行つては、雷に家學が山鹿流であつたと云ふのみならず、素行の子孫とあれば東に尋ね、西に訪うて、尙山鹿流の學問を研究して居られた樣な次第で、なか〳〵熱心

な人であつたのである。それで松陰の著者の中には、素行の著書を敷衍したものがある。例へば『武敎講錄』といふのは『武敎小學』の講義であつて、素行の精神を自分の考で敷衍したものである。さう云ふ樣な譯であるからして、吉田松陰の感化を受けたものは、間接に山鹿素行の感化を受けて居るのである。吉田松陰を崇拜して其の書物を講究する者は、必然に山鹿素行を崇拜する樣になるのである。是れは何うしても其の學問の淵源であるからである。

乃木大將は、矢張り松下邨塾に居られたのである。けれども、直接松陰に習つたのではない。松陰の伯父の玉木文之進が、松下邨塾に於て、子弟を敎育した頃、松下邨塾に居られたさうである。それは、直接乃木大將から聞いたのである。さういふ緣故もあり、旁〻長州の出身で、あゝいふ精神的の人であつたから、深く吉田松陰を尊信して居られたのである。吉田松陰を尊信して居られたから、隨つて其學問の淵源たる山鹿素行を尊信して居られたのである。素行のことは、平生の話の中にも、素行先生と云つて居られた位であ

る。それで乃木大將は、山鹿素行、吉田松陰といふ此の思想の系統に接し、之を繼いで居られた。さうして、其の思想の系統の側に於ては、なか〳〵忠實で堅固であつた。苟も山鹿素行、吉田松陰に關係あることならば、非常な熱心を以て研究された。固より乃木大將の研究されたことは、山鹿素行、吉田松陰といふ此の二人の著書に限つたことではない。さう狹い學問ではないけれども、兎に角、素行と松陰とは乃木大將の尊信して居られた思想の系統として、唯一のものであつて、其他は、之れを補助する樣なものに過ぎなかつたかと思はれるのである。其以外の學派に對して、餘程趣味を有つて居られたのは、水戸學派であつた。水戸は義公を初として、安積澹泊、栗山潛鋒、三宅觀瀾、藤田東湖、會澤正志齋などの著書を愛讀されたのである。それから、又楠公を大變に尊信して居られたことは、是は明なことである。苟も楠公に關する古寫本とか、古文書とか云ふものがあれば、必ず借りて來て、熱心に研究されたのである。が、何うしても、乃木大將の思想の中堅となつて居つたものは、素行、松陰の系統であると云ふことは、是れは斷言して差支へ

ないのである。

四　乃木大將の著書と出版物

乃木大將は、是れと云ふ纒まつた著書はないが、併し、特に自分の意に適つた書物の出版になつて居ないもの、若くは、出版になつて居つても、非常に稀になつて現在得難いやうなものは、自分で其れを活版、若くは石版摺などにして、知友に頒たれたのである。其中には、山鹿素行、吉田松陰の書物が一番多いのである。例へば、素行の『中朝事實』は是れは嘗て上木されたものであるけれども、其の本は殆ど傳はらぬで、多くは寫本で傳はつて居つたが、乃木大將が、其れを活版にされた。所が、折角活版にして配られたけれども、無點である爲めに、餘り人が讀んで呉れない。それから素行の『武敎小學』、『武敎本論』なども活版にされた。それから、吉田松陰の著書としては、『孫子評註』、『武敎講錄』などを、活版にされた。『武敎講錄』の版本はあることはあるけれども、今は少いから、それで版にされた。『孫子評註』も版本

がないことはないけれども極く少くないのである。是れはマア幾らか山鹿素行の『孫子諺義』を祖述したものと見えて『先師曰』といふことがある。『孫子諺義』と『孫子評註』とは、是れは學者は固より、軍人などは愛讀すべき書である、孫子は矢張り昔から註解が澤山あるけれども、唯漢學者の註解といふだけで、意味を理解するには、其れで宜いけれども、兵學者の註でない爲めに、聊か遺憾に感ずる所があるのである。所が素行、松陰みな兵學者である。兵學者として孫子の註解をしたと云ふことは、なか〳〵趣味の多い點である。さう云ふこともあるものだからして、乃木大將は此の『孫子評註』を松陰の書いた通りに石版にされたのである。誠に結構な書物である。其外乃木大將が版にされたものには『國基』と云ふのがある。此の『國基』と云ふ書物は、國體のことを論じたもので、紀維貞といふ人の著したものである。此の書物は、版本であるけれども、非常に少いもので、吾々が一部所藏して居つたから、或時乃木大將に見せた所が、非常に珍重されて、とう〳〵版にして知友に配られたのである。それから、長谷川昭道の『九經談總論評說』

と云ふのを版にされた。是れは國體のことを論じた書物であるから、それで版にされたのである。其外、まだ二三の書物があつた樣に思ふ。明治四十五年に至つて、安積澹泊の『大日本史論贊』といふ書物を、乃木大將に見せた所が、是れ亦非常に愛讀されて、さうして、又他人からも異本を借受けて、彼れ是れ參酌して研究して居られた。それのみならず、是れは一つ版にしたいと思ふと、云ふことを話されたので。吾々も、其れは至極結構でありませうと言つて、贊成して居つた。併し、とう〳〵それは版にする機會がなくして、彼のやうなことになつたのである。

それから、乃木大將が版にされるのは、皆自分の經費でされるのである。さうして非賣品として、數百部を製本さして、之れを知友に配付されるだけのことであつて、別段書林に託して、發賣させると云ふことはしないのである。苟も國體を發揮し、國運を裨補するに力ありと見るやうな古人の著書は經費を惜まず、印刷に付して、心當りの人に贈つて、國民道德の普及を企圖された次第である。それで、是れと云ふ著書はないにしても、マア其等の印

刷されたものが、著書に代はるやうなものであつて、乃木大將の精神は其等の著書の精神と一致して居る譯である。

五　乃木大將と宗教及び德教

尙宗教德教といふ廣い立場からして、乃木大將の精神のある所を明にすることが必要であらうと思ふ。先づ儒教に對して何う云ふ考を有つて居られたかといふと、實は儒教は餘り尊崇して居られなかつたのである。或人が孔子祭典會に入會を勸めたけれども、何うしても入會されなかつた。何處迄も日本の神道を尊ばれたのである。神道に對しては、中々の趣味を有つて居られた。さうして神社などにも參拜される。又神道に關する著書は、熱心に講讀された。何處迄も日本中心の考であつた。是れは素行、松陰の學問が其れであるからして怪むに足らぬ。殊に『中朝事實』に現はれて居る精神と同じであつた。さう云ふ譯であるから、乃木大將に取つては、神道が唯一の宗教であつて、儒教の如きは一向尊ばれぬ。マア大して反對ちやな

いけれども、儒教よりは神道で、矢張り支那よりは日本と云ふ樣な處が、大に乃木大將の精神上に勢力を占めて居つたのである。それから佛教なんと云ふものに對しても、同情はない。全く無いと言つても宜い。無いと云ふより嫌ひであつた樣である。或人が、乃木大將の嫌ひなものが三つあるといふことを曰つて居る。何であるかと云うと、一は坊主、二は商人、三は女である と斯う云ふことである。それは直接乃木大將からは聞かないけれども、どうも然うの樣に思はれる。商人は利を射るものであるから、そこで嫌ふ。乃木大將は利慾の念は毛頭なかつた。それで商人の如きは、非常に嫌はれた。それから耶蘇教なんと云ふものも、嫌ひであつた。是れは佛教よりも一層嫌つて居られた樣に思はれる、畢竟日本中心と云ふ精神で、尊ぶ所ろは唯神道のみである。もう一層嚴密に言ふならば、其の尊信される所は、神道の神々と、それから天皇である。其處に乃木大將の信仰があつた。宗教がないぢやない。其れが乃木大將の宗教であつた。學問は、素行、松陰の系統であるが、素行、松陰の學問が矢張り其れである。だから、其處に矛盾は少しもない。さうして乃木大將はさう云ふ見解を固く取つて、なか〳〵動かなかつたのである。何處迄も、それを固守して行くと云ふので、いろ〳〵な新い說などを容れると云ふやうな餘裕はなかつたのである。

六　乃木大將と文藝

乃木大將の思想の系統は、一通りお話したが、尙其他の點に就いて、少しく吾々の見る所を附加へて置かう。乃木大將は、なか〳〵勳功赫々たる武將であつたが、それに拘らず、亦文藝の嗜みもあつた。詩を作り、歌を作り、書を書き、文を作ると云ふやうなこともあつて、なか〳〵さう云ふ方面にも長けて居られた。但し、言葉の寡い方で、演說のやうなことは、減多にされない。公開講演なんと云ふことは、餘り好まれぬ。嘗て松陰の五十年祭を營んだ時に、いろ〳〵な人が、松陰に就いて演說をしたが、斯かる場合には、乃木大將は何うしても出席されぬければならぬ。松陰崇拜の人であるから——けれども、演說はされない。松陰の『士規七則』と云ふものを朗讀して演

説に代へられたのである。併し、演説が決して出來ないと云ふ樣な方ではない、曾て或處で、時鳥の啼聲を喩に取つて、非常に趣味ある演説をされて聽衆をして、感動せしめられたと云ふことである。けれども、どちらかと云うと、マア不言實行の人で、なか〳〵質素にして且つ謙遜で、職務に忠實であつた。さうして、一命を捧げて君國の爲めに盡すといふ、此の誠意誠心あるのみである。そこらが、乃木大將の人格の高潔にして萬衆に卓越した點である。

七　乃木大將の殉死

乃木大將の自殺殉死をされた其の動機は、彼の遺言狀で以て明白である。且辭世の歌に能く其の趣意は表はれて居る。先帝の御信任が非常に厚かつたのである。乃木大將が學習院の院長になられた時に、斯う云ふ御製がある。

いさをある人を敎の親として
おほしたてなむ大和なでしこ

是れで、如何に御信任の厚かつたかと云ふことが分るのである。乃木大將は、もう十年の戰爭以來、幾たびか命を棄てようと覺悟したのであるが、先帝が崩御になられてからは、是れが最も適切なる自殺の時期であると、考へられたものと思はれる。是れ迄御信任の厚きが爲めに、貴族の敎育に鞠躬盡瘁して居られたけれども、先帝が崩御になられたに付いては、非常な力落しで、もう此上は、生きながらへて居る甲斐も少く、イツソ先帝に殉死した方がましである、といふ考になられたに相違ない。御陵には、土偶などを造つて容れると云ふことになつて居る。所が、乃木大將は自分の自由意志によつて、私が御供を致しますと云ふやうな考で、殉死されたので、少しも他の揣摩臆測を挾むの餘地を、存してゐないのである。乃木大將の動機は、洵に純然たるもので、其の誠意誠心は實に一世を震撼するに足るのである。

乃木大將の最後は、誠に悲慘であるけれども、乃木大將自身に取つては、あの樣な花々しき最後が、其の希望する所であつたのである。あゝいふ最後

でなければ、乃木大將も乃木大將たること能はずである。其の精神の方から言ふと、天晴なる最後であるからして、實は祝つてやりたい位のことである。乃木大將は曾て片瀬の水泳の時に、耳を傷められて、それが隨分重患となつて、赤十字病院に數箇月靜養されたが、其時に餘程無聊を感せられたと見えて、斯う云ふ詩がある。

臥蓐安閑五十日。　不關人世幾波瀾。
玻璃窓外風多少。　落葉無聲秋雨寒。

其時乃木大將は、餘程能く養生されたのである。軍人であるから能く醫者の命令を守りて、とう〳〵全快されたのである。あの時に若し不歸の客となられたならば、それは餘程遺憾千萬であつたであらう、乃木大將に取つては、耳の病氣などで、病院に於て歿するなんといふことは、誠に心外であつたであらうと思はれる。といふは豫て、どうも空しく疊の上に於て、病歿するやうなことがありはしまいかなど、言つて話して居られた位であるので、當り前の死樣では、迚も往生は出來なかつたのである。其處を考へて見ると、大

將自殺殉死は、もう覺悟の前であつて、自身の希望する通りに實行されたのである。さうして、又最も信任を辱なうして居つた、先帝の御供をして參ると云ふことは、是れは、もう乃木大將の最も滿足に感せられる所であつて、是れで、往生が出來るのである。世間では、或は乃木大將は憤死されたと抔いふことも、言つて居るけれども、決して憤死ではないと思ふ。固より平生は世間のことに就いて、隨分憤慨された樣なこともあつたけれども、自殺殉死の動機は、決してさういふ憤慨と云ふやうなことではなかつたと思ふ。さう云ふ憤死なんと云ふことより、モット公明正大なる眞心の結果であると、斯う見るのが、乃木大將の眞相を得た見解である。中には、又乃木大將の自殺殉死は、武士道の發揮であつて、甚だ狹隘なる考に出たものである、武士道は、德川時代の武士と云ふ、特別の階級間に發達した道德であつて、今日一般の人がやるべきことでない、と。隨つて乃木大將の自殺殉死なんと云ふ事も、賞讃するに足らぬと云ふやうなことを、言つて居る人もあるけれども、其等は何うも當を得て居らぬと思ふ。武士道と云ふものは、何も德川時代に

初めて起つたのではない。徳川時代に於ては成程武士の階級に限られて居つたけれども、其効用は決して然う狹隘なるものと、見るべきものではない。徳川時代では、武士の階級が、一番健全で、且純粹であつたからして、それが明治以後に於ては、一般の人に矢張り必要なる道德となつて遺つて居るのである。明治以後は、全國皆兵であるからして、何も武士といふ階級に限つたことはない。士農工商なんと云ふ區別なく、國民全體が武士道の精神を發揮して行くべきである。武士道に就いては、いろ〳〵世間には誤解がある。能く研究しないで、勝手な批評をするが爲めに、間違ひが多いのである。中には、又乃木大將の自殺殉死は、餘り壯烈なる仕方であつて、普通の者が眞似することが出來ないから、賞讃を値しないと云ふやうなことを言つて居る。さう云ふのは、亞米利加かぶれの思想の者が、言ふことである。さうして、其れが、耶蘇教徒であるから尙妙である。耶蘇のやつたことは、普通の者は迚も、過激で眞似が出來ないけれども、耶蘇教徒は、其の耶蘇を本尊として行居るのである。乃木大將のやつたことも、それは普通の人が眞似すること

が出來ないけれども、其の精神のある所を酌取つて、其れに依つて自己の精神と行爲とを律して行くと云ふことは、出來るのである。さうして或境遇に於ては鞏固なる態度を取つて、壯烈なる最後を遂げるなんと云ふことも、已むを得ぬかも分らぬ。やはり乃木大將の其の壯烈なる最後は、實に鬼神をも泣かしむると云ふ樣な所があつて、其の精神に於て、大に賞讃すべきであると云ふことは、到底否定すべきでなからうと思ふ。

一體に自殺殉死等のことに就いては、尙他日取纒めて詳しく論ずることに致すであらう。今回は乃木大將の思想の系統を明にすることを主とし、且それに大將の人格性行に對する感想を附加へて、お話するといふ位に止めて置くのである。

仰ぎ見れば心もそらにさへ渡る
朝日てりそふ富士の神山

乃木大將

現代哲學界の泰斗ヴンント

一　實驗心理學の開祖

現今歐羅巴の哲學者中ではベルグソンだのオイケンだのを最も有名なものとして、殊にこの二人を世間で持囃して居るやうだけれども、而も哲學專門の人々から言へば、兩者以外尙ほ有力な者は少くない。キンデルバントとかヘフデングとか云ふやうな人々がある。リップスなどもやはり有力な哲學者の一人であるが、就中その尤なるものは、余の茲に說かんとする獨逸ライプチッヒのヴント (Wundt) 氏である。

氏は今(大正三年)を距る八十二年前卽ち一八三二年八月十六日、獨逸バーデンのネッカラウといふ處に生れた。されば今は旣にプラトーンやカントの年齡を越えてゐる。日本の數へ年で言へば八十二歲になるわけである。それでも尙ほ矍鑠としてライプチッヒ大學で講義を繼續してゐる。學生としてのヴント氏の經歷は、一八五一年以來ハイデルベルヒに於て、チユービングンに

於て、將た又ベルリンに於て醫學を研究した。而して一八五七年齢二十六歳にして始めてハイデルベルヒ大學の私敎授として講義を始めた。更に一八六五年に至つて員外敎授となり、一八七四年にはツーリヒに赴いたが、その翌年には敎授としてライプチッヒ大學に招聘され、該校で實驗心理學の研究室を創設した。爾後大に實驗心理學の研究に從ひ、次でその結果を世に公にして、次第に聲譽隆々として揚つた。寔に近世心理學の泰斗にして、實驗心理學を大成した人は、ヴント氏その人であると言ふべきである。尤もライプチッヒ大學に於ては、既にヴント氏に先立つて、フエヒネル氏が精神物理學を建設したのである。フエヒネル氏は元來物理學の敎授であつたが、不幸にして兩眼を損ひ、爾後精神科學に轉じ、卽ち從前の物理學の素養を以てして精神物理學を建設したのである。されば實際は既に氏がヴント氏に先立つて實驗心理學の研究を開いたと言ふべきである。併しながらフエヒネル氏の事業を繼續して、更に大に實驗心理學の道を開拓して行つたのは、卽ちヴント氏の動功である。而も氏は嘗に先輩の事業を繼承したばかりではなく、更にそ

の規模を宏大にし、その道を闡明して行つた。さういふ意味から言へば、ヴント氏こそ斯道の開祖とも言ひ得るし、之に對して、曩のフエヒネル氏は遠祖と稱するを可とする。實際ヴント氏に依つて實驗心理の研究室が創設され、器機なども造られたからして、爾後各國とも之に倣つて實驗心理の研究室を開設するもの相踵いだのである。又斯の如くして實驗心理學は益々進歩の域に向つたのである。

二　オイケン、ベルグソンよりも

ヴント氏のライプチッヒ大學敎授たること實に四十年、その間他校から招聘の交渉を受けたこともあつたと思ふが、而も氏や實に同大學の重鎭である。學校でも他へ行かないやうに取計らつてゐるやうであるし、氏自身も拒絶して以て今日に及んで居るものと記憶してゐる。

ヴント氏の學生としての研究は醫學であつて、始めハイデルベルヒに講義をしたのは生理學であつた。それが後ライプチッヒに招かれた時は心理學を講

ずることになり、次第々々に精神科學の方面に移つて來た。されば生理的心理學の他にも、尙ほ論理學、倫理學、哲學系統の書などを著はし、民族心理學の著述もあるなど、種々の方面に亘つて研究の結果を世に公けにしてゐる。古來哲學の大組織を立てたものは少なくないが、最近時代に於てはやはりヴント氏を推さゝるを得ない。而も現代に於て衆人よくベルグソン、オイケンを持囃してゐるが、やはり確かりした哲學の大組織を立てたといふ點では、現代の誰人もヴント氏に及ぶものはないと言ひ得られる。

三　家の中にブランコ

吾々の曾て打見たところでは、どうもヴント氏は餘程體が薄弱であつたやうに思はれる。どうも壯健な生理狀態とは思はれなかつた。明治十八年の交、吾々は親しくヴント氏に就て敎を受けたが、それも回顧すれば三十年の昔である。その當時ヴント氏は之といふ病氣もなかつたが、見かけは餘り强さうな體の人とは思はれなかつた。併しながら氏はなか〳〵の衞生家である。元

元醫學をやつた人であつて、その方面の智識の多大であるため、衞生上の注意は怠られない。尤も醫者の不養生などの說もあるが、わがヴント氏に至つては實に用心深い。それに就ては余の驚いた一逸事がある。余が獨逸に於て始めてヴント氏の家を訪れ、家の中に入ると入口の右手の室にはブランコが具へてある。恐らくは氏が研究の暇々に體の運動を計られたものであらう。余は歐洲に於て種々の學者の宅を訪うたことがあるが、家の中にブランコを用意してあるのは、唯一ヴント氏あるのみと思ふ。

既に述べた如く氏は數へ年の八十二歲であるが、決して老耄て居ない、依然として元氣で大學の講座に臨んでゐる。唯、近來は音聲が從前のやうに高くないと聞く。また余などの接する手紙のペンの跡も以前と違つて少々震うた處があるやうだが、それも極く些少で、やはり壯健で居られる。併しそれも性來はさう强健ではなく、全く節制の結果と言はざるを得ないと思ふ。

四　注意深き生活法

カントの如きも本來虛弱の身體を有しながら、その自分の體を殆ど哲學研究の機關のやうに見做し、無理をせず且つ最も有效に利用したゝめ、案外にもその弱い體で八十歳の長壽を保つことが出來たのである。凡そ歐洲に於ける古今哲學者中で八十歳まで生きたカントは珍らしい方である。然るにヴント氏は既に八十歳を越え、この上尙何年生きるか分られない。この點に於て氏は確かにカント以上である。

ヴント氏の生活が最も規則正しいことも感服に堪へない。何時から何時までは何をすると、キチンと豫定が出來てゐるものと見える。この點もカントと對比される。カントは最も規則正しい人で、彼が運動に行くのを見る人は、それに依つて時間を知つた。時計は狂ふことがあるが、カントの出掛けて來る時間に間違はない、實に時計以上の正確だと傳へられた。所が同じ噂がまたヴント氏の生活に就ても語られて來た。氏がある場所を歩く時間はキチンと定つてゐて、寸分の間違がない。外出する時間なども最も正確だとの噂である。恐らくはかゝる點が餘程ヴントの成功を致した所以であらう。

五　孔子を推奬するヴント氏

それに就てはまだ〳〵吾人の私に感服してゐる點がある。ヴント氏はさやうな世界的の大家でありながら、寔に襟度宏量の人である。局量狹小といふやうなことは、氏に於て痕迹だもない。それに就てはいろ〳〵例證がある。氏はわが孔子などに就ても大に敬意を表するを惜まない。『東洋には古來立派な孔子の敎がある。さやうな敎に從つて行けば道德の效果は寔に十分であらう』などと言はれたのを記憶してゐる。之に反して歐洲の狹量な學者などになると、孔子などはロク〳〵研究もしないで、頭からケナしてかゝるものだが、ヴント氏に於てはなか〳〵さうでない。從つて氏はまた後進の學者を敢て輕蔑するやうなことはない。寧ろ之を愛撫し扶掖するなど、その溫和親切な態度は、吾人十分に之を認める。つまり氏には仁者の風格がある。この點は大に稱揚すべき所であると思ふ。

併しながら一度學問上の問題になれば、寸毫も假借する所はない。その判

斷は最も嚴肅にして、尋常一樣ではない。私邸に於ける氏は打寛いで春風座に滿つるの感があるが、一度講座に立つて講義を始められゝば、その態度は嚴格肅正にして、批評鋭及の如くである。講義もまた上手であるが、それは巧妙に辯舌を弄すると云ふのではない。飽迄も嚴肅な學者としての態度は失はないのである。且つ自己の研究を本として、微より細に亘つて事理を闡明し行くところに、何とも言へない、興味があり趣味がある。決して學生をして倦ましめない。譬へば氏は十分の力を保有して、聽者の心理をよく把握し、魅了し、また他へ逸れるの餘裕なからしめるものゝやうである。而もその間、稀に皮肉らしい言葉を挾むけれども、本人は決して笑はない。何所迄も嚴肅な態度である。さればその批評を聞く學生の方では笑はずに居れないのである。例へば哲學史の講座に際し、ガスの發明を說くのにガスと名附けたのに何の理由もない。ガスは唯ガスと名附けたのみといふ、そのガスといふ口調に面白味がある。氏の講堂はいつも滿員立錐の地なき有樣である。是れは氏の名聲が世界の學界に轟いて居る爲だとはいへ、またその講義振が如何にも

趣味があり有益であり、明瞭であるのに歸する。凡そ獨逸に限らず、何所の哲學教授でも講義の不明瞭といふことはよくある例だが、併しわがヴント氏に至つては一點朦朧の箇所がない。瑞西の湖水の如く澄徹して居る。洵に天晴なる講義振である。

六　現代哲學の唯一人

ヴント氏が哲學者としての長所は、まづ自然科學に通曉して後、大に精神科學を研究し、この兩方面を參酌して公平にして周到な見解を立てる所にある。凡そ自然科學を研究するものは兎角精神科學に疎に、精神科學に傾くものは自然科學に淺いと言ふのが、一般哲學者の通弊である。既に往昔に於てもアリストートル、ライプニッツを始め、近くはカント、ロッツエのやうに、この兩面を併せ究めたものはないではないが、而も同じ自然科學とは言ふものの、今の自然科學は最も複雜であつて、年を追ひ月を經るに從つて尙ほ複雜になりつゝある。然るにわがヴント氏に至ると、餘程よくそれを咀嚼して斷

えず哲學問題の解決に努力してゐるなど、實にヴント氏獨得の長所であり、また氏がよく人々の信用を博し得る所以である。而もカントその他古來の諸大家の見解を侮ることなく、常にそを回顧し、自然科學と相對比し、正當なる歸着點を示す點は、他の哲學者の難しとする所である。併しながらヴント氏の主張はもとこれ社會人心に驚異を與へるものではない。鬼面以て人を脅かし、强て異を樹て奇を衒ふものではない、敢て社會萬衆を驚嘆せしめる底のものではない。由來ニイチエ、トルストイの如き極端奇矯な言辭は、大に世に迎へられもするが、それは尙ほ劇藥のやうなもので、一方から言へば甚だ危ない。反對に、ヴント氏のものは如何にも着實穩健ではあり、又公平であり、有益である。見識ある人々にさもこそと首肯かれる所以である。今後の哲學は姑らく措き、現代に於ては、如何なる哲學者も彼に匹敵することは出來ないと斷言して憚らない。吾人は曾て氏に就て學び、思想上に於ても氏に影響された所は尠少ではない。私に氏に對しては平素感謝の意を表してゐる一人である。

余が記憶に存せる二三の英國人

一　サンメルス氏

今の東京帝國大學の前身たる開成學校時代、それから引續いて東京大學時代に於ける英國教師の中で、余の親炙した二三の人に就いて記憶して居る處を述べて見よう。劈頭第一記憶に浮ぶのは開成學校時代の教師たるサンメルス氏である。この人は明治六年十月八日より同九年八月三十一日まで在職して凡二年十ケ月、まア一寸三年間在職したのである。余はこの人に歴史文學などを教つた。このサンメルス氏は中々博學の人で餘程文學の趣味があつた。加ふるに多少支那文字に通じてゐた。氏の出版したフエニッキスといふ雜誌がある。それは重に支那を中心として東洋の事を記載した雜誌である。さういふ雜誌を發行するやうな人で、中々文學の才があつたのである。授業法に就いては別にこれぞと云ふ特色もなかつたやうだけれども、さう云ふ文學趣味のあつた人であるから其の教授も面白く感せられた。文學者といふものは